鹿児島大学リポジトリ
Kagoshima University
Repository

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報13： 平成9年度

雑誌名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
巻	13
ページ	1-96
発行年	1999-03
URL	http://hdl.handle.net/10232/00031507

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
13

平成９年度

〒890 鹿児島市郡元一丁目21番24号
鹿 児 島 大 学
埋 蔵 文 化 財 調 査 室
TEL０９９－２８５－７２７０
FAX０９９－２８５－７２７１

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

1999年３月

序

平成9年に国分市の上野原遺跡が発掘され，縄文最古の集落遺跡として脚光を浴びましたが，鹿児島大学のキャンパス内にも縄文時代，弥生時代および古墳時代以降の多くの貴重な遺跡が埋没していることが，鹿児島大学埋蔵文化財調査室の長年の発掘調査の努力によって，次第に明らかにされてまいりました。そして，これ等の研究成果は，埋蔵文化財調査室年報（Vol. 1～12）として逐次報告してきました。

さて，ここに平成9年度の調査結果の報告として，鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 Vol.13 が纏められました。平成9年度には，郡元団地(地区)で発掘調査1件，桜ヶ丘団地（地区）において試掘調査1件，郡元団地で立会調査5件が行われ，それ等の研究成果が掲載されています。また，付編として，郡元団地H-11区で発掘された木製の遺物の紹介があり，更にこの木材の樹種鑑定の結果も報告されています。また，今回の報告では，郡元団地内に縄文時代中期の土器や石器，装飾品などの遺物を包含する層の確認がなされ，弥生時代には水田も作られていたようで，古代人の生活の一端を伺い知る，古代へのロマンをかきたてられるような成果の概要が報告されています。

いま，キャンパス内では研究，教育の発展に伴って数多くの建物の建築が行われ，それに先立って必ず埋蔵文化財の発掘調査が行われています。しかし，鹿児島大学の規模の総合大学としては，年々増え続ける発掘調査や埋蔵物に対する研究体制が十分とは言えないのが実状です。また，従来の埋蔵文化財調査委員会の委員長が指摘されてきましたように，これまでの出土品の量は膨大なものとなり，その保管場所の確保も困難を究めております。これ等の貴重な埋蔵文化財の研究，保管，展示の行える施設の実現について，重ねて各学部のご理解，ご協力をお願いする次第です。

平成11年3月

埋蔵文化財調査委員会
委員長　塚原潤三

例　言

1. 本年報は鹿児島大学構内において，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成9年度に行った調査活動の成果をまとめたものである。なお，郡元団地 H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査出土木器の報告を付編として掲載した。

2. 本書に掲載している発掘調査及び立会調査は，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。また，付編2には鹿児島大学農学部藤田晋輔教授・寺床勝也助手に依頼した木器の樹種同定の報告を掲載している。個々の調査の担当者は各章の調査報告に記述した。調査における図面・写真の担当は以下のとおりである。
2：大西智和・鮎川章子・新原和子，3：中村直子・大西

3. 本書の作成にあたっては，埋蔵文化財調査室が行った。遺物の実測の担当は以下の通りである。
3：鮎川，付編：大西・鮎川・新原
製図は鮎川・大西が担当した。写真撮影は大西・鮎川が行った。
執筆は1を中村が，2を大西が，3を鮎川が，付編1を大西・鮎川が行った。編集は中村・鮎川・大西が行った。

4. 郡元団地C-8区の木器に関しては，中園聡氏，西中川駿氏のご教授・ご協力を賜った。

5. 発掘調査による遺物の保管は，埋蔵文化財調査室の管理の下，各学部，部局が収蔵している。また，図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡　例

1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として，鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は以下のようである。

(1) 郡元団地では，国土座標第2座標系（X＝-158.200，Y＝-42.400）を基点として一辺50 mの方形地区割りを行った（Fig.3 参照）。

(2) 桜ヶ丘団地では，国土座標第2座標系（X＝-161.600，Y＝-44.400）を基点として一辺50 mの方形地区割りを行った（Fig.4 参照）。

2 本年報において報告を行った調査地点については，一部の立会調査地点を除き，Fig.2～Fig.4 にその位置を記している。

3 本年報におけるレベル高はすべて海抜を表し，方位は真北方向を示す。

4 本書で使用した遺構の表示記号は以下の通りである。
SK：土坑　SD：溝状遺構　P：ピット　RI：河川跡

5 2・4・付編で使用した土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

6 遺物については観察表を作成した。その表記，表現については以下の通りである。
色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し，この色調に当てはまらないものについては，「～に類似」と表記した。
胎土：粒子の大きさで礫（～3㎜）・粗砂粒・砂粒・細砂粒・微細な砂粒に分けた。また，砂粒の種類については，特定できないものはその色調で表記した。
法量：復原による法量は，（　）をつけた。

7 本文中の遺物番号は，挿図，図版，遺物観察表と一致させた。

本文目次

序
例　言
凡　例
本文
1　平成９年度調査の概要 …… 1
1.1　鹿児島大学構内遺跡の立地と環境 …… 1
1.2　調査概要 …… 1
2　桜ヶ丘団地G-7区（医学部校舎建設予定地）における埋蔵文化財試掘調査 …… 6
2.1　調査に至る経過 …… 6
2.2　調査体制 …… 6
2.3　調査の経過 …… 6
2.4　層位 …… 6
2.5　まとめ …… 7
3　立会調査 …… 8
鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項 …… 10
受贈図書目録 …… 12
付編１　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介 …… 23
1　遺構・出土遺物の概要 …… 23
2　木製遺物の出土状況 …… 23
3　木製品 …… 23
4　木杭 …… 28
5　まとめ …… 57
付編２　出土木材の樹種鑑定に関する報告 …… 64
1　はじめに …… 64
2　観察方法 …… 64
3　観察と考察 …… 6

挿図目次

Fig.1　鹿児島市の位置 …… 1
Fig.2　鹿児島大学構内遺跡の位置 …… 3
Fig.3　郡元団地構内図　S=1/4000 …… 4
Fig.4　桜ヶ丘団地構内図　S=1/4000 …… 5
Fig.5　トレンチ配置図　S=1/500 …… 6
Fig.6　１トレンチ層位断面図　S=1/60 …… 7
Fig.7　97-A・B調査地点　S=1/2000 …… 8
Fig.8　97-A出土遺物　S=1/3 …… 8
Fig.9　97-B層位柱状図 …… 8
Fig.10　97-E 調査地点 …… 9
Fig.11　97-E層位柱状図 …… 9
Fig.12　河川跡および木製遺物出土位置　S =1/150 …… 24
Fig.13　木杭出土位置　S=1/60 …… 25
Fig.14　木製品　S=1/4 …… 27
Fig.15　木杭（１）　S =1/8 …… 29
Fig.16　木杭（２）　S =1/8 …… 30
Fig.17　木杭（３）　S =1/8 …… 31
Fig.18　木杭（４）　S =1/8 …… 34
Fig.19　木杭（５）　S =1/8 …… 35
Fig.20　木杭（６）　S =1/8 …… 37
Fig.21　木杭（７）　S =1/8 …… 39
Fig.22　木杭（８）　S =1/8 …… 41
Fig.23　木杭（９）　S =1/8 …… 42
Fig.24　木杭（10）　S =1/8 …… 45
Fig.25　木杭（11）　S =1/8 …… 47
Fig.26　木杭（12）　S =1/8 …… 49
Fig.27　木杭（13）　S =1/8 …… 50
Fig.28　木杭（14）　S =1/8 …… 52
Fig.29　木杭（15）　S =1/8 …… 53
Fig.30　木杭（16）　S =1/8 …… 55
Fig.31　木杭（17）　S =1/8 …… 57
Fig.32　木杭（18）　S =1/8 …… 60

表目次

Tab. 1　平成９年度調査一覧表 2
Tab. 2　出土遺物観察表 9
Tab. 3　木杭観察表（１） 28
Tab. 4　木杭観察表（２） 32
Tab. 5　木杭観察表（３） 33
Tab. 6　木杭観察表（４） 38
Tab. 7　木杭観察表（５） 40
Tab. 8　木杭観察表（６） 42
Tab. 9　木杭観察表（７） 43
Tab.10　木杭観察表（８） 44
Tab.11　木杭観察表（９） 46
Tab.12　木杭観察表（10） 48
Tab.13　木杭観察表（11） 51
Tab.14　木杭観察表（12） 52
Tab.15　木杭観察表（13） 54
Tab.16　木杭観察表（14） 56
Tab.17　木杭観察表（15） 58
Tab.18　木杭観察表（16） 59
Tab.19　木杭観察表（17） 61

図版目次

PL. 1　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介1 75
1　鍬1　　2　容器3
PL. 2　桜ヶ丘団地G-7区における試掘調査 76
1　調査地点全景　2　2トレンチ完掘状況　3　1トレンチ完掘状況
4　1トレンチ北壁　5　調査終了後全景
PL. 3　立会調査１ 77
1　97-A（同窓会館．記念館西側）調査地点　2　97-B（農学部連合農学大学院建
物西側）調査地点　3　97-E（ｃ地点）調査地点
PL. 4　立会調査２ 78
1　出土遺物（表）　2　出土遺物（裏）　3　出土遺物（側面）
PL. 5　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介２ 79
1　鍬　　2　容器３
PL. 6　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介３ 80
1　用途不明品4　2　用途不明品5　3サルノコシカケａ　4　用途不明品 b
PL. 7　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介４ 81
1　木杭 6　2　木杭 7　3　木杭 8
PL. 8　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介５ 82
1　木杭 9　2　木杭 10　3　木杭 11　4　木杭 12
PL. 9　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介６ 83
1　木杭 13　2　木杭 14　3　木杭 15　4　木杭 16
5　木杭 17　6　木杭 18　7　木杭 19　8　木杭 20
PL.10　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介７ 84
1　木杭 21　2　木杭 22　3　木杭 23　4　木杭 24
5　木杭 25　6　木杭 26　7　木杭 27　8　木杭 28
9　木杭 29
PL.11　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介８ 85
1　木杭 30　2　木杭 31　3　木杭 32　4　木杭 33
PL.12　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介９ 86
1　木杭 34　2　木杭 35　3　木杭 36　4　木杭 37
5　木杭 38　6　木杭 39　7　木杭 40　8　木杭 41
PL.13　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介10 87
1　木杭 42　2　木杭 43　3　木杭 44　4　木杭 45
5　木杭 46　6　木杭 47　7　木杭 48　8　木杭49

PL.14　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介11 88
1　木杭 50　2　木杭 51　3　木杭 52　4　木杭 53
5　木杭 54　6　木杭 55　7　木杭 56　8　木杭 57
PL.15　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介12 89
1　木杭 58　2　木杭 59　3　木杭 60　4　木杭 61
5　木杭 62　6　木杭 63　7　木杭 64　8　木杭 65
9　木杭 66　10　木杭 67
PL.16　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介13 90
1　木杭 68　2　木杭 69　3　木杭 70　4　木杭 71
5　木杭 72　6　木杭 73　7　木杭 74
PL.17　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介14 91
1　木杭 75　2　木杭 76　3　木杭 77　4　木杭 78
5　木杭 79　6　木杭 80
PL.18　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介15 92
1　木杭 81　2　木杭 82　3　木杭 83　4　木杭 84
5　木杭 85
PL.19　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介16 93
1　木杭 86　2　木杭 87　3　木杭 88　4　木杭 89
PL.20　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介17 94
1　木杭 90　2　木杭 91　3　木杭 92　4　木杭 93
5　木杭 94　6　木杭 95　7　木杭 96　8　木杭 97
9　木杭 98　10　木杭 99　11　木杭 100
PL.21　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介18 95
1　木杭 101　2　木杭 102　3　木杭 103　4　木杭 104
5　木杭 105　6　木杭 106　7　木杭 107　8　木杭 108
PL.22　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介19 96
1　木杭109　2　木杭110　3　木杭111　4　木杭112
5　木杭113　6　木杭114　7　木杭115

1 平成9年度調査の概要

1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は，薩摩半島東岸部のほぼ中央に位置する。鹿児島市は，東側の湾岸部以外はシラス台地に囲まれ，シラス台地と諸河川によって形成された沖積平野に分かれる。鹿児島大学構内に所在する遺跡のうち，本書に掲載する調査地域は郡元団地，桜ヶ丘団地で，それぞれを鹿児島大学構内遺跡郡元団地，同桜ヶ丘団地と呼称している。

郡元団地は，昭和59年までは旧字名などを遺跡の名称として用いており，県立医大遺跡，附属中学校敷地内遺跡，釘田遺跡，水町遺跡などが含まれる[1]。桜ヶ丘団地は，桜ヶ丘団地を含む遺跡として，亀ヶ原遺跡という名称を用いられることもあるが，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が設置された昭和60年以降，「鹿児島大学構内遺跡宇宿団地」と呼称し，以後，キャンパス名の変更に伴って，同桜ヶ丘団地と変更した。

郡元団地は，標高7mほどで，鹿児島市の沖積平野の中央に位置する。東側は鹿児島湾に向かい，西にはシラス台地が後背地となっている。周辺には，一の宮遺跡[2]など弥生時代から古墳時代の遺跡が多い。郡元団地でも，これまでの調査によって，縄文時代・弥生時代・古墳時代・中世・近世の遺物包含層が確認されており，特に古墳時代の住居跡が密集している。住居跡の集中する場所は，理学部から教養部の一帯と，教育学部附属小学校・中学校から運動場の南西側一帯の2か所が確認されている。

桜ヶ丘団地は郡元団地から約2.5km南の亀ヶ原台地上に位置する。鹿児島市のシラス台地上の遺跡は，縄文時代早期から後期にかけての遺跡が点在しており，弥生時代や古墳時代の遺跡が少ない。一方，桜ヶ丘団地では，これまでの調査で団地の東側に縄文時代草創期・早期・弥生時代前期・中期の遺物包含層が存在し，特に縄文時代早期と弥生時代中期前半の住居跡が確認されている。

1.2 調査概要

平成9年度に行った調査は，発掘調査1件，試掘調査1件，立会調査5件である(Tab. 1)。このうち，97-Aの調査で弥生時代の水田層と，縄文時代中期の遺物包含層を確認した。

97-Aは郡元団地工学部校舎新築工事に先立って発掘調査を行った。

調査区の地山である砂層は南西から北東方向に傾斜しており，東側の低い部分に粘土層や泥炭層が堆積している。南西部のカクランされた部分を省く全面には，中世や古墳時代までの包含層が確認できたが，砂層のレベルが高い西側に縄文時代中期の遺物包含層が確認できた。また，東側の低い部分は弥生時代中期の包含層や溝状遺構，水田跡と考えられる層などを検出した。溝状遺構を確認した層の上面では，直径5cm，深さ3～7cmの小さなピットを約2000個以上確認したが，これは水田遺構でよく確認され，稲株痕と呼ばれるものに似ている。これらは，約15cm間隔で一列に並んでいるものもあるが，切り合っているものが多かった。

その直下の層の上面には足跡が多く確認され，それが密集している部分と粗な部分が見られた。足跡の断面を見ると，上下の土がマーブル状に混在しており，ぬかるんだ状態であったことが推定できる。これらのことから，足跡の粗密は，水田層の区画をある程度反映している可能性が高い。なお，この層の上面から採集した炭化物による放射性炭素年代測定では，2460±60BP年という年代

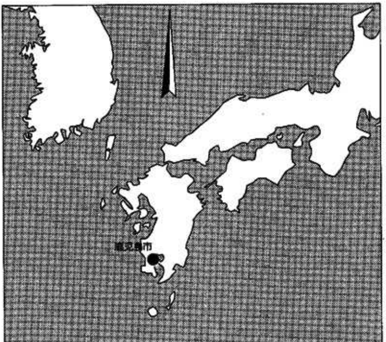


Fig.1 鹿児島市の位置

Tab.1　平成９年度調査一覧表

種類	調査No.	地区	調査・工事名	調査期間	調査面積
発掘調査	97-1	郡元団地J・K-10・11区	工学部校舎新築工事に伴う発掘調査	平成９年６月16日～12月８日	800㎡
試掘調査	97-2	桜ヶ丘団地G-7区	医学部校舎建設予定地における試掘調査	平成９年３月４日～３月11日	6㎡
立会調査	97-A	郡元団地Ｈ・I-５区	同窓会館、記念館の火災監視装置設置工事	平成９年６月５日	
	97-B	郡元団地Ｆ・G-４区	農学部他外灯設備工事	平成10年３月４・５日	
	97-C	郡元団地E-９区	農学部栽培装置置鉄骨工事	平成10年３月18日	
	97-D	郡元団地S-５・９・Q-５区	付属中学校他塵置場取設その他工事	平成10年３月18日	
	97-E	郡元団地J・K-10・11・H-13区	工学部校舎新営その他工事	平成10年３月23日	

が得られている。

鹿児島大学構内遺跡郡元団地において，97-A地点の北側に位置するH-11・12区やI-7・8区で弥生時代の水利施設であろうと考えられる木杭列を確認しており，河川痕の埋土から木製鍬などの農具が出土している。また，北東に位置するH-9区では，97-A地点の水田層と同一層と考えられる層が，プラントオパール分析によって，水田層である可能性が高いという所見が得られている。本調査区では，水田層が東側の調査区外に続いており，H-9区にまでその範囲である可能性が高い。これからの調査によって，水田跡の広がりを把握する必要があるだろう。

縄文時代中期の遺物については，春日式土器，深浦式土器，石鏃，石匙，玦状耳飾りを転用したと考えられる垂飾品などが出土しているが，郡元団地内の過去の調査では，河川痕の埋土内で他の時期の遺物と混在して出土することはあっても，安定した包含層は確認されていなかった。今回の調査では，安定した縄文時代中期の遺物包含層が確認されたと考えてよい。これらの遺物が多く出土した地点が北東方向の傾斜地で，傾斜の上の微高地になる西側にその時期の遺構が存在している可能性が高いが，調査区外にあたり，今後の注意が必要である。

立会調査では，97-Aの調査において，古墳時代を中心とした遺物が出土している。この調査区付近は古墳時代の住居跡が集中する区域にあたる。

桜ヶ丘団地では，97-2の試掘調査が行われたが，桜ヶ丘団地でよく確認される弥生・縄文時代早期などの遺物包含層は造成によって掘削されている地点で，埋蔵文化財には影響はなかった。

註

1) 松永幸男（1986）．第Ⅱ章鹿児島大学構内遺跡の位置と環境．鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報，1．鹿児島大学埋蔵文化財調査室．

2) 河口貞徳（1951）．一の宮遺跡の報告．考古学雑誌，37-4．

3) 砂田光紀・松永幸男（1990）．第Ⅱ部第２章鹿児島大学宇宿団地E-8・9区における発掘調査報告．鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報，5．鹿児島大学埋蔵文化財調査室．

Fig.2 鹿児島大学構内遺跡の位置

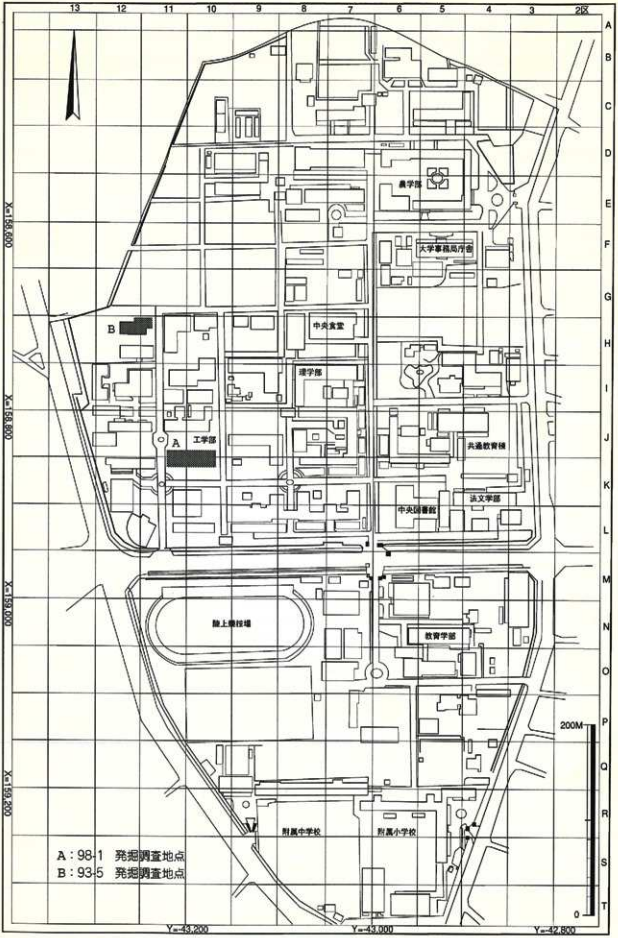


Fig.3　郡元団地構内図　S=1/4000

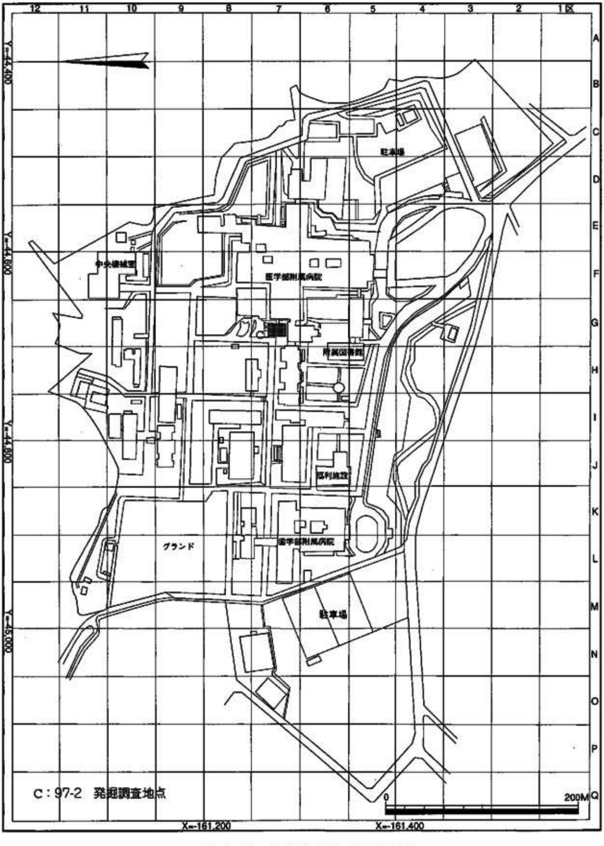


Fig.4 桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000

2　桜ヶ丘団地G-7区（医学部校舎建設予定地）における試掘調査

2.1　調査に至る経過

鹿児島大学では医学部の校舎建設が計画され，臨床講義棟のすぐ北側がその予定地とされた(Fig.5・6)。予定地の北西約100mの地点では，臨床研究棟増築地・ウィルス疾患研究施設建設地において発掘調査が行われ，弥生時代から縄文時代早期までの遺構や遺物が出土している(坪根ほか,1988)。また，北東約100mの地点ではMRI-CT装置棟の建設地および増築地において発掘調査が行われ，縄文時代早期を中心とする土器や石器が出土している。また，11000年よりも古いとされている，通称「チョコ層」中から石鏃・細石刃などが少量ながら出土している（砂田ほか,1990)。

このように，周囲に包含層が遺存していることから，本地点における埋蔵文化財の包蔵の有無を確認するため，試掘調査を実施した。

2.2　調査体制

発掘調査は，以下の体制で行った。

調査主体者　鹿児島大学埋蔵文化財調査室長　上村俊雄
調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
　室長　上村俊雄
　室員　大西智和・新原和子
発掘調査作業員　峰山いづみ・新里貴之・横手浩二郎・林麻穂

2.3　調査の経過

発掘調査は平成10年３月９日～平成10年３月17日にかけて実施した。校舎建設予定地内に２カ所のトレンチを設定して調査を行った。１辺３mと１辺１mのトレンチを設け，それぞれ１トレンチ，２トレンチと呼んだ(Fig.5)。

１トレンチは臨床講義棟のすぐ北側に設定した。建設予定地の南側に相当する。地表から約１mまでは客土層が続いていた。その下は，黄褐色を呈するシラスの風化土であり，「チョコ」層は遺存していないことがわかった。シラスの風化土を0.5mほど掘り下げたが，遺物は出土しなかったことから，以下の掘り下げは行わなかった。

２トレンチは１トレンチの北側約15mのところに，「チョコ層」が残っているかどうかを確認するために設けた。地表から1.15mまで掘り下げたが，「チョコ層」が残っていないことが明らかになったため，以下の掘り下げは行わなかった。

周辺の地形測量図，壁面の層位断面図の作成などを行い，３月17日に発掘調査を終了した。

Fig.5　トレンチ配置図　S=1/500

2.4　層位

１層　表土・客土層。客土は固められており，非常に堅い。

２層　にぶい黄褐色(10YR5/4)を呈するシルト層。粘性をやや帯び，１cm大程度までのパミスをわずかに含む。

３層　にぶい黄橙色(10YR6/4)とにぶい黄褐色(10YR5/4)の中間の色調を呈するが，下部ほど明るい。粘性をやや帯びているが，粘性は２層よりも弱い。５cm大程度までのパミスを多く含むが，とくに多くみられるのは１cm大程度までのものである。２層と３層とは基本的には同じ層であるが，パミスの量と粘性がやや異なる。

４層　赤褐色(５YR4/8)を呈するシルト質層で，粘性を帯びる。上面は明黄褐色(10YR7/6)・赤色(7.5YR4/8)などの色調がみられる。３cm大程度のパミスを含む。

５層　にぶい黄褐色(10YR7/4)を呈するシルト層。５cm大程度までの非常に軟らかいパミスを含む。

６層　にぶい黄橙色(10YR7/3)を呈するシルト層。５cm大程度までの非常に軟らかいパミスを含む。

2.5　まとめ

トレンチ内から遺構は検出されず，遺物の出土もなかった。遺物包含層である，いわゆる「チョコ」層がすでに削平されていたことが，大きな要因である。「チョコ」

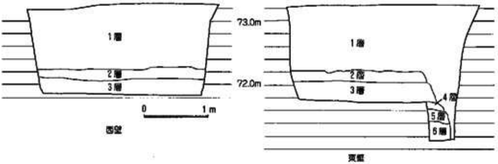


Fig. 6　1トレンチ層位断面図　S=1/60

層の下に位置する層も遺物を包含する可能性があるが，遺物の密度は非常に疎であるため，鹿児島大学桜ヶ丘団地内からは，まだ出土例がない。「チョコ」層よりも下の層が遺物を包含するのかどうかについては，今後も注意が必要である。

参考文献

砂田光紀・松永幸男・中村直子，1990，「鹿児島大学宇宿団地E-8・9区（ＭＲＩ-ＣＴ装置棟建設地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ｖ，鹿児島大学埋蔵文化財調査室．

坪根伸也・松永幸男，1988，「鹿児島大学宇宿団地Ｉ-8区（医学部臨床研究棟増築地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅲ，鹿児島大学埋蔵文化財調査室．

3　立会調査

埋蔵文化財調査室では，平成9年度5件の立会調査を実施した。以下，各調査ごとに説明する。

97-A　同窓会館・記念館の火災監視装置設置工事に伴う立会調査　(Fig. 7・8)

玉利池の東側を南北7.5m，深さ約60cmにわたって掘削工事を行ったが，すべて既掘部であった。

遺物は染付と古墳時代の土器が採集された。1は染付の椀と思われる口縁部小破片である。2・3は古墳時代の甕の脚台部付近である。2は脚台部が高く，脚台内面天井部はほぼ平坦であり，古墳時代後半期に比定される。3は胴部と脚台の接合部付近の破片である。古墳時代の土器は玉利池南側道路側溝の掘削工事の際にも採集されている。

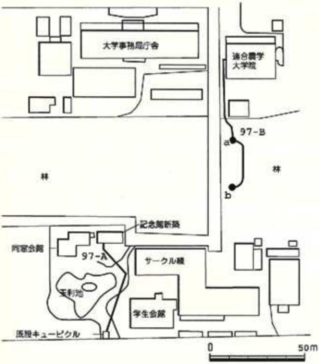


Fig. 7　97-A・B調査地点　S=1/2000

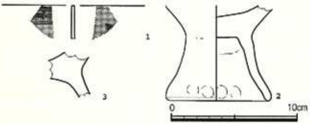
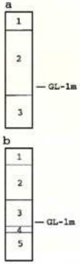


Fig. 8　97-A出土遺物　S=1/3

97-B　農学部他外灯設備工事に伴う立会調査　(Fig. 7・9)

調査地点は，農学部連合農学大学院建物西側から配管配線のため，溝状に南北に幅30cm，深さ70cmと，外灯設置箇所2地点(Fig.　a・b)の掘削を行った。溝状の掘削部分はすべて既掘部であった。外灯設置地点a・bは一辺約80cm四方の範囲で，深さはそれぞれ155cmと150cmであった。プライマリーな層は確認できたが，遺物は出土していない。以下層の説明を行う。



a地点

1層　コンクリート

2層　盛り土　にぶい黄色 (2.5Y6/4) を基調とする砂混じりシルト質砂

3層　灰色 (7.5Y5/1)　2，3cm大軽石礫を含む，2層との境に鉄分マンガン浸透

b地点

1層　コンクリート

2層　盛り土　灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂混じりシルト

3層　灰色 (5Y5/1) シルト質砂

4層　灰色 (5Y7/1) 砂質シルト

5層　灰白色 (5Y7/1) 砂質シルト

底面　パミス混　5cm以下粗砂層　河川跡の可能性

Fig. 9　97-B層位柱状図

97-C　農学部栽培装置鉄骨工事に伴う立会調査

農学部のビニールハウス設置に伴い掘削が行われた．深さは表土の範囲に収まり，埋蔵文化財に影響はなかった。

97-D　教育学部付属中学校他塵置場取設その他工事に伴う立会調査

附属小学校，附属幼稚園，附属中学校における既設焼却炉撤去後塵置場の新設伴い掘削が行われた。いずれも深さ10cmほどの表土の範囲で，埋蔵文化財への影響はなかった。

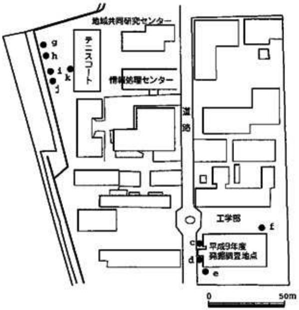


Fig.10 97-E 調査地点

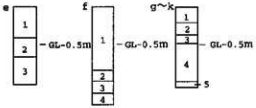


Fig.11 97-E層位柱状図

97-E 工学部校舎新営その他工事に伴う立会調査（Fig.10・11）

平成9年6月～12月にかけて発掘調査を行った工学部新校舎建設地調査区付近の樹木4本を，テニスコート西側へ移植するために掘削工事が行われた。c～d地点は移植樹木位置，g～h地点は移植後の位置である。f地点は，掘削中30cmほど下から水道管が現れたためi地点へ移動した。各地点とも遺物は出土していない。以下，各地点の範囲および層の説明を行う。

c地点

東西1.8m，南北2.5m，深さ1m，表土の範囲。

d地点

表土の範囲。

e地点

木の周囲径3m，深さ1.5m。

1層　にぶい橙色（7.5YR7/3）を基調とする細砂層　マンガン浸透

2層　灰黄褐色（10YR5/2）　シルト質砂　マンガン浸透

3層　黄褐色（10YR3/2）粗砂　軽石・小礫含む

f地点

径3m，深さ1.3mにわたって掘削を行った。

1層　表土

2層　黄灰色（2.5Y5/1）　砂質シルト　パミスを少し含む　マンガン浸透

3層　灰白色（2.5Y7/1）　シルト質砂　黄色パミスを含む　鉄分浸透

4層　褐灰色（10YR6/1）　シルト質砂　マンガン浸透

g～k地点

1.5m×1.5mの方形，深さ1mにわたって掘削を行った。

1層　灰黄褐色（10YR4/2）　シルト

2層　褐灰色（10YR5/1）　シルト質砂　0.5cm大パミスを含む

3層　明黄褐色（10YR7/6）粗砂混じりシルト　0.5cm大パミスを含む

4層　黄灰色（2.5Y6/1）　砂質シルト　マンガン浸透

5層　黄灰色（2.5Y6/1）　シルト粘質

底面　黒褐色（10YR3/1）　シルト　2，3cm大の軽石を含む

Tab. 2　出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	色調・釉調	胎土	調整・文様	備考
1	表土	染付	碗	透明釉．	白色．		
2	表土	古墳	甕	外面：浅黄橙色10YR8/4，外面一部・器内：橙色2.5YR7/6，内面：褐灰色10YR5/1，鉄分付着のため詳細不明．	石=礫～砂，石英，角閃石=粗砂から砂，白色粒=細砂．量=多，石英特に多い．	ナデ．	胴径8.3cm．付着物のため詳細不明．
3	表土	古墳	甕	外面：橙色2.5YR7/6，器内：灰色N6/，内面：浅黄橙色10YR8/3．	石=粗砂，石英=礫～粗砂，角閃石=粗砂～細砂，白色粒=細砂，量=普通，石英特に多い．	外面：ナデ．	傾き不明．

鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

（設置）

第1条　本学に，鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議）

第2条　委員会は，本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

（1）基本計画の策定に関すること。

（2）調査結果に基づく対策に関すること。

（組織）

第3条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

（1）学長

（2）各学部長，附属図書館長，医学部附属病院長及び歯学部附属病院長

（3）事務局長

（4）学生部長

（委員長）

第4条　委員会に委員長を置き，学長をもって充てる。

2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（議事）

第5条　委員会は，委員の3分の2以上の出席をもって成立し，議事は出席委員の3分の2以上をもって決する。

（委員以外の者の出席）

第6条　委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことが出来る。

（調査委員会）

第7条　委員会は，本学の埋蔵文化財の調査を行なうため，埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置く。

第8条　調査委員会は次の事項を審議する。

（1）調査実施計画に関すること。

（2）第13条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

（3）第13条に規定する調査室の予算に関すること。

（4）その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関すること。

第9条　調査委員会は，次に掲げる委員をもって組織し，学長が任命する。

（1）各学部の教授，助教授，講師の中から選任された者各1名

（2）第15条2項に規定する調査室長

2　前項第1号の委員の任期は2年とし，委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は，前任者の残任期間とする。

第10条　調査委員会に委員長を置き，前項第1項第1号の委員の中から互選により選出する。

2　委員長は委員会を招集し，その議長となる。

第11条　調査委員会は，委員の過半数の出席をもって成立し，議事は，出席委員の過半数をもって決する。

第12条　調査委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことができる。

（調査室）

第13条　調査委員会に，本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

第14条　調査室は，次の業務を行なう。

（1）調査実施計画の立案

（2）発掘調査，分布調査及び確認調査

（3）調査報告書の作成

（4）その他必要な事項

第15条　調査室に，室長，主任及びその他必要な職員を置く。

2　室長は，本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し，学長が任命する。

3　室長は，調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4　室長の任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。

5　主任は，調査室の職員の中から，特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し，学長が任命する。

6　主任は，室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7　職員は，調査室の業務に従事する。

（その他）

第16条　埋蔵文化財に関する事務は，事務局施設部において行なう。

附　則

1　この規則は，昭和60年4月18日から施行する。

2　この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は，第9条第2項及び第15条第4項の規定にかかわらず，昭和62年3月31日までとする。

3　鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則（昭和51年1月22日制定）は，廃止する。

附　則

この規定は、平成9年4月1日から施行する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（平成９年４月１日現在）

委員長　田中弘允（鹿児島大学学長）
委　員　石田忠彦（法文学部長）
　　　　島田俊秀（教育学部長）
　　　　堀田　満（理学部長）
　　　　大井好忠（医学部長）
　　　　平　明（医学部付属病院長）
　　　　笠原泰夫（歯学部長）
　　　　末田　武（歯学部附属病院長）
　　　　赤坂　裕（工学部長）
　　　　堀口　毅（農学部長）
　　　　茶園正明（水産学部長）
　　　　宮内信文（連合農学研究科長）
　　　　飛田眞澄（事務局長）
　　　　辰村吉康（学生部長）
　　　　山下　智（附属図書館長）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成９年４月１日現在）

委員長　塚原潤三（理学部助教授）
委　員　渡辺芳郎（法文学部助教授）
　　　　日隈正守（教育学部助教授）
　　　　秋山伸一（医学部教授）
　　　　小片丘彦（歯学部教授）
　　　　行田尚義（工学部教授）
　　　　松元光春（農学部助教授）
　　　　山中有一（水産学部講師）
　　　　上村俊雄（調査室長併任　法文学部教授）

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併）　法文学部教授　上村俊雄
主任（併）　法文学部助手　中村直子
　　（併）　法文学部助手　大西智和
　　　　　　技術補佐員　　鮎川章子
　　　　　　技術補佐員　　新原和子

受贈図書目録　(1997年4月1日～1998年3月31日まで)

書　名	発行所
単行本	
国指定史跡上高津貝塚 整備事業報告書	土浦市教育委員会
敷石住居の謎に迫る 記録集	財団法人　神奈川考古学財団，神奈川県立埋蔵文化財センター
10年のあゆみ 設立10周年記念会誌	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
10周年記念論文集	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡の現像をさぐる 発掘調査報告会	財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所　静岡県教育委員会
15年のあゆみ 1981年～1996年	財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター
古墳時代の馬具	小野山　節
郷土史のたのしみ	財団法人　東大阪市文化財協会
継体天皇と今城塚古墳	高槻市教育委員会
福原京とその時代	神戸市教育委員会　神戸市埋蔵文化財センター
海外研修旅行報告 韓国百済・新羅・伽耶の遺跡を訪ねる	奈良大学文学部文化財学科
かんどの流れ 志津見ダム建設予定地内の遺跡 (3)	島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター
日本最多の銅鐸出土地 加茂岩倉遺跡	島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター
あさくみがわのながれ	島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター
斐伊川放水路発掘物語	島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター
シンポジューム 天平の宇佐－宇佐虚空蔵寺と古代仏教－	別府大学附属博物館，宇佐市教育委員会
アジア稲の起源と稲作圏の構造 渡部忠世	別府大学附属博物館
えびの市史 上巻	えびの市郷土史編纂委員会
思索の軌跡 三浦創一遺稿	北濱史会
逐次刊行物	
釧路市立博物館館報 No.354	釧路市立博物館
釧路市立博物館館報 No.355	釧路市立博物館
釧路市立博物館館報 No.356	釧路市立博物館
釧路市立博物館館報 No.357	釧路市立博物館
釧路市立博物館紀要第21集	釧路市立博物館
財団法人北海道埋蔵文化財センターだより 創刊号 テエタ	財団法人北海道埋蔵文化財センター
財団法人北海道埋蔵文化財センターだより 2号 テエタ	財団法人北海道埋蔵文化財センター
文化財ニュースいわき 第55号	財団法人いわき市教育文化事業団
歴史人類第25号	筑波大学歴史・人類学系
上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第1号	上高津貝塚ふるさと歴史の広場
上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第2号	上高津貝塚ふるさと歴史の広場
群馬県立歴史博物館紀要第18号	群馬県立歴史博物館
きみさらづ 第10号	(財) 君津郡市文化財センター
きみさらづ 第11号	(財) 君津郡市文化財センター
東京都埋蔵文化財センター　研究論集XVI	東京都埋蔵文化財センター
大田区立郷土博物館だより 第36号	大田区立郷土博物館
日本中国考古学会会報 第7号	日本中国考古学会
博物館だより No.36	岐阜市歴史博物館
博物館だより No.37	岐阜市歴史博物館
博物館だより No.38	岐阜市歴史博物館
多治見市文化財保護センターだより 自然と人の文化 北小木古窯群発掘調査速報No.3	岐阜県多治見市教育委員会　多治見市文化財保護センター
多治見市文化財保護センターだより 自然と人の文化 北小木古窯群発掘調査速報No.4	岐阜県多治見市教育委員会　多治見市文化財保護センター
研究所報 No.57	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.58	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.59	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.60	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.61	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.62	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.63	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.64	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.67	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.66	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.65	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.68	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.69	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報 No.70	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
名古屋大学加速器質量分析計業績報告書 (Ⅷ)	名古屋大学年代測定資料研究センター
名古屋市博物館だより 第116号	名古屋市博物館
瀬戸市埋蔵文化財センター年報平成7年度	(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター
瀬戸市埋蔵文化財センター年報平成8年度	(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター
名古屋市博物館だより 117	名古屋市博物館
名古屋市博物館だより 118	名古屋市立博物館
平成8年度　三重県埋蔵文化財センター年報8	三重県埋蔵文化財センター
三重県文化財センター通信みえ No.23	三重県埋蔵文化財センター
三重県文化財センター通信みえ No.24	三重県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第204号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第205号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第206号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第207号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第208号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第209号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第210号	滋賀県立埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第213号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第214号	滋賀県埋蔵文化財センター
滋賀埋文ニュース 第215号	滋賀県埋蔵文化財センター
坂田郡文化財ニュース佐加太第4号	坂田郡社会教育研究会　文化財部会
坂田郡文化財ニュース佐加太第5号	坂田郡社会教育研究会　文化財部会
坂田郡文化財ニュース佐加太第6号	坂田郡社会教育研究会　文化財部会
坂田郡文化財ニュース佐加太第7号	坂田郡社会教育研究会　文化財部会
財団法人枚方市文化財研究調査会研究紀要第4集	財団法人枚方市文化財研究調査会
葦火 67号	(財) 大阪市文化財協会
葦火 68号	(財) 大阪市文化財協会
葦火 69号	(財) 大阪市文化財協会
葦火 70号	(財) 大阪市文化財協会
葦火 71号	(財) 大阪市文化財協会
葦火 72号	(財) 大坂市文化財協会
高槻市文化財年報　平成7年度	高槻市教育委員会
東大阪市文化財協会ニュース No.4	財団法人東大阪市文化財協会
ひらかた文化財だより 31号	財団法人枚方市文化財研究調査会
ひらかた文化財だより 32号	財団法人枚方市文化財研究調査会

書　名	発行所
ひらかた文化財だより 33号	財団法人枚方市文化財研究調査会
ひらかた文化財だより 34号	財団法人枚方市文化財研究調査会
城郭研究室年報Vol.6	姫路市立城郭研究室
ひょうごの遺跡 25号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
ひょうごの遺跡 26号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
ひょうごの遺跡 27号	兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所
ひょうごの遺跡 28号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
文化財学校 第15集	奈良大学文学部文化財学科
和歌山市立博物館 研究紀要12	和歌山市立博物館
島根県埋蔵文化財調査センターニュース 16号	島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター
島根県埋蔵文化財調査センターニュース 17号	島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター
島根県埋蔵文化財調査センターニュース 18号	島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター
島根県埋蔵文化財調査センターニュース 19号	島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第17号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
今よみがえる古代 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの10年	岡山大学調査研究センター
広島県立歴史民俗資料館 研究紀要第1集	広島県立歴史民俗資料館
広島県立歴史博物館ニュース 第30号	広島県立歴史博物館
広島大学文学部 帝釈峡遺跡群発掘調査室年報XⅠ	広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室
歴風 第16号	みよし風土記の丘ミュージアム
歴風 第18号	みよし風土記の丘ミュージアム
歴風 第19号	みよし風土記の丘ミュージアム
地域文化研究 地域文化研究所紀要12	梅光女学院大学
地域文化研究所通信No.21	梅光女学院大学
徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.6 1994年度	財団法人徳島県埋蔵文化財センター
藤山歴史資料館展示案内	藤山歴史資料館
研究紀要 第1号	下関市立考古博物館
下関市立考古博物館年報2 平成8年度	下関市立考古博物館
あやらぎ No.1	下関市立考古博物館
地域文化研究所通信 No.22	梅光女学院大学
資料館だより No.10	飯塚市歴史資料館
資料館だより No.11	飯塚市歴史資料館
資料館だより No.12	飯塚市歴史資料館
資料館だより No.13	飯塚市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース No.36	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース No.37	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース No.38	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館年報（平成7年度）	大分市歴史資料館
宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 1996年度	大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース 42	大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース 43	大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
別府大学博物館だより No.41	別府大学附属博物館
ＵＳＭ USA SITE MUSEUM NEWS 44	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
ＵＳＭ 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース 45	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
大分市歴史資料館ニュース 39	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース 40	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース 41	大分市歴史資料館
ミュージアム知覧紀要　第3号	ミュージアム知覧
南九州縄文通信No.11	南九州縄文研究会
南日本文化 第30号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
隼人文化 第58号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
隼人文化 第59号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
隼人文化 第60号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
鹿児島県文化財化調査報告書第43集	鹿児島県教育委員会
平成8年度 長期的ツル保護対策調査研究事業報告書	鹿児島県教育委員会
平成8年度 未来を創る文化財ウオッチング活動の成果	鹿児島県教育委員会
人類史研究第9号 上村俊雄先生還暦記念号	人類史研究会 上村俊雄先生還暦記念号刊行委員会
第65回黎明館講演会 弥生人のルーツを探る　松下孝幸	鹿児島県歴史資料センター黎明館
川内市歴史資料館年報　平成7年度	川内市歴史資料館
川内市歴史資料館資料目録（10）（11）	川内市歴史資料館
鹿児島大学大学院連合農学研究科 Newsletter	大学院連合農学科
笠利町立歴史民俗資料館館報第14号	笠利町立歴史民俗資料館
沖縄県立博物館年報 No.30	沖縄県立博物館
沖縄県立博物館紀要 第23号	沖縄県立博物館
資料館だより No.30	読谷村立歴史民俗資料館

調査報告書

書　名	発行所
千歳市埋蔵文化財調査報告書XXⅢ　キウス4遺跡における考古学的調査	千歳市教育委員会
千歳市埋蔵文化財調査報告書XXⅣ　イヨマイ6遺跡における考古学的調査3	千歳市教育委員会
調査年報9 平成8年度	財団法人北海道埋蔵文化財センター
調査年報10 平成9年度	財団法人北海道埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第225集　大日向2遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第231集　長倉Ⅳ遺跡 長倉Ⅴ遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第231集　沢田 仙人東遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第232集　耳取Ⅰ遺跡A地区発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第233集　峠山Ⅰ遺跡B地区発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第234集　尾ろ部2遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第235集　岩脇遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第236集　横町遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第237集　江川鉄山跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集　ゴッソー遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第239集　寺久保遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

書名	発行所
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第240集　鳩岡上の遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第241集　牧田貝塚発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第242集　柏山館跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第243集　龍ケ馬場遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第244集　小幅遺跡第2次発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第245集　日詰七久保遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
紀要16	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
館石野1遺跡発掘調査報告書	早稲田大学文学部考古学研究室
紀要XⅦ	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
東北大学調査室年報　仙台城二の丸跡第9地点の調査	東北大学埋蔵文化財調査研究センター
仙台市文化財調査報告書第205集　野川遺跡	仙台市教育委員会
仙台市文化財調査報告書第208集　富沢、泉崎浦、山口遺跡（9）	仙台市教育委員会
仙台市文化財調査報告書第219集　安久遺跡-第3次発掘調査報告書-	仙台市教育委員会
いわき市教育文化事業団研究紀要第8号	財団法人いわき市教育文化事業団
いわき市埋蔵文化財調査報告第46冊　登館跡	財団法人いわき市教育文化事業団　いわき市教育委員会
いわき市埋蔵文化財調査報告第50冊　泉町C遺跡	財団法人いわき市教育文化事業団　いわき市教育委員会
根岸遺跡	いわき市教育委員会
土浦城（外丸御殿跡）	土浦市教育委員会　土浦市遺跡調査会
六十原A遺跡	土浦市教育委員会　土浦市遺跡調査会
茨城県教育財団文化財調査報告第113集　中下根遺跡 西ノ原遺跡 隼人山遺跡	住宅・都市整備公団つくば開発局　財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第114集　前原遺跡 大門遺跡 三木松遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第115集　沢田遺跡	建設省財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第116集　前田村遺跡C・D・E区（上巻）	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第116集　前田村遺跡C・D・E区（中巻）	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第116集　前田村遺跡C・D・E区（下巻）	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第117集　長者屋敷遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第118集　宮前遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第119集　根崎遺跡 西栗山遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第120集　熊の山遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第121集　神田遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告第122集　半田原遺跡	茨城県財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告123集　大山Ⅰ遺跡	住宅、都市整備公団首都圏都市開発本部　財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書124集　仲郷遺跡	茨城県、財団法人茨城県教育財団

書名	発行所
茨城県教育財団文化財調査報告書125集　西方貝塚	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書126集　番城内遺跡	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書127集　高野台遺跡 前田村遺跡D、F区上下巻	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書128集　三反田下高井遺跡上下巻	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書129集　後原遺跡 親塚古墳 権現堂遺跡 南小割遺跡	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書130集　炭焼遺跡 札場古墳群 三和貝塚 成田古墳群	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書131集　大橋B遺跡 釈伽才仏遺跡	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書132集　三度山遺跡 古屋敷遺跡	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書133集　熊の山遺跡 上、中、下巻	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書134集　神田遺跡	茨城県、財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書135集　矢倉遺跡 後口原遺跡	日本道路公団東京第一建設局　財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書136集　大作遺跡 大畑遺跡	日本道路公団東京第一建設局　財団法人茨城県教育財団
茨城県教育財団文化財調査報告書137集　星合遺跡 中の台遺跡	茨城県　財団法人茨城県教育財団
柳沢遺跡 養老田遺跡 寿行地遺跡	土浦　出島村合同遺跡調査会
研究ノート6号 平成8年度	財団法人茨城県教育財団
年報16 平成8年度-埋文部20周年記念号-	財団法人茨城県教育財団
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館年報 第10号	栃木県教育委員会
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館年報 第11号	栃木県教育委員会
千葉県立房総風土記の丘年報19－平成7年度－	千葉県立房総風土記の丘
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第93集　美生遺跡群Ⅱ　第4・5・9地点	東京湾観光株式会社　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第95集　美生遺跡群Ⅲ	東京湾観光株式会社　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第111集　泉遺跡発掘調査報告書Ⅱ	有限会社泉土地区画整理協会　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第116集　寒沢遺跡 寒沢古墳群 愛宕古墳群 上用瀬遺跡	東急不動産株式会社　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第119集　大畑台遺跡群 大畑台遺跡（C）遺跡発掘調査報告書	株式会社関電工　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第127集　上笠上谷遺跡（2）	東京電力株式会社　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第128集蓮華寺遺跡Ⅲ	成就寺　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第129集　神納水俣台遺跡	多田貞行　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第130集　亀塚遺跡	医療法人社団三友会　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第132集　中越遺跡	株式会社東京デジタルホン　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第133集　富士見台遺跡Ⅵ	東京通信ネットワーク株式会社　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第134集　池ノ谷2号塚	ジャパンデベロプメント、新日本製鐵共同企業体　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第135集　外箕輪遺跡Ⅲ	有限会社君津日の丸　財団法人君津郡市文化財センター
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第136集　根形台遺跡群ＶＶⅠ地点	千葉県木更津土地改良事務所　株式会社ワクポ　財団法人君津郡市文化財センター

書名	発行所
財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第137集　谷ノ台遺跡II	宗教法人瀧泉寺　財団法人君津郡市文化財センター
君津郡市文化財センター 研究紀要 VII	財団法人君津郡市文化財センター
財団法人東総文化財センター発掘調査報告書第19集　三川合横前遺跡	有限会社ブライトピック千葉　財団法人東総文化財センター
東総文化財センター年報I（平成3．4年度）	財団法人東総文化財センター
汐留遺跡1．2．3．4分冊	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第39集　多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第40集　尾張藩上屋敷跡遺跡II	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第41集　多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
汐留遺跡	東京都埋蔵文化財センター
尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要V	東京都埋蔵文化財センター
東京大学構内遺跡調査研究年報1996年度	東京大学埋蔵文化財調査室
東京大学本郷構内の遺跡　陶磁器．土器編年表	東京大学埋蔵文化財調査室
溜池遺跡　総理大臣官邸整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	都内遺跡調査会
御先手組屋敷　駒込鰻縄手	都内遺跡調査会
東京都埋蔵文化財センター年報17　1996年度	財団法人東京都教育文化財団　東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第42集　多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第43集　多摩ニュータウン遺跡	東京都教育委員会　東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第45集　多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第46集　菅原神社台地上遺跡 第1分冊 先土器時代．縄文時代編	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第46集　菅原神社台地上遺跡　第2分冊 弥生時代以降編	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告第46集　菅原神社台地上遺跡 第3分冊 自然科学分析．成果と考察．写真図版編	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第47集　多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財調査報告書第48集　多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告7	東京都教育委員会　東京都埋蔵文化財センター
大橋遺跡 上，下巻	目黒区大橋遺跡調査会　大蔵省関東財務局
かながわ考古学財団調査報告15　宮ヶ瀬遺跡群IX	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告16　宮ヶ瀬遺跡群X	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告17　宮ヶ瀬遺跡群XI	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告20　吉岡遺跡群III	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告21　吉岡遺跡群IV	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告22　原口遺跡I	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告24　下大槻峯遺跡（多摩ニュータウン遺跡No.30）I	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告25　宮畑遺跡（No.34）矢頭遺跡（No.35）大久保遺跡（No.36）	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告27　池子遺跡群V	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告28　芹沢配水池関連遺跡群	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告書30　中里遺跡（No.31）西大竹遺跡（No.32）	財団法人かながわ考古学財団
かながわ考古学財団調査報告書　池子遺跡群IV第1分冊～第3分冊	財団法人かながわ考古学財団

書名	発行所
研究紀要2 かながわの考古学	財団法人かながわ考古学財団
年報4 平成8年度	財団法人かながわ考古学財団
神奈川県綾瀬市　吉岡遺跡群	財団法人かながわ考古学財団
青山開戸遺跡	財団法人かながわ考古学財団
神奈川県埋蔵文化財調査報告39	神奈川県教育委員会
早川城跡発掘調査報告書	神奈川県綾瀬市早川城調査会
神奈川県伊勢原市　坂止橋遺跡	伊勢原市No.128遺跡調査団
神奈川県立埋蔵文化財センター年報16	神奈川県立埋蔵文化財センター
長野県埋蔵文化財発掘調査要覧 その7　（平成2年度～平成3年度）	長野県教育委員会
金沢大学考古学紀要 第20号	金沢大学考古学講座
金沢大学考古学紀要 第21号	金沢大学考古学講座
岐阜県文化財保護センター調査報告書第34集　北小木小窯跡群 大沢13号古窯跡	財団法人岐阜県文化財保護センター
飛騨．底津遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第28集　山手宮前遺跡	水資源開発公団　財団法人岐阜県文化財保護センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第30集　堀田城之内遺跡	岐阜県土木部　財団法人岐阜県文化財保護センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第31集　小関御祭田遺跡	森林開発公団岐阜地方建設部　財団法人岐阜県文化財保護センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第32集　カクシクレ遺跡	岐阜県土木部　財団法人岐阜県文化財保護センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第33集　与島古墳群	東海農政局飛騨東部第一開拓建設事業所　財団法人　岐阜県文化財保護センター
多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第43号　根本遺跡II	岐阜県多治見市教育委員会
多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第48号　大原5号窯発掘調査報告書	岐阜県多治見市教育委員会
多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第49号　明和40．41号窯発掘調査報告書	岐阜県多治見市教育委員会
多治見市文化財保護センター研究紀要 第3号	岐阜県多治見市教育委員会　多治見市文化財保護センター
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第16集　内荒遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第32集　川合遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第40集　瀬名遺跡I	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第45集　新堀遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第52集　椿野遺跡	静岡県教育委員会　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第56集　牛間遺跡I 領地遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第57集　牛間遺跡II	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第58集　上反方遺跡遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第59集　長崎遺跡遺跡IV	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第60集　佑美遺跡I	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第61集　瀬名遺跡IV	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第63集　川合遺跡八反田地区II	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第64集　下原遺跡I	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第65集　遠江国分寺跡の調査	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第66集　石成遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第67集　御殿川流域遺跡群III	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第68集　曲金北遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

書　名	発行所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第70集　子鹿杉本掘合坪遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第75集　岳美遺跡Ⅱ	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第79集　瀬名遺跡Ⅴ	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第80集　水井遺跡，清水遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第81集　保録ケ谷遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
川田，藤蔵淵遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
元島遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡の原像をさぐる	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　静岡県教育委員会　静岡市教育委員会
静岡県埋蔵文化財調査研究所年報ＸⅠ	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所年報ＸⅡ	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
曲金北遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第28集　川合遺跡17区	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第41集　川合遺跡 遺物編1	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第48集　川合遺跡 遺物編3	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第55集　焼場遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第69集　角江遺跡Ⅱ 遺物編1，2，3	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第69集　角江遺跡Ⅱ遺構編	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第71集　加茂ノ洞Ｂ遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第76集　池ケ谷遺跡Ⅳ	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第83集　川合遺跡 遺物編1	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第84集　川合遺跡 遺物編3	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第85集　丸山古窯跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第86集　東原ノ坪遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第87集　八田原遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第88集　中峯遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第91集　大見城遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第92集　曲金北遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第93集　道下遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究紀要 第5号	財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所 年報Ⅷ	財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡の現像をさぐる 発掘調査報告会	財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第1集　東権現Ａ窯跡	愛知県瀬戸市教育委員会（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第3集　窯元Ａ窯跡	愛知県瀬戸市教育委員会（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第6集　白坂雲興寺遺跡	（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第7集　東山路遺跡	（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第8集　下半田川Ｃ窯跡1	（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第11集　東拝戸Ａ窯跡	（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第12集	（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第13集　品野西遺跡	（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第14集　落合橋南遺跡1	（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第15集　太子Ａ窯跡	（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第17集　落合橋南遺跡Ⅱ	財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第18集　八床9，10号窯跡	財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
名古屋市博物館 研究紀要 第20巻	名古屋市博物館
三重県埋蔵文化財調査報告115-7　橋垣内遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告123-6　山ノ花・甘チ・北上遺跡	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告125-2-2　森脇遺跡（第4次）遊山城跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
一般国道42号　松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告133-2　瀬干遺跡 稜垣内遺跡 大蓮寺跡 柳辻遺跡 北ノ垣内遺跡	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告139　蜆出遺跡第3次発掘調査概報	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告146-9　山添遺跡（第2次）里中遺跡ほか	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告149　宮地中世墓群発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告149　森ノ上遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告150　窪田大垣内遺跡（第2次）発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告151　松月院跡 伝本願寺跡	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告152　天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告（Ⅱ）	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告153　宮ノ腰遺跡発掘調査報告Ⅰ	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告157　湯後遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告162　石薬師東古墳群 石薬師東遺跡（第５次）発掘調査概報	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財調査報告173　窪田大垣内遺跡（第3次）管ケ谷古墳群発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
安濃津	三重県埋蔵文化財センター
高皿遺跡発掘調査概報	三重県埋蔵文化財センター
埋蔵文化財発掘調査概報Ⅸ	三重県埋蔵文化財センター
研究紀要 第6号	三重県埋蔵文化財センター
青山町文化財報告7　沢代遺跡調査報告書	青山町教育委員会　青山町遺跡調査会
青山町文化財報告8　七ケ城遺跡　七ケ城古墳群 榛ケ森遺跡	青山町教育委員会　青山町遺跡調査会
青山町文化財報告9　深谷遺跡調査報告書	青山町教育委員会
埋もれた文化財の話　近江の近世 近代の焼物	滋賀県埋蔵文化財センター
京都大学構内遺跡調査研究年報 1993年度	京都大学埋蔵文化財センター
京都府埋蔵文化財情報 第63号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都府埋蔵文化財情報 第64号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都府埋蔵文化財情報 第65号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都府埋蔵文化財情報 第66号	財団法人京都府埋蔵文化財調査センター

書名	発行所
平成8年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告	財団法人八尾市文化財調査研究会
天満本願寺跡発掘調査報告Ⅱ	財団法人大阪市文化財協会
長原、瓜破遺跡発掘調査報告Ⅸ	財団法人大阪市文化財協会
長原、瓜破遺跡発掘調査報告Ⅹ	財団法人大阪市文化財協会
広島藩大坂蔵屋敷跡	財団法人大阪市文化財協会
井ノ内稲荷塚古墳Ⅱ	大阪大学稲荷塚古墳発掘調査団
枚方市文化財年報18	財団法人枚方市文化財研究調査会
鬼塚遺跡第8次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会
若江遺跡発掘調査報告書1	財団法人東大阪市文化財協会
東大阪市遺跡保護調査会年報 1979年度	財団法人東大阪市文化財協会
東大阪市遺跡保護調査会発掘調査概報集 1980年度	財団法人東大阪市文化財協会
東大阪市文化財協会年報 1983年度	財団法人東大阪市文化財協会
東大阪市文化財協会概報集 1995年度調査（1）	財団法人東大阪市文化財協会
東大阪市文化財協会概要 1995年度調査（2）	財団法人東大阪市文化財協会
東大阪市文化財協会概報集 1996年度	財団法人東大阪市文化財協会
高井田遺跡第2、3次調査報告	財団法人東大阪市文化財協会
瓜生堂上層遺跡 皿池遺跡発掘調査報告	財団法人東大阪市文化財協会
若江北遺跡	財団法人東大阪市文化財協会
芝ケ丘遺跡発掘調査概報	財団法人東大阪市文化財協会
久宝寺遺跡発掘調査報告	財団法人東大阪市文化財協会
神並遺跡西端部の水路跡と埋積谷	財団法人東大阪市文化財協会
宮ノ下遺跡東部における歴史時代の層序	財団法人東大阪市文化財協会
宮ノ下遺跡第2次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会
水走遺跡第3次 鬼虎川第21次発掘調査報告	財団法人東大阪市文化財協会
神並遺跡XⅣ	財団法人東大阪市文化財協会
西ノ辻遺跡第33次発掘調査報告	財団法人東大阪市文化財協会
鬼虎川遺跡第33次発掘調査報告	財団法人東大阪市文化財協会
鬼虎川遺跡第35－1次発掘調査報告	財団法人東大阪市文化財協会
鬼虎川遺跡北部の歴史時代耕作地跡と地震層序	財団法人東大阪市文化財協会
鬼虎川の金属器関係遺物	財団法人東大阪市文化財協会
北島遺跡の耕作地跡と古環境	財団法人東大阪市文化財協会
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告－1994年度－	財団法人東大阪市文化財協会
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告－1994年度－	財団法人東大阪市文化財協会
植附遺跡第3次発掘調査概報	財団法人東大阪市文化財協会
縄手遺跡1	財団法人東大阪市文化財協会
枚方市文化財年報19（1997年度分）	財団法人枚方市文化財研究調査会
大阪市中央区 住友銅吹所跡発掘調査報告	財団法人大阪市文化財協会
TSUBOHORI 姫路市埋蔵文化財調査略報	姫路市教育委員会
石垣修理工事報告書（5） 特別史跡 姫路城跡	姫路市
神戸市東灘区 魚崎中町遺跡（第3次調査）	神戸市教育委員会
平成5年度 神戸市埋蔵文化財年報	神戸市教育委員会
平成6年度 神戸市埋蔵文化財年報	神戸市教育委員会
氷上郡埋蔵文化財分布調査報告書（4）	奈良大学文学部文化財学科 兵庫県氷上郡教育委員会
奈良大学考古学研究室調査報告書第14集 五村遺跡	奈良大学文学部文化財学科 滋賀県虎姫町教育委員会
丸山城跡	島根県川本町教育委員会
岸尾遺跡 島田遺跡	建設省松江工事事務所 島根県教育委員会
本庄川流域条理遺跡	島根県教育委員会
島根県教育庁文化財課 埋蔵文化財調査センター年報Ⅴ	島根県教育委員会
岩屋口北遺跡 臼コクリ遺跡（F区）	建設省松江国道工事事務所 島根県教育委員会
嘉久志遺跡 飯田C遺跡 古八幡付近遺跡	建設省松江国道工事事務所 島根県教育委員会
渋山池遺跡 原ノ前遺跡	建設省松江国道工事事務所 島根県教育委員会
島根県古代文化センター調査報告書1 出雲国風土記の研究1秋鹿郡恵曇郷調査報告書	島根県古代文化センター
古代文化研究 第5号	島根県古代文化センター
岡山大学構内遺跡発掘調査報告第11冊 鹿田遺跡4－第6次調査－	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山大学構内遺跡発掘調査報告第12冊 津島岡大遺跡8－第13次調査－	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山大学構内遺跡発掘調査報告第13冊 津島岡大遺跡9	岡山理科大学
自然科学研究所 研究報告第22号	岡山大学調査研究センター
岡山大学構内遺跡調査研究年報14	岡山大学調査研究センター
倉敷埋蔵文化財センター年報4 平成8年度	倉敷埋蔵文化財センター
備後国府跡	府中市教育委員会
府中市内遺跡3	府中市教育委員会
埋蔵文化財調査の歩み	広島大学総合移転地埋蔵文化財調査委員会
広島大学総合移転地埋蔵文化財発掘調査年報XⅢ	広島大学総合移転地埋蔵文化財調査委員会
広島県立みよし風土記の丘 広島県立歴史民俗資料館年報 第18号	広島県立みよし風土記の丘 広島県立歴史民俗資料館
帝釈峡遺跡群発掘調査室年報XⅡ	広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室
山口県埋蔵文化財調査報告書第3集 東禅寺 黒山遺跡Ⅱ	財団法人山口県教育財団
山口県埋蔵文化財調査報告第183集 横島遺跡	財団法人山口県教育財団 山口県教育委員会
山口県埋蔵文化財調査報告書第184集 冷泉家北遺跡	財団法人山口県教育財団 山口県教育委員会
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第9集 黒谷川宮ノ前遺跡 第1分冊	徳島県教育委員会 財団法人徳島県埋蔵文化財センター 日本道路公団
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第9集 黒谷川宮ノ前遺跡 第2冊	徳島県教育委員会 財団法人徳島県埋蔵文化財センター 日本道路公団
辰砂生産遺跡の調査	徳島県立博物館
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第15集 中島田遺跡Ⅱ	徳島県教育委員会 財団法人徳島県埋蔵文化財センター
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第16集 庄遺跡1	徳島県教育委員会 財団法人徳島県埋蔵文化センター
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第17集 立善寺跡遺跡	徳島県教育委員会 財団法人徳島県埋蔵文化財センター
小野川流域の遺跡	松山市教育委員会 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
桑原地区の遺跡Ⅲ	松山市教育委員会 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
中村松田遺跡	松山市教育委員会 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
愛媛大学構内遺跡調査集報1	愛媛大学埋蔵文化財調査室
樽味遺跡Ⅲ	愛媛大学埋蔵文化財調査室
松山市文化財調査報告書53 古照遺跡	松山市教育委員会 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
松山市文化財調査報告書60 釜ノ口遺跡Ⅱ	松山市教育委員会 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
松山市文化財調査報告書61 桧山峠7号墳	松山市教育委員会 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅸ	松山市教育委員会 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
筑後国府跡 平成8年度発掘調査概報	久留米市教育委員会
日出原南遺跡 第2次調査	久留米市教育委員会
筑後国府跡 第140次調査発掘調査概要	久留米市教育委員会
城崎遺跡 第2次調査	久留米市教育委員会
ヘボノ木遺跡 第62次調査	久留米市教育委員会

書　名	発行所
ヘボノ木遺跡　第63次調査	久留米市教育委員会
魚屋町遺跡　第1，2次調査	久留米市教育委員会
久留米城外郭　松田屋敷跡	久留米市教育委員会
平成8年度　久留米市内遺跡群	久留米市教育委員会
ヘボノ木遺跡　平成7年度発掘調査概要	久留米市教育委員会
平成8年度　ヘボノ木遺跡	久留米市教育委員会
大善寺北部地区遺跡群Ⅵ	久留米市教育委員会
安武地区遺跡群Ⅹ	久留米市教育委員会
安武地区遺跡群ⅩⅠ	久留米市教育委員会
大善寺北部地区遺跡群Ⅴ	久留米市教育委員会
筑後国府跡　平成7年度発掘調査概報	久留米市教育委員会
神道遺跡　第16次調査	久留米市教育委員会
上津藤光遺跡群	久留米市教育委員会
平成7年度　久留米市内遺跡群	久留米市教育委員会
安国寺遺跡　第5次調査	久留米市教育委員会
二本木遺跡　第10次調査	久留米市教育委員会
白口西屋敷遺跡	久留米市教育委員会
道蔵遺跡Ⅱ	久留米市教育委員会
不光院遺跡	久留米市教育委員会
呉服町遺跡　久留米城下町	久留米市教育委員会
上津藤光遺跡群	久留米市教育委員会
津福寺山遺跡	久留米市教育委員会
西行古墳群	久留米市教育委員会
久留米城下町両替町遺跡　久留米市文化財調査報告書第116集	久留米市教育委員会
那珂川町文化財調査報告書　中原，ヒナタ遺跡群	那珂川町教育委員会
地別当遺跡群　那珂川町文化財調査報告書第40集	那珂川町教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第102集　干潟城山遺跡Ⅱ	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第103集　苅又地区遺跡群Ⅱ	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第105集　苅又地区遺跡群Ⅳ	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第110集　小郡中尾遺跡2	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第112集　井上南内原遺跡	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第113集　小板井京塚遺跡2	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第114集　福童山の上遺跡3	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第115集　埋蔵文化財調査報告書1	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第116集　埋蔵文化財調査報告書2	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第117集　三沢寺小路遺跡	小郡市教育委員会
小郡市埋蔵文化財調査報告書第118集　西島遺跡5	小郡市教育委員会
宗像市文化財調査報告書第42集　冨地原森崎	宗像市教育委員会
前原市文化財調査報告書第57集　川原川右岸地区遺跡群。	前原市教育委員会
前原氏文化財調査報告書第58集　荻浦	前原市教育委員会
前原市文化財調査報告書第59集　平原周辺遺跡	前原市教育委員会
前原市文化財調査報告書第61集　平原周辺遺跡	前原市教育委員会
西堂，井原の文化財	前原市教育委員会
上鑵子遺跡	前原市教育委員会
前原市文化財調査報告書第62集　三雲，井原遺跡群調査概要	前原市教育委員会
前原市文化財調査報告書第63集　三雲，井原遺跡群Ⅰ	前原市教育委員会
飯塚市歴史資料館 年報13	飯塚市歴史資料館
飯塚市歴史資料館 年報14	飯塚市歴史資料館
飯塚市歴史資料館 年報15	飯塚市歴史資料館

書　名	発行所
飯塚市文化財調査報告書第23集　明星寺南地区遺跡群Ⅳ	飯塚市歴史資料館
福岡市埋蔵文化財センター年報 第16号	福岡市教育委員会
佐賀市埋蔵文化財調査報告書第14集　紫尾橋下流遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第15集　東千布遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第16集　泉遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第18集　泉三本栗遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第19集　黒土原遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第22集　佐賀城跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第23集　佐賀工場団地内遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第24集　立野遺跡 村徳永遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第25集　大日遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第26集　村徳永遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第27集　来迎寺遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第28集　南宿遺跡 本村遺跡 阿高遺跡 牟田寄遺跡 村徳永遺跡 古村遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第29集　本村遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第30集　阿高遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第31集　牟田寄遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第32集　村徳永遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第33集　開成小学校内遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第34集　村徳永遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第35集　鍋島本村南遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第36集　東高木遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第37集　村徳永遺跡（K地区） 篠木野遺跡（1区）	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第38集　原ノ町遺跡 東高田遺跡 櫟木遺跡 北宿遺跡 南宿遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第39集　久富遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第40集　阿高遺跡 寺裏遺跡 梅屋敷遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第41集　瓦町遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第42集　村徳永遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第43集　増田遺跡群Ⅰ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第44集　宿野遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第45集　篠木野遺跡（2，3，4，5，区） 琵琶原遺跡（2，3区）	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第46集　観音遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第47集　千布二本黒木遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第48集　大野原遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第49集　牟田寄遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第50集　増田遺跡群Ⅱ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第51集　千住遺跡 牟田寄遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第52集　大野原遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第53集　浦田遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第55集　御手水遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第56集　大西屋敷遺跡Ⅰ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第57集　東高木遺跡Ⅱ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第58集　増田遺跡群Ⅲ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第59集　原ノ町遺跡Ⅱ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第60集　友貞遺跡Ⅱ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第61集　野田遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第62集　大西屋敷遺跡Ⅱ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第63集　潤遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第64集　御手水遺跡Ⅱ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第78集　東千布遺跡Ⅲ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第79集　金立遺跡Ⅰ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第80集　西千布遺跡 友貞遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第81集　下和泉一本椎遺跡Ⅱ	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第82集　妙常寺北遺跡 妙常寺南遺跡	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第83集	佐賀市教育委員会
佐賀市文化財調査報告書第84集　牟田寄遺跡Ⅴ	佐賀市教育委員会

書名	発行所
佐賀市文化財調査報告書第85集　埋蔵文化財確認調査報告書－1992年度－	佐賀市教育委員会
佐賀市埋蔵文化財調査報告書第86集　徳永遺跡I区	佐賀市教育委員会
収蔵品目録（第1集）	佐賀市教育委員会
収蔵品目録（第2集）	佐賀市教育委員会
蓮池上犬神遺跡	佐賀県佐賀地区河川改修事務所
久保泉工場団地内遺跡	佐賀市教育委員会
増田遺跡	鍋島土地区画整理組合
唐津市埋蔵文化財調査報告書第74集　唐ノ川遺跡群	唐津市教育委員会
唐津市埋蔵文化財調査報告書第75集　八幡留第II遺跡（1）	唐津市教育委員会
唐津市埋蔵文化財調査報告書第76集　唐津市内遺跡確認調査（12）	唐津市教育委員会
唐津市埋蔵文化財調査報告書第77集　千々賀古園遺跡	唐津市教育委員会
唐津市埋蔵文化財調査報告書第78集　佐志中通遺跡	唐津市教育委員会
唐津市埋蔵文化財調査報告書第79集　菅牟田内山遺跡　山田団六遺跡	唐津市教育委員会
黒丸遺跡ほか発掘調査概報Vol.1 1994～1997	大村市教育委員会
八代市文化財調査報告書第7集　阿弥陀堂遺跡	八代市教育委員会
八代市文化財調査報告書第8集　薬師堂跡 うその谷窯跡	八代市教育委員会
熊本大学埋蔵文化財調査室年報3	熊本大学埋蔵文化財調査室
史跡人吉城跡XII	人吉市教育委員会
八代市文化財調査報告書第13集　白石貝塚	八代市教育委員会
大丸川流域遺跡群　中津市文化財調査報告第19集	中津市教育委員会
沖代地区条里跡（II）　福島遺跡東入垣地区（II）	中津市教育委員会
松山遺跡	別府大学附属博物館
松山遺跡 第2次発掘調査	別府大学附属博物館
国東の鬼会面	別府大学附属博物館
本礼結遺跡	別府大学附属博物館
宮地前遺跡	別府大学附属博物館
大分県旧石器時代遺跡分布図 1986	別府大学附属博物館
駒方古屋遺跡 第2次、第3次発掘調査報告書	別府大学附属博物館
駒方古屋遺跡 第1次発掘調査報告書	別府大学附属博物館
大分県上下田遺跡 第1次発掘調査報告書	別府大学附属博物館
大分県上下田遺跡 第2次発掘調査報告書	別府大学附属博物館
政所馬渡	別府大学附属博物館
宇佐別府道路 日出ジャンクション関係埋蔵文化財調査報告書	大分県教育委員会
飯田二反田遺跡	大分県教育委員会
わき田市遺跡	大分県教育委員会
大在古墳 浜遺跡	大分県教育委員会
宇佐道路埋蔵文化財調査報告書（3）	大分県教育委員会
大野地区遺跡発掘概報III　酒井寺西遺跡 表遺跡 長寿庵遺跡	大野町教育委員会
Funai 府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報IV	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館年報	大分市歴史資料館
えびの市埋蔵文化財調査報告書第16集　小木原遺跡群 原田.上江遺跡群	えびの市教育委員会
えびの市埋蔵文化財調査報告書第17集　妙見原遺跡	えびの市教育委員会
えびの市埋蔵文化財調査報告書第18集　お畑第3、山神原遺跡	えびの市教育委員会
えびの市埋蔵文化財調査報告書第20集　田代地区遺跡群 妙見原遺跡	えびの市教育委員会
えびの市埋蔵文化財調査報告書第21集　稲荷下遺跡	えびの市教育委員会
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（45）中原山野遺跡	鹿屋市教育委員会
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（46）中ノ原（V）遺跡	鹿屋市教育委員会
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（47）松の岡（III）遺跡	鹿屋市教育委員会

書名	発行所
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（48）王子（II）遺跡	鹿屋市教育委員会
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（49）下西原遺跡	鹿屋市教育委員会
鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（50）鹿屋城遺跡	鹿屋市教育委員会
加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（13）上加世田遺跡	加世田市教育委員会
加世田市埋蔵文化財発掘調査事業報告（14）県営広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）	加世田市教育委員会
西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（7）奥ノ仁田遺跡　奥嵐遺跡	西之表市教育委員会
西垂水（山瀬）遺跡	知覧町教育委員会
出水市埋蔵文化財発掘調査報告書（7）	出水市教育委員会
出水市埋蔵文化財発掘調査報告書（4）市来遺跡 老神遺跡	出水市教育委員会
阿久根市埋蔵文化財発掘調査報告書（3）鳥越古墳群 大薮庵遺跡 北山遺跡	阿久根市教育委員会
宇宿貝塚出土人骨編 笠利町文化財報告第23集	笠利町立歴史民俗資料館
鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（20）神野牧遺跡	鹿児島県教育委員会
鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（21）本御内遺跡III	鹿児島県教育委員会
鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（72）北薩、伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（VI）阿久根市、野田町	鹿児島県教育委員会
喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（6）提り遺跡 後田遺跡 水口遺跡 竿ク遺跡	鹿児島県大島郡喜界町教育委員会
日吉町埋蔵文化財調査報告書（2）六ツ坪遺跡	日置郡日吉町教育委員会
屋久島東、南、北事業区施業案説明書	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
読谷村立歴史民俗資料館紀要 第21号	読谷村立歴史民俗資料館
読谷村立歴史民俗資料館年報 第22号	読谷村立歴史民俗資料館
那覇市の文化財 平成8年度	那覇市教育委員会
沖縄の文化財V 埋蔵文化財編	沖縄県教育委員会
図録・目録	
昆虫標本目録（4）	釧路市立博物館
遺跡が語る茨城の歴史－発掘調査二十年の成果－	財団法人茨城県教育財団
常設展示会設 古代下野国の歴史	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 第10回企画展 はにわワンダーランド	栃木県教育委員会
第11回企画展 動物はにわコレクション 関東の動物はにわ	栃木県教育委員会
平成9年度企画展 古代の道と旅	千葉県立房総風土記の丘
資料目録9	東京都埋蔵文化財センター
特別展 重源上人	四日市市立博物館
第17回三重県埋蔵文化財展 三重のはにわ	三重県埋蔵文化財センター
鬼虎川遺跡の弥生貝塚（第21、22次発掘調査）	財団法人　東大阪市文化財協会
奈良時代の東大阪	財団法人　東大阪市文化財協会
安満宮山古墳	高槻市教育委員会
考古企画展 掘り出された中世の安芸、備後	広島県立歴史民俗資料館
特別企画展 川に生きる 江の川の漁撈文化II	広島県立歴史民俗資料館 江の川水系漁撈文化研究会
平成9年度企画展　よみがえる下関の歴史I～吉母浜遺跡～	下関市立考古博物館
平成9年度特別展 朝日谷2号墳	松山市考古館
平成9年度特別展 朝日谷2号墳	松山市考古館
再見！糸島の博物館	前原市立伊都歴史資料館
別府大学附属博物館展示資料図録1995	別府大学附属博物館
開館10周年記念特別展氏 森羅万象に遊ぶ	大分市歴史資料館
第15回特別展 米と日本人のくらし 平成米騒動－その原典	大分市歴史資料館

付　編

付編 1　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介

付編 2　出土木材の樹種鑑定に関する報告

鹿児島大学農学部生物環境学科

藤田晋輔・寺床勝也

付編1　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介

1　遺構・出土遺物の概要

鹿児島大学理蔵文化財調査室年報12の付編で，本遺跡の遺構および，木製品・木杭を除く遺物の報告を行った。年報13の付編では木製品と木杭の報告を行う。

木製品，および木杭列が出土したのは，RI1と呼んだ河川跡（Fig.12）からで，調査区のほぼ全面に広がっていた。河底のレベルを比較すると北西部が南東部よりもわずかに高くなっている。調査区の北西隅で一方の川岸が検出されたが，もう一方の川岸は調査区外に位置する。埋土は平均約1mで，河川の流れが激しかったことを示す，ラミナの形成が多く確認できた。

調査区の南西隅には幅約1.8m，深さ約1.2mの段落ちがあり，一部袋状に張り出している。調査区の中程に，北西から南東方向に並ぶ土坑を4基検出した（SK1～4）。これらはいずれも長さ・幅が2m以上，深さも1m以上あり，木杭列の並びとほぼ平行の位置関係である。SK3からは木製品が出土している。これらの土坑は木器貯蔵用の土坑であった可能性あるいは，水を得るために掘られた溜井の可能性が指摘できる。また，水流によって自然に形成されたとも想定できる。

出土遺物は土器がもっとも多く，縄文時代～古墳時代のものが見られる。その中でも弥生時代中期の土器の占める割合がもっとも高い。土器は小破片で，摩滅の激しいものが多く，河川跡出土品であることをうかがわせる。しかし，古墳時代の土器は数量的には少ないが，比較的遺存状態のよいものが多かった。付近に住居などの遺構が存在したことを示唆している。

遺物は他に，木製品，木杭，石器，鉄製品（釣り針）が出土している。

2　木製遺物の出土状況

木製品の出土地点と木杭列の検出範囲はFig.12のとおりである。

木製品

木製品のうち，組合せ式鍬は2点ともSK3から出土している。なお，SK3は長辺5.2m，短辺2.6m，深さは1.1m以上あり，SK1～4までのうちでもっとも大きい。木製品が出土したことから，木器の貯蔵施設である可能性も否定できない。木製容器は木杭列中から出土した。他にも，孔のあいた板状の木製品（PL.6-4），植物の茎と繊維の束も確認されており，木杭列が検出された地点は，木杭・木製品の保存に良好な状態が保たれていたと考えられる。

木杭列

調査区のほぼ中央部で，長さ約15m，幅2mにわたって確認された（Fig.12・13）。木杭列はほとんどが倒れた状態で検出されたが，もともとは，SK3の南西側に立っていたものと考えられる。木杭列の北東部には川底の泥炭層に突き刺さったままの太い杭も見られ，これらの杭に関連があったものと思われることから，倒れて検出された木杭は，ほぼ原位置を保っていたものと考えられる。

木杭列が集中して確認されたのはFig.12の網を掛けた部分であるが，条件が悪い地点ではすでに腐敗してしまったと考えると，木杭列はさらに広範囲に存在していた可能性がある。大部分は先端を南西側に向けていることから，北東方向への力を受けて倒れたものと考えられる。木杭列の上から植物の茎と繊維の束が検出されている。上面からの観察では編まれた状態は確認できないため，ウケや網籠ではないと思われる。木杭列の間から水が漏れないようにするための用途が想定でき，木杭と組み合わせて用いられたと考えられる。

3　木製品

1は組合せ式の木製鍬（組合せ縦柄平鍬）である。わずかに欠損部分があるものの，ほぼ完全に残っている。長さ，47.3cm，最大幅は下端から約12cm上のところで15.2cmを測る。厚みは厚い部分で1cm，薄い部分で5mm程度である。先端は片面のみが稜を有する。中程に，長さ約7cm，幅約2cmの細長い穿孔（着柄穴）が2カ所施されている。この部分と，上端の細くなった部分（着柄軸）の2カ所で柄と結びつけて用いられた。着柄軸側面の中程にわずかな窪みが見られ，柄に結びつけた際の痕跡の可能性が考えられる。また，着柄軸と着柄穴の間がFig.14-1右側でわずかに窪んでおり，柄が取り付けられていた痕跡とも考えられる。

2も1と同様の組合せ式木製鍬である。縦方向に割れており，残存部は全体の1/3程度，残存長43.8cm，残存幅5.7cmである。厚さは厚いところで9mmを計る。中央よりやや上方に着柄孔が見られるが，着柄軸は残存していない。着柄孔の長さは残存部で6.5cmを測る。刃部の形成は1とは異なり，両面とも端部付近から刃部が形成されている。サンプルを一部採取して，放射性炭素年代測定を行ったところ，2290±60B.P.という年代が得られている。

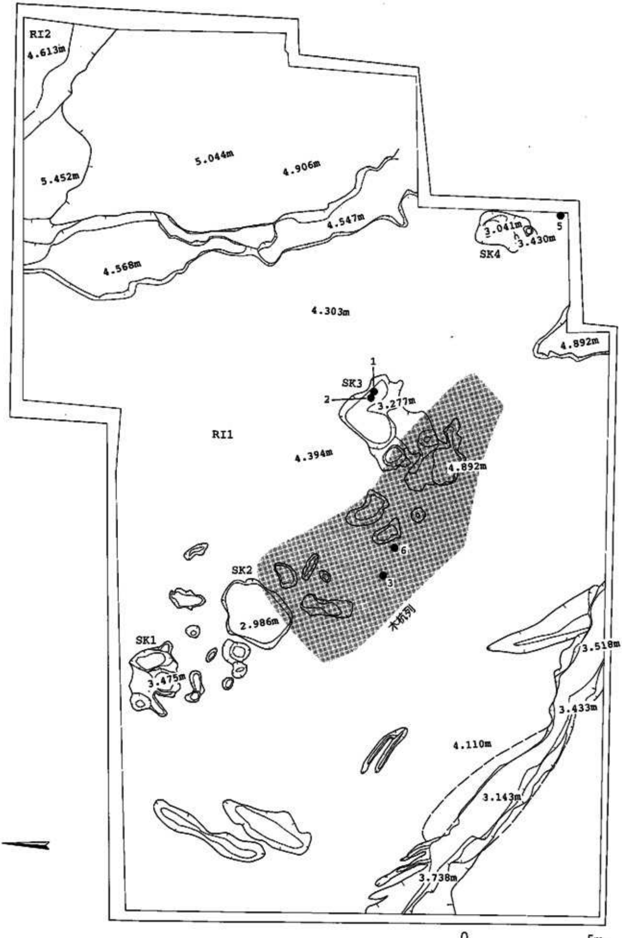


Fig.12 河川跡および木製遺物出土位置 S=1/150

Fig.13　木杭出土位置　S=1/60

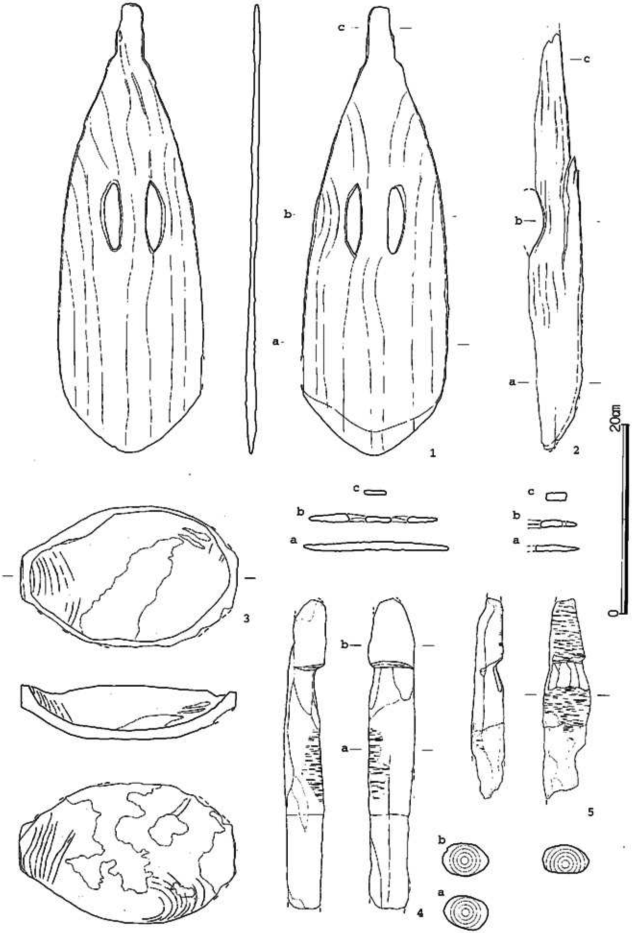


Fig.14　木製品　S=1/4

3は木製の容器である。わずかに欠損部分も見られるが，ほぼ完形である。上から見た形態は楕円形で，両小口は面を有する。最大長22.8cm，最大幅14.8cm，高さ5.7cm，深さは深いところで4.7cmである。内面はくり抜かれているが，工具の痕跡は残っていない。外面にも工具の痕跡は残っていない。外面と内面には黒色の物質が付着しており（網掛け部），漆の可能性も考えられる。

4は用途不明の木製品である。上部，下部とも欠損しており，残存長32.8cm，最大幅4.9cmを測る。残存部の中程より上部に抉りが見られる。一方からの抉りは緩やかな角度で，他方からの抉りは急な角度で施されている。抉りの範囲は上下に4～5cm程度で，緩やかな角度で抉られた部分には3面程度の面を確認できる。抉りはそれほど深くはなく，深さ1cm程度である。

5も用途不明の木製品である。上部，下部とも欠損している。残存部の長さ21.1cm，最大幅5cmを測る。残存部の中程より上方に抉りが見られる。一方からの抉りは緩やかな角度で，他方からの抉りは急な角度で施されている。抉りの範囲は上下約3cmで，緩やかな角度で抉られた部分には，4面程度の面が形成されている。抉りはそれほど深くなく，深さ約7㎜程度である。

図版PL.6-3はサルノコシカケである。半円形を呈し，長さ約10cm，幅約5cm厚さ約3cmを測る。

図版PL.6-4は，略長方形を呈し，長辺約18cm，短辺約13cm，厚さは最も厚い部分で約3.5cmを測る。直径0.5～1.5cm大の貫通する穴が5カ所，貫通しない直径0.3cmの穴が1カ所見られる。穴は，円形を呈するものが多いが，不整形のものもあり，表と裏で大きさが異なったり，斜め方向であったりすることから，人為的にあけられたものではない可能性も考えられる。

4　木杭

木杭列から出土した杭材および加工の跡が不明瞭な木材は約560本ある。実測図を掲載したのは，先端の加工が明瞭なものを中心に110本選択した。上部は乾燥し，朽ちて裂けたり，折れたりしているため，全形を知ることができるものはひじょうに少ない。

実測に際しては，加工面の残りのよいものを表とし，先端を削りだして尖らせ，土中に埋まっていたと思われる方を下にした。側面は，特徴的な形態を呈するものや，削りなど加工の明瞭なもののみを図示し，上部が表とほぼ同じ形状のものや，上部が朽ちてしまっているものは加工部分のみ展開している。加工面が不明瞭で，表も側面も上端までほぼ同じ形状のものについては，一面のみ図示している。

杭として加工された木材には，丸太材を用いたものと，別の部材を二次的に利用した可能性がある割材を用いたものが見られる。割材は未加工の部分が残っているものと，全面面取りされているものがある。前者には，丸太材を縦方向に半裁したような断面が半円形になるもの，同じく自然木を芯部付近から放射状に2面面取りした扇形を呈する（ミカン割材）ものが見られる。後者には，断面がほぼ三角形と四角形を呈するものが見られる。また断面四角形を呈するものには，先端のみ尖らせているものと，先端まで同様な形のものがある。先端の加工は，鉛筆のように全周を削ったものと，片側が未加工のものが主である。

6・7は縦5cm×横4cmほど，8は4cm×5cmほどのやや不整形ではあるが，上下から切り落とし，間がほぼ長方形で平坦になっているほぞ状の穴を有し，転用材の可能性がある。6の先端部分は片側のみ先端方向に数回削っている。先端を加工する際，穴も少し削られている。7は断面がほぼ三角形を呈し，先端付近は両脇と裏面を斜めに削り，断面は長方形を呈する。8は断面がほぼ三角形を呈し，右側に長方形状の穴を有し，左側面は削りによる浅い凹凸がある。先端付近は，下から31cm付近から角を切る形で先端に向かって斜めに緩い角度で削り，下から

Tab. 3　木杭観察表（1）

図-No.	整理No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	加工	残存長(cm)	最大幅(cm)	備　考
6	131	RI1	杭	四角形	ブナ科クリ属	右側面のみ数回削り尖らせているが，他はやや磨滅している．先端部分は欠けている．	下端から12～16cmに方形の穴があるが，右側は後から削られている．深さは1cm強．	140	10.4	転用材と思われる．折れてはいないが，部分的に欠けたりしている．所々はがれたり，縦方向に亀裂が入っている．
7	23	RI1	杭	三角形	ブナ科クリ属	断面は長方形．	下端から12.8～17cm付近に方形の穴がある．上から工具を打ち込んだ痕跡が残る．深さは2cmほど．	78	8.8	転用材と思われる．やや磨滅しており，木目が浮き出ている．
8	19	RI1	杭？	三角形	ブナ科クリ属	下端から21cm付近が段になり，厚さ3.5cmほどの板状になる．断面はほぼ長方形だが先端は数面を削っている．	下端から33.8～37.5cmの右側面を方形に抉っている．深さは2cmほど．	143.5	9.4	転用材と思われる．上方はかなり朽ちているが，全体的にしっかりしている．数カ所浅く窪む．

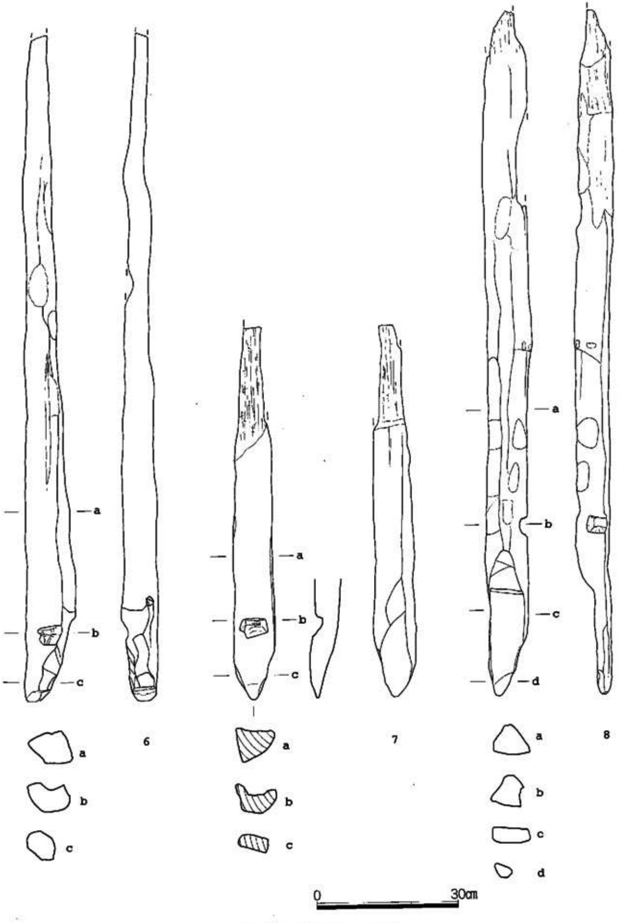


Fig.15　木杭（1）　S＝1/8

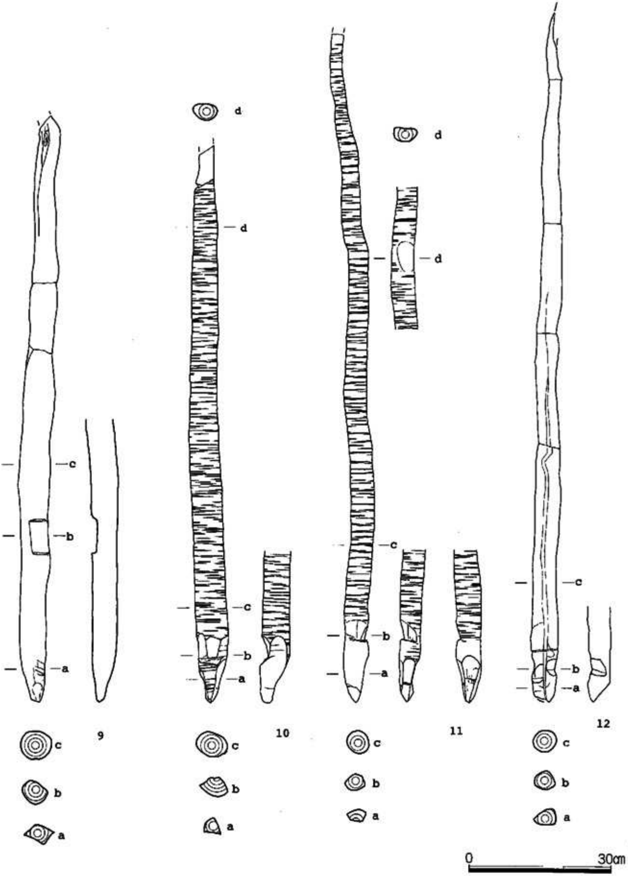


Fig.16 木杭（2） S=1/8

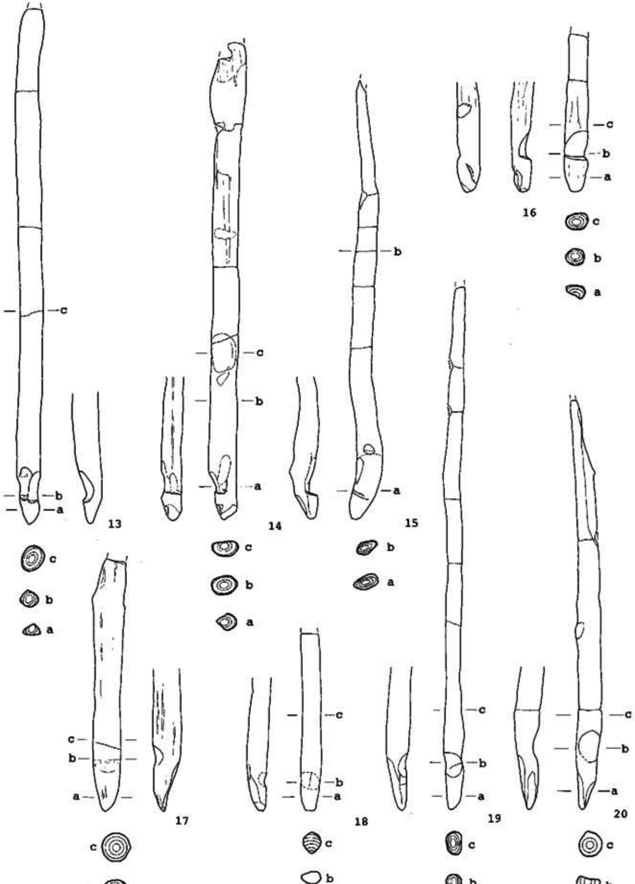


Fig.17　木杭（3）　S=1/8

Tab. 4　木杭観察表（2）

図 No.	整理 No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	加工	残存長 (cm)	最大径 (cm)	備　考
9	331	RI1	杭	丸太材	クリ材に類似	角は磨滅している．一部横方向に削り痕．	下端から31と39cm付近を垂直気味に切り落とし，間を幅3.5cmほどの平坦面にしている．	123	6.7	3本に折れている．表面は朽ちている．
10	456	RI1	杭	丸太材		両側面と裏面の3面を削る．側面は湾曲する．	下端から8～14cmの範囲．下端部側を鋭角に削り落とし，上方から緩やかな角度で断面に丸みを持たせて3面ほど削る．	117	6.8	樹皮が残る．
11	197	RI1	杭	丸太材		抉りの下は3面を削り，先端部では断面四角形．裏面は反るように削られている．角は明瞭．	下端から12.9～13.2cmの範囲．下端部側を鋭角に，上方から緩やかな角度で断面に丸みを持たせて削る．上方の削りはじめのラインはやや不明瞭．	140	5.2	全体的に残りが良好．5本に折れている．樹皮が残る．
12	219	RI1	杭	丸太材		ほぼ3面削り．裏面は急な角度で削っている．ややシャープ．先端が少し欠けている．	下端から4～8cmと5.5～9cmの範囲で亀裂を挟んで抉れている．	144	5.8	下端付近が浅く欠けている．上部は朽ちている．下端まで縦方向に大きく亀裂が入っている．6本に折れている．
13	317	RI1	杭	丸太材		断面ほぼ3角形．下面ほぼ平ら．朽ちており少し剥がれている．	下端から4.5～12cmの範囲．磨滅しているため浅い．下端側を急な角度で，上方から緩やかに削る．	108	5.2	全体的にやや朽ちているが，形ははっきりしている．5本に折れている．
14	255	RI1	杭	丸太材		大きく欠けているため不明瞭．	下端から5.6～4.2cmの範囲．下端側を垂直気味に，上方から緩やかに削る．上方からの削りはじめのラインはやや不明瞭．	109.6	5.9	かなり朽ちている．大きめの窪みがある．4本に折れている．
15	193	RI1	杭	丸太材		朽ちており丸みをおびる．下面は数回削り平らになっている．	下端から5～13.8cmの範囲．上方は不明瞭．下端側を垂直気味に，上方から緩やかに削っている．上方の削りはじめのラインはやや不明瞭．	92	5.5	もともと反った材木を用いている．全体的に朽ちている．上方は細くなっており，上端はやや欠けている．6本に折れている．
16	559	RI1	杭	丸太材		やや欠けている．裏面のみ削り．	下端から6.5～12.5cm付近．摩滅している．下端側を垂直気味に，上方から緩やかな角度で削る．削りはじめのラインはやや不明瞭．	33	5.0	全体的に朽ちており，縦方向に細い亀裂が入る．下面に浅い削り痕と深めの切り込みがある．2本に折れている．
17	229	RI1	杭	丸太材		裏面はほぼ平ら．角は丸みをおびる．	下端から約8.2～14.5cmの範囲で浅く窪むが不明瞭．	53	6.0	全体的に細い亀裂が入り，朽ちている．
18	551	中央大穴内	杭	丸太材		摩滅しており不明瞭．少し欠けている．	下端から約4.5～8.0cmの範囲で浅く窪むが不明瞭．	37	4.4	全体的にひじょうに朽ちている．面取りはしていないと思われるが，割れ口に見られる木目の芯部がずれている．
19	203	RI1	杭	丸太材	カキノキ科カキノキ属	摩滅しており不明瞭．	下端から約6.9～12cmの範囲で浅く窪む．	109.5	5.0	6本に折れている．
20	234	RI1	杭	丸太材		ほぼ5面削りだが角はつぶれている．	下端から約10～16.5cmの範囲．摩滅しており浅い．	86	5.1	上部を中心にひじょうに朽ちており，空洞になっている．3本に折れている．

21cm付近で段を形成し，そこからは平らになっている。浅い窪みが数カ所に見られる。

9～29は先端は尖らせ，抉りを有するものある。抉りは細い丸太材に多く，主に下端部付近に見られる。

9は下端から31cmと39cm付近を削り落とし，上下の長さ6.5cm，幅3.5cmほどの平坦面を有する抉りが施されている。先端部分は一部加工痕が残り凹凸がある。

10～16は先端部付近を垂直気味に短く切り落とし，上方から緩やかに数面に分けて削りだした抉りを有する。10は先端の削りが明瞭で，樹皮も残っている。11は先端の削りが明瞭で，工具の刃先がくい込んだ痕跡が残る。抉りの上方の削りはじめは不明瞭である。12の先端は，縦方向に大きな亀裂が入り，欠けているため詳細は不明である。13は2面に抉りが見られるが，全体的に朽ちており，抉りは浅くなっている。裏面はほぼ平らである。14は先端部分が欠けており，裏面は不明瞭である。中ほどに浅い窪みが見られる。15は抉りの上方の始点が不明である。抉りの上部に，浅く削り落とした加工痕が残る。16は全体的に朽ちており，抉りの部分も磨滅している。先端はやや欠けており，裏面には工具を打ち込んだような深い痕跡が残る。

17～20も同様に下端部付近に抉りが入れられていると思われるが，磨滅しており不明瞭である。

21・22の抉りは端部側から緩い角度で削り，上は垂直に中心部付近まで切り落とし，間がほぼ平坦になっている。加工面には加工方向と直交して21で幅2～4cm，22では幅2.2cmほどの工具の刃先痕が線状に残っている。切り口や端部はひじょうに鋭く削られている。横断面に湾曲が見られ，端部には未加工部分が残る。21は先端の加工面に工具の刃先がくい込んだと思われる跡が残る。22には縦方向に亀裂が入っている。ともに残存長は短いが，保存状態はひじょうによい。23・24は上下から斜めに

Tab. 5　木杭観察表（3）

図No.	整理No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	加　工	残存長(cm)	最大幅(cm)	備　考
21	134	RI1	杭	丸太材	カバノキ科クマシデ属	3面削り，一面は未加工．角はシャープに残る．右側の加工面には工具の刃先が食い込んだ痕跡が残る．	下端から12.2～13cmの範囲．下端から緩やかに削り，上方は垂直に中心部まで約2.5 cm切り落としている．間に平坦部分があり，加工方向に直交して刃先の痕跡が残る．	46	6.1	残りは良好で，切り口がひじょうにシャープ．
22	549	RI-1-57層	杭	丸太材		数面削り．下面は削り無し．側面はやや湾曲する．	下端から17.8～29cmの範囲．下端から緩やかに削り，上方は垂直に中心部まで約2.5cm切り落としている．間に平坦部分があり，加工方向に直交して刃先の痕跡が残る．	44	6.1	残りは良好で切り口がシャープ．縦方向に深めの亀裂が入っている．
23	553	粗砂中	杭	丸太材	クリ属に類似	欠けているため不明．	下端から7.4～14.5cmの範囲．深さは約3cm．上下側とも急な角度で削り，間に平坦部分がある．	22.5	9.4	抉りのある面は欠けているが，反対側は樹皮がよく残る．
24	557	東側トレンチ内	杭	丸太材		断面はほぼ5角形で，角は比較的シャープに残る．	下端から5.2～10cmの範囲．上下からとも鋭角気味に削り，間に平坦部分がある．	19	6.0	やや朽ちて欠けている．上部に削った平坦な面と，裏面に工具の打ち込み痕が見られる．
25	172	RI1	杭	扁形		断面4角形．やや欠けているが角はシャープ．	下端から10～15cmの範囲で方形に抉っている．深さは約1.5cm．工具を打ち込んだ痕跡が残る．	45	6.2	やや朽ちている．
26	296	RI1	杭	不整形	ブナ科クリ属	断面はほぼ5角形．角は比較的よく残る．	下端から14.5～22.5cmの範囲を角を切って窪む．深さは約1.5cm．	46.4	6.6	全体的に摩滅しており，上方は朽ちてさけている．
27	563	RI1	杭	扁形		全周削り．欠けている可能性もある．	下端から14.7～20.5cmの範囲が浅く窪むが不明瞭．	38.5	4.9	一部欠けている．2本に折れている．
28	566	RI1	杭	四角形		やや不明瞭．	下端から11.4～15.5cmの範囲．上下から鋭角気味に削り落としている．深さは約1.5cm．	20.8	6.2	摩滅して木目がくっきりでている．
29	202	RI1	杭	三角形	ブナ科クリ属	全周削り，角は比較的シャープに残る．	下端から16.5～33cmの範囲で窪んでいる．真ん中の薄い部分で折れている．	89.5	4.3	全体的に摩滅している．5本に折れている．

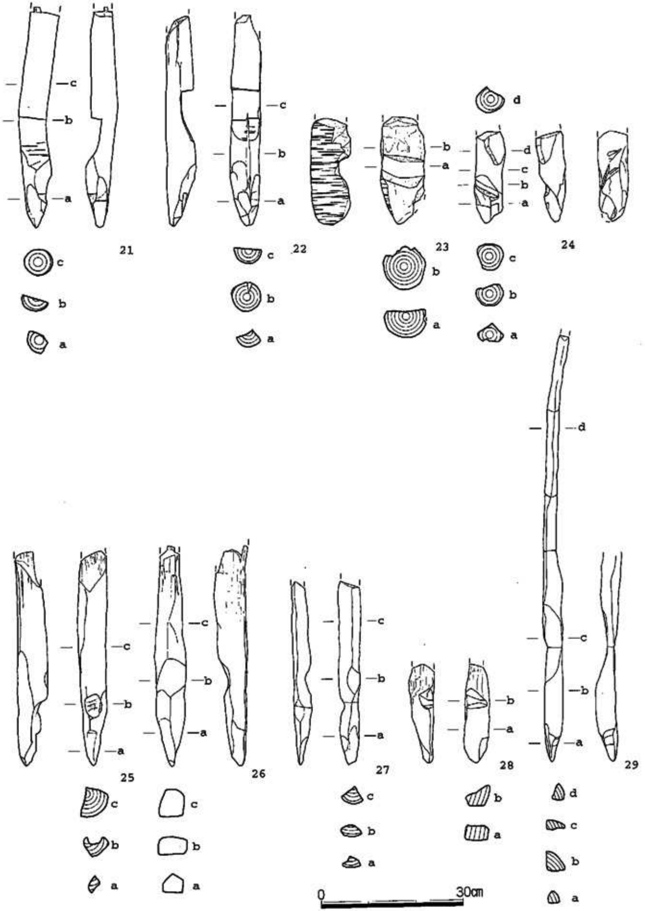


Fig.18　木杭（4）　S=1/8

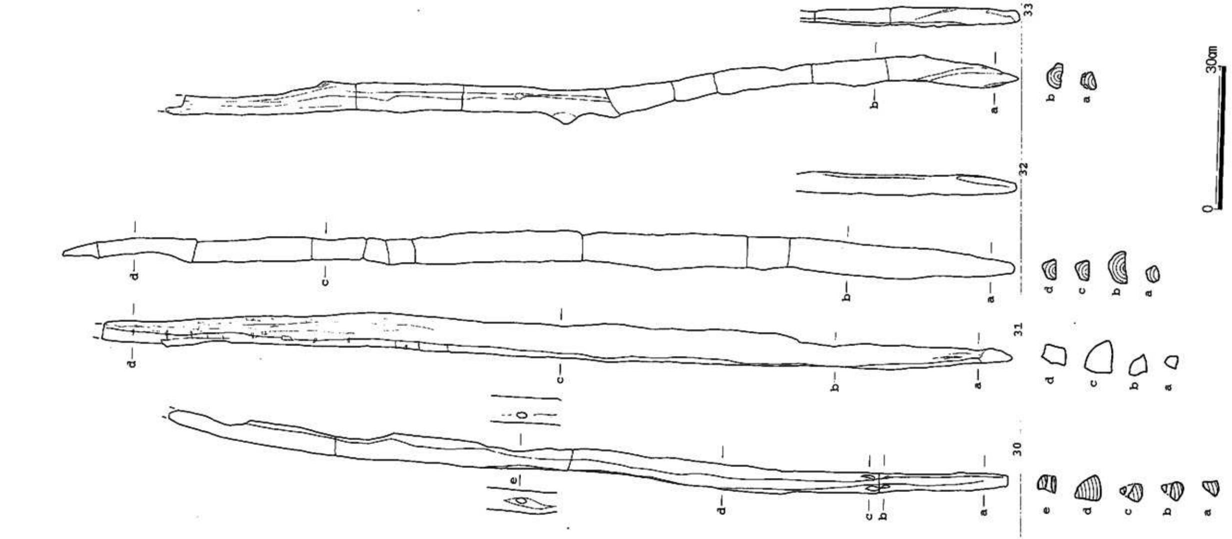


Fig.19　木杭（5）　S＝1/8

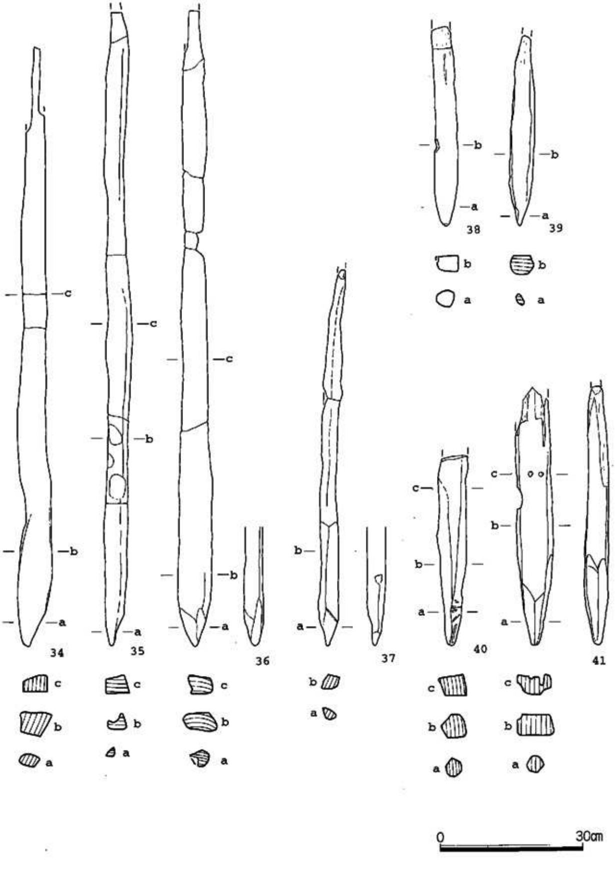


Fig.20 木杭（6） S=1/8

Tab.6　木杭観察表（4）

図No.	整理No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	残存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考
30	309	RII	杭	扇形	ブナ科クリ属	削っているが不明瞭.	177	5.6		下端から24.9cm，27cm，101.6cmのところに貫通する穴がある．形は不揃いである.
31	24	RII	杭	三角形	ブナ科クリ属	やや剥がれており不明瞭.	191.6	7.3		亀裂が多くはいる．上方はひじょうに朽ちている.
32	318	RII	杭	半円	ブナ科コナラ属	摩滅している.	202	7.5	5.2	ところどころ欠けたりつぶれたりしているが完形．10本に折れている．残存長は最も長い.
33	281	RII	杭	半円		欠けていて不明瞭．深い亀裂が入っている.	179	5.7	4.3	全体的にやや摩滅している．9本に折れている．上部は朽ちて薄くなっている.
34	332	RII	杭	四角形		摩滅しており不明瞭.	126	6.2		断面はほぼ4角形だが，自然に剥がれた可能性もある．3本に折れている.
35	173	RII	杭	四角形	ブナ科クリ属	断面ほぼ3角形.	133	5.5		押さえつけたような明瞭な窪みが3カ所ある.
36	339	RII	杭	四角形		全周削り．角はやや不明瞭．一部欠けている.	(133)	7.1	4.1	上部は剥がれたためか薄くなっている．6本に折れているが，一カ所不明な部分がある.
37	258	RII	杭	四角形		全周削り．一面は段になっている.	79	3.3		ところどころ欠けており，角が不明瞭.
38	161	RII	杭	四角形		摩滅しており不明瞭．先端やや欠けている.	42	4.9		
39	27	RII	杭	四角形		全周削り．やや摩滅している.	40	5.1		表面はシャープだが．裏面は朽ちている.
40	344	RII	杭	四角形	ブナ科クリ属	断面がやや湾曲している一面を除いて不明瞭．横方向に工具痕が数ヶ所見られる.	39.5	5.2		角はシャープ.
41	22	RII	杭	四角形	ブナ科クリ属	長めに全周削り．やや摩滅している.	54	7.7	5.0	下端から36cm付近に深さの異なる穴が並列して二つある．全体的に摩滅しており，ところどころ欠けている.

切り落とし，間にほぼ長方形の平坦面を有する。24の上方には大きめに削った平坦面があり，加工方向に沿って工具の端部の痕跡と思われる段が残る。先端部分の削りの稜線は明瞭であり，裏面には工具を打ち込んだ跡が多く残る。25は平坦面に深めの抉りがあり，下端側上方から押し込まれた幅2cmの刃先痕が残っている。26は角の部分が浅く抉られている。反対側の面は平坦である。27は角をつぶすように窪んでいるが，抉りであるかどうかは判然としない。25と27は断面が扇形を呈する。28は上下から切り落とした抉りを有する。29は長く浅い抉りを有する。先端は残りがよく，鉛筆状に細長く削っている。

10～22の下端部付近に抉りを有する杭については，類似する資料として，建築材の垂木の転用杭や「有頭杭」と呼ばれるものがある。抉りを有する端部が地中に埋まっていたと考えられることから，杭を抜けにくくする「かえし」としての機能も推定できる。これらの下端部近くの抉りが，杭列の機能として施されたものであるのか，二次的に杭として用いられたことによるものなのかは，出土状況から決定することはできない。

30～33は残存率が高い割材である。30･31は断面が三角形を，32･33は断面が半円形を呈する。30は貫通する穴が3ヶ所に見られる。32は上から下まで完全に残ると考えられる。長さは202cmを測り，出土した杭の中で最も長い。上端は細くなっているが加工の跡は見られない。

34～48は断面が四角形を呈する木材を用いたものである。35は何かで圧迫されたような数cm大のゆるやかな窪みが3ヶ所に見られる。40は先端付近に数カ所に幅1～2cmほどの，工具の打ち込み痕が残る。41は比較的加工痕がよく残り，鉛筆のように数面が削られている。削りの長さは20cmにも及ぶ。また，下端から36cm付近に並列する深さの異なる二つの穴が見られる。42は下端よりやや

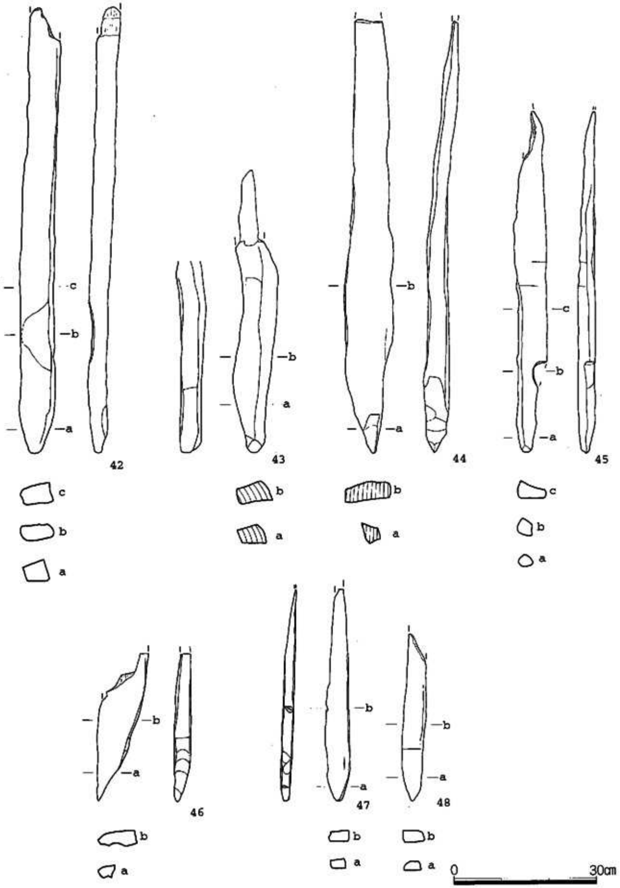


Fig.21　木杭（7）　S＝1/8

Tab. 7　木杭観察表（5）

図No.	整理No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	残存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備　考
42	167	RI1	杭	四角形	ブナ科クリ属	断面ほぼ方形.	93.6	7.4	4.6	全体的に摩滅している．下端から17.5～32cmの範囲で浅くくぼむ.
43	94	RI1	杭	四角形	ブナ科クリ属	3面削り，一面は加工なし.	59	7.6	5.6	比較的シャープ．2本に折れている.
44	165	RI1	杭	四角形	ブナ科クリ属	断面ほぼ四角形．一面は長く数回削っている．角はシャープ.	90.6	10.3	5.4	ところどころ欠けて，摩滅しているが形状はよく保っている.
45	153	RI1	杭	四角形		摩滅している.	72	6.9	3.7	全体的に摩滅している．上面は数回削ったらしくやや凹凸がある．下端から13.5～19cmが，幅2.2cmほど削られている.
46	225	RI1	杭	四角形		断面ほぼ四角形．一面は数回削り，シャープ.	30.5	8.7	3.4	やや朽ちているが，角はシャープ.
47	554	RI1	杭	四角形		断面方形.	44.5	5.2	2.2	上方はやや細くなっている．左側面に切れ込みや押さえつけたようなあとがある.
48	100	RI1	杭	四角形		下面は平担だが他は不明瞭.	35	4.7		下面は平担．やや摩滅している.
	93	RI1	杭	四角形		断面扁平.	82	9		やや丸みがある.
	168	RI1	杭	四角形		数面削り.	76	6		
	9	RI1	杭	四角形		やや尖る.	74	6		板状
	107	RI1	杭	四角形		不明瞭	74	7		下端部付近が太い.
	66	RI1	杭？	四角形		扁平.	73	9		板状
	215	RI1	杭？	四角形		断面ほぼ長方形.	58	7		板状
	189	RI1	杭？	四角形		不明瞭	50,41	7		丸みを帯びる.
	68	RI1	杭	四角形		数面削り.	37	7		
	302	RI1	杭？	四角形		断面ほぼ方形.	35	6		断面板状
	228	RI1	杭	四角形		数面削り．やや欠けている.	35	4		
	69	RI1	杭	四角形		断面方形.	23	6		角張っている.
	565	SD6内SE-149	杭	四角形		断面長方形.	22	5		扁平板状.
	86	RI1	杭	四角形		不明瞭.	123	8		やや板状.
	188	RI1	杭	四角形		ほぼ4面削り.	115	8		下方はシャープ，上方は朽ちている.
	224	RI1	杭	四角形		数面削り.	110	5		
	81	RI1	杭	四角形		数面削り.	102	9		やや丸みを帯びる.
	45	RI1	杭	四角形		欠けている.	60	9		板状.
	58	RI1	杭？	四角形		先端無し.	101	9		

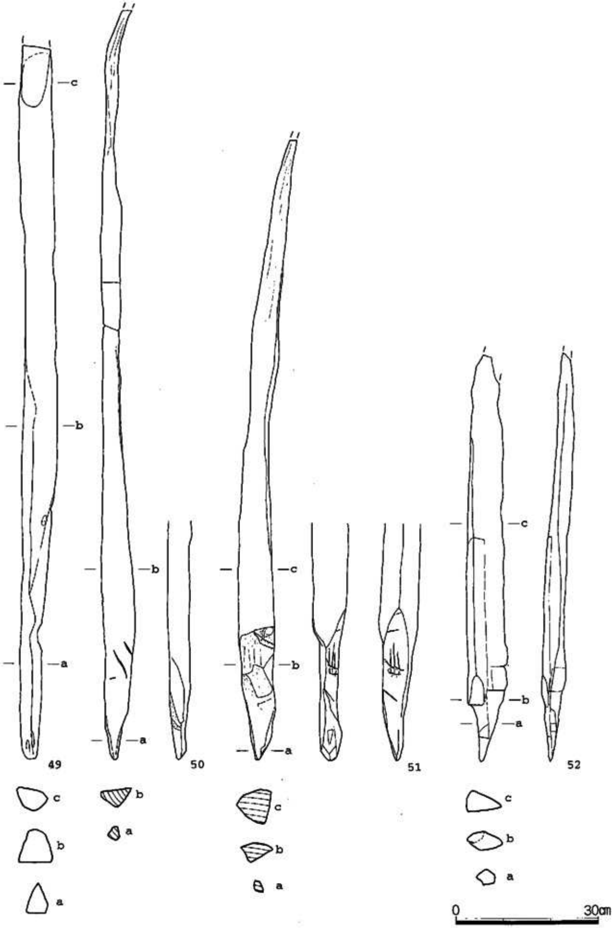


Fig.22　木杭（8）　S＝1/8

Tab. 8　木杭観察表（6）

図 No.	整理 No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	残存長 (cm)	最大幅 (cm)	備考
49	11	RI1	杭	三角形	ブナ科クリ属	断面ほぼ三角形．	150	7.6	全体的に朽ちたり欠けたりしており，上端は削っていいるかどうか不明．
50	126	RI1	杭	三角形	ブナ科クリ属	全周削り．一面は平ら．	157	7.8	上方はかなり朽ちて細くなっている．下部に工具痕がある．3本に折れている．
51	148	RI1	杭	三角形		長めに薄く全周削り．角はややシャープに残る．断面は扁平ぎみ．	130	8.2	上方は朽ちて細くなっている．全体的にやや摩滅しており，木目が浮き出ている．
52	198	RI1	杭	三角形		全周削りだが途中から折れており，剥がれている可能性がある．	85.5	8.1	縦方向に大きく剥がれている．

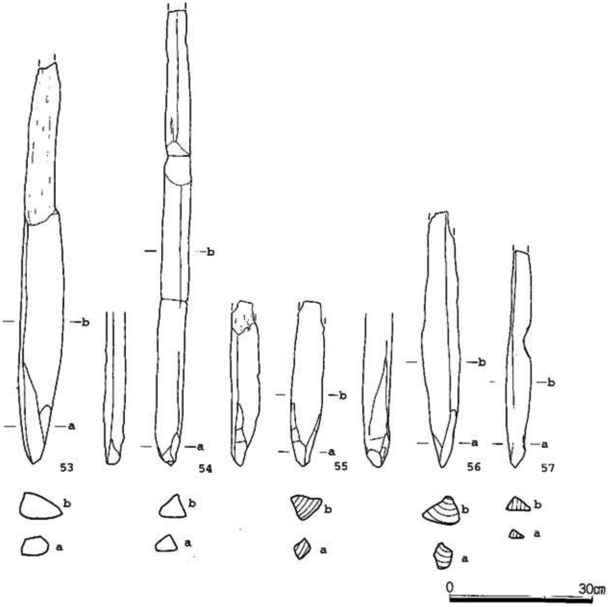


Fig.23　木杭（9）　S=1/8

Tab. 9　木杭観察表（7）

図 No.	整理 No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	残存長 (cm)	最大径 (cm)	備考
53	25	RI1	杭	三角形	ブナ科クリ属	全周削り.	84.6	9.0	上面はシャープ. 上方はやや朽ちてはがれている. 2本に折れている.
54	371	RI1	杭	三角形		短く数面削り.	95.5	5.6	ところどころ欠けている. 3本に折れている.
55	430	RI1	杭	三角形		ほぼ四角形.	34.6	6.6	やや磨滅しているが, 角ははっきりしている.
56	140	RI1	杭	三角形		全周削り. 一面ははっきりしているが他の面は不明瞭.	53.6	8.0	全体的に摩滅しており角がつぶれている.
57	217	RI1	杭	三角形		断面ほぼ3角形.	45.4	5.3	やや摩滅している.
	64	RI1	杭	三角形		断面扁平.	95	8	不整形
	195	RI1	杭	三角形		数面削り. やや不明瞭.	79.5, 38	6.0	全体的に摩滅しており, 削りは不明瞭. 3本に折れているが, 間が抜けている.
	138	RI1	杭	三角形		数面削り. 角張る.	75	7	
	213	RI1	杭	三角形		不明瞭.	71	6	
	175	RI1	杭？	三角形		不明瞭. 欠けている可能性.	66	6	
	341	RI1	杭	三角形		やや尖らせている.	63	7	
	13	RI1	杭	三角形		数面削り.	52	8	2本に折れている.
	315	RI1	杭	三角形		一面長く削る.	50	6	
	401	RI1	杭	三角形		断面扁平.	47	4	
	139	RI1	杭	三角形		数面削り.	46	5	
	46	RI1	杭	三角形		断面扁平.	44	8	
	206	RI1	杭	三角形		断面楕円.	43, 1-10	9	2本直接つかない.
	525	RI1	杭	三角形		不明瞭.	42	4	2本に折れている. 丸みをおびる.
	499	RI1	杭	三角形		不明瞭.	41	8	不整形
	377	RI1	杭	三角形		数面削り. 角張る.	39	5	
	488	RI1	杭	三角形		尖らせているか不明.	37	7	
	363	RI1	杭	三角形		ややシャープ.	28	5	
	343	RI1	杭	三角形		断面はほぼ3角形.	27	7.6	全体的に朽ちている. 押さえつけたような窪みがある.
	534	RI1	杭	三角形		やや欠けている.	27	3	

Tab.10　木杭観察表（8）

図 No.	整理 No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	残存長 (cm)	最大径 (cm)	備　考
	111	RI1	杭	三角形		断面扁平．	(140)	7	7本に折れている．節が抜けている．
	337	RI1	杭	三角形		断面半円形．	110	6	
	207	RI1	杭	三角形		ややシャープ．		6	
	391	RI1	杭	三角形			99		
	368	RI1	杭	三角形		丸みを帯びる．	93	4	
	442	RI1	杭？	三角形		先端欠損．	90	7	
	222	RI1	杭？	三角形		先端欠損．	86	7	1箇所浅く窪む．
	241	RI1	杭	三角形		数面削り．	84	5	2本に折れており，接合部付近が薄くなっている．
	491	RI1	杭？	三角形			80	5	浅い窪みがある．
	204	RI1	杭？	三角形			80		
	242	RI1	杭？	三角形		先端欠損．	76	5	
	54	RI1	杭？	三角形			60	8	
	176	RI1	杭？	三角形		先端欠損．	48	5	
	412	RI1	杭？	三角形			39	3	かなり朽ちて細くなっている．
	423	RI1	杭？	三角形			38		細い．
	96	RI1	杭？	三角形			37	5	
	462	RI1	杭？	三角形			34	7	
	231	RI1	杭？	三角形			34	5	丸みを帯びる．
	503	RI1	杭？	三角形			33	4	
	528	RI1	杭？	三角形			29	5	先端部のみ残る．シャープ．
	10	RI1	杭？	三角形			156	7.5	太い．2本に折れている．
	63	RI1	杭？	三角形		先端欠損．	132	10	一面は丸みを帯びる．
	230	RI1	杭？	三角形			128	7	ややシャープ．
	316	RI1	杭？	三角形			114	6	
	57	RI1	杭？	三角形			114	7	

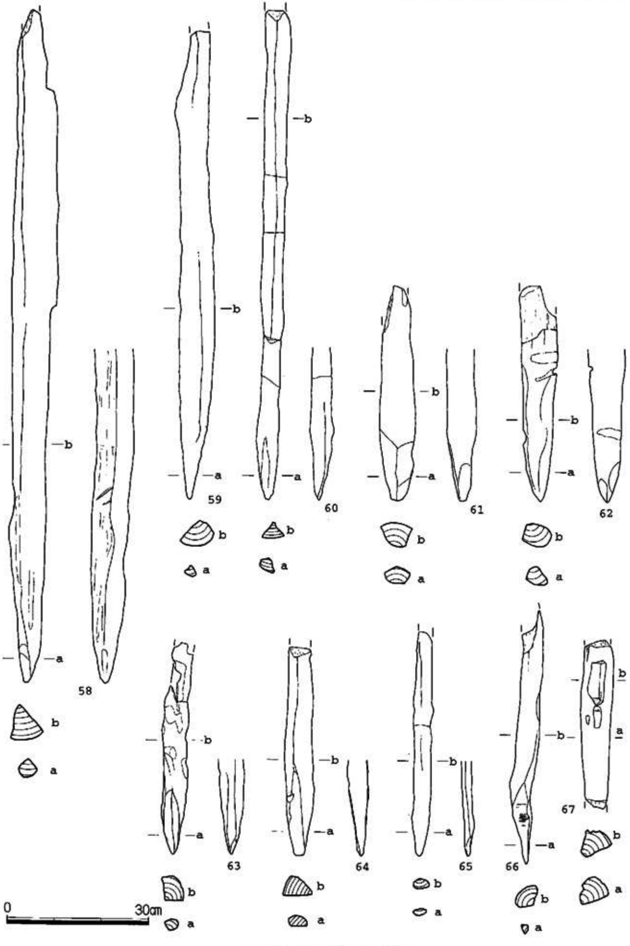


Fig.24　木杭（10）　S＝1/8

Tab.11　木杭観察表（9）

図面 No.	整理 No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	残存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	備考
58	89	RI1	杭	扁形	ブナ科クリ属	やや不明瞭.	141.3	9.9		原木の部分がひび割れさけている. 浅い切り傷が数カ所ある.
59	344	RI1	杭	扁形	ブナ科クリ属	摩滅しており不明瞭.	98	7.5		全体的に摩滅している. 原木の部分は亀裂が多い.
60	239	RI1	杭	扁形		削ってはいるがあまりシャープではない.	102.5	4.7		全体的にしっかりしているが摩滅していたり欠けたりしている. 5本に折れている.
61	30	RI1	杭	扁形		断面はほぼ五角形. 下面は朽ちたりしている. 明瞭な角もある.	45	7.6	5.2	下面は朽ちている.
62	14	RI1	杭	扁形		全周削り. やや摩滅している.	45	7.5		ヨコの亀裂や欠けた部分がある.
63	102	RI1	杭	扁形		長めに全周削り. 角は明瞭.	44.6	5.4		芯の付近からほぼ直角に切り取られている. ひじょうに朽ちており, 虫食い状に穴があいている.
64	179	RI1	杭	扁形		全周削るが, 欠けたりしており不明瞭.	43.6	6	4.4	全体的にやや摩滅している. 深めの削り痕が見られる.
65	378	RI1	杭	扁形		摩滅しており不明瞭.	47	3.8		全体的に摩滅している. 2本に折れている.
66	90	RI1	杭	扁形	ブナ科クリ属	自然に剥がれたような感じで尖っている. 一つの面に深めの刃先の痕跡が残る.	53	4.9		
67	552	RI1	杭	扁形		欠けている.	35.6	6.6		上端から4.3～13.8cm, 幅2.4cmほど大きく削られている. 下にも浅い削りがある.
	325	RI1	杭	扁形		上下ともほぼ同じ形状.	84.5	3.7		ところどころつぶれている. 3本に折れている.
	35	RI1	杭	扁形		不明瞭.	66			
	216	RI1	杭	扁形		数面削り.	49	5		
	479	RI1	杭	扁形		シャープだが剥がれた可能性がある.	44	5		
	186	RI1	杭	扁形		数面削り.	125	7		
	127	RI1	杭	扁形		断面半円形.	103	7		樹皮が残る.
	282	RI1	杭	扁形		不明瞭		8		
	12	RI1	杭？	扁形		先端無し.	80	5		
	152	RI1	杭？	扁形		先端無し.	141	8		

上の部分が広い範囲で浅く窪んでいる。42～44, 46～48は先端部の断面もほぼ方形である。44は先端の加工痕が明瞭に残っている。44～46は薄くて幅がある板状を呈する。46は先端の1側面のみ削りだして尖らせている。47の左側の側面には, 工具の打ち込み痕と押さえつけられたような浅い窪みが残る。

なお, 断面が四角形を呈するものは, 他に17本ある。

49～57は断面が三角形を呈する木材を用いたものである。49は上端の欠損部付近が浅く削られたようになっているが, 人為的なものかどうかは不明である。50の先端部は一面のみ加工の痕跡がはっきり見られる。51は先端を長く削りだしている。cの部位の断面形は整った三角形を呈し, その上方は湾曲している。加工面には刃先がくい込んだ痕跡が残る。55の先端はほぼ四角形を呈す

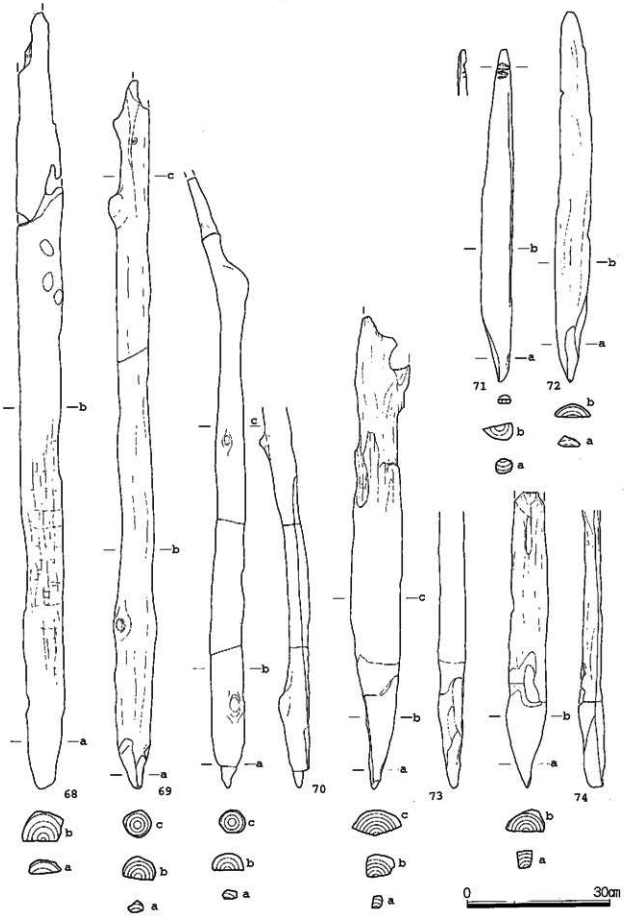


Fig.25　木杭（11）　S=1/8

Tab.12木杭観察表 (10)

図面 No.	整理 No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	残存長 (cm)	最大厚 (cm)	最大幅 (cm)	備考
68	33	RI1	杭	半円	ブナ科クリ属	摩滅しており不明瞭.	163	7.1	9.5	摩滅しており，上面に亀裂が多い．2本に折れている．上部が3カ所浅くくぼむ.
69	284	RI1	杭	半円	ブナ科クリ属	ほぼ五角形．横断面がやや湾曲している．角は明瞭に残る.	148	4.7	8	下端から120cmほどから半裁．上部は大きく裂けている．2本に折れている.
70	326	RI1	杭	半円		不明瞭.	128	4.4	6.9	下半分は半裁されており摩滅している．上半分は亀裂が入るがしっかりしている．5本に折れている.
71	311	RI1	杭	半円	クリ属に類似	摩滅しており不明瞭.	69.7	3.7	6.5	上端部に工具の打ち込み痕がある．やや朽ちている.
72	137	RI1	杭	半円	ブナ科クリ属	裏側はほぼ平らで表側のみ多面削り，側面がやや湾曲している.	77.6	2.9	7.4	上部はやや朽ちている. 完形？.
73	44	RI1	杭	半円	ブナ科クリ属	全周削り．先端付近が大きく剥がれたりしており不明瞭．先端部の角は明瞭.	99	5.7	10.5	上部は朽ちている.
74	184	RI1	杭	半円		両側面を削り，断面はほぼ方形.	62	5.2	7.9	全体的に朽ちており，穴があいている．亀裂も多い.
	109	RI1	杭	半円		数面削り.	177		7	先端部太い．3本に折れている．一部直接接合しない.
	38	RI1	杭	半円		断面四角形.	62			樹皮が残るが内部は朽ちている.
	59	RI1	杭	半円		数面削り． 角張る.	60		7	
	135	RI1	杭	半円		数面削り.	52		7	
	486	RI1	杭	半円		断面扁平.	45		6	2本に折れている.
	356	RI1	杭	半円		断面半円形.	30		5	
	182	RI1	杭	半円		片側は数面削り． 反対側は丸い.	126		7	
	132	RI1	杭	半円		一部削り.	117		11	内部が朽ちている.
	243	RI1	杭	半円		欠けている.	93		4	5本に折れている.
	39	RI1	杭？	半円		先端部欠損.	90.5		7	
	8	RI1	杭？	半円？			75, 78		6	2本に折れており直接接合しない.
	307	RI1	杭	半円		断面方形.	160		5	

る。

断面が三角形を呈する杭は他に44本あり，多くは残存長の短いものである。これは丸太材に次ぐ数であるが，表面が朽ちているため，二次加工である扇形を呈する木材と区別できないものもある。

58～67は断面が扇形を呈する木材を用いたものである。原木部分の残りはよくない。残存長が長いものは先端部の加工など不明瞭である。61は先端をほぼ五角形に削っている。63は芯の付近からほぼ直角に取られている。先端は鉛筆状に削り，加工方向の稜線は明瞭である。66の先端部は自然に剥がれたような感じを受けるが，加工面のうちの1面にだけ，工具を数回打ち込んだ幅1～

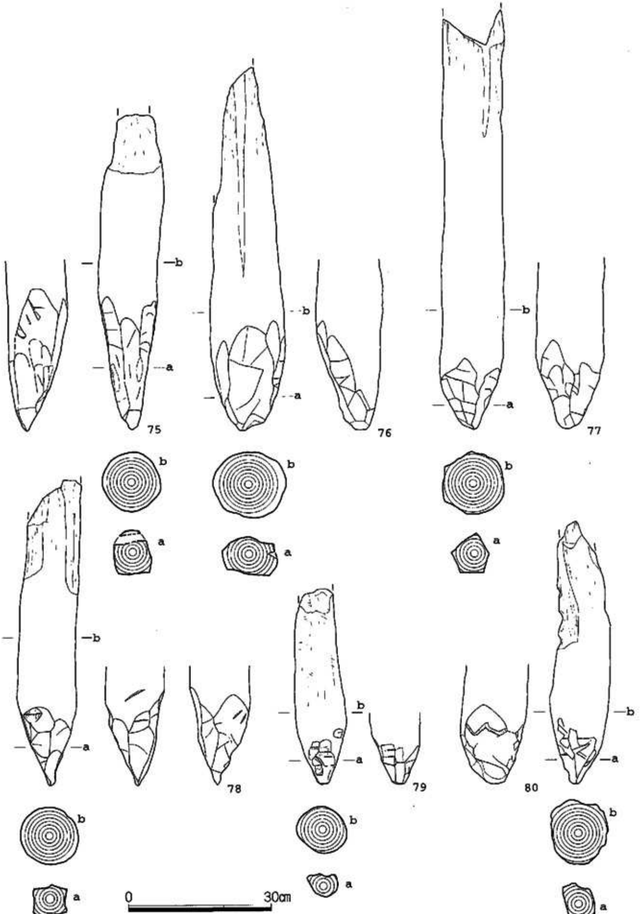


Fig.26　木杭（12）　S＝1/8

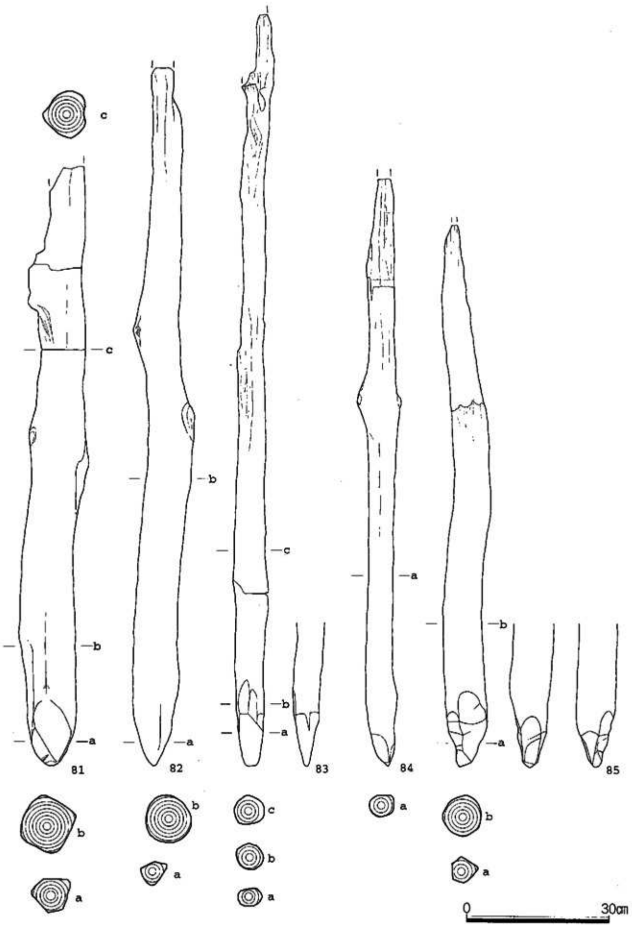


Fig.27 木杭 (13) S=1/8

Tab.13　木杭観察表 (11)

図No.	整理No.	層	種別	使用材	樹種	先端の加工	残存長(cm)	最大径(cm)	備考
75	248	RI1	杭	丸太材	クリ属に類似	全周削り．比較的シャープ．貫通する穴があるが，自然にできたものと思われる．	66	12.8	樹皮が残る．
76	91	RI1	杭	丸太材	クリ属に類似	2面を数回削る．削り痕ははっきりしているが，未加工の面は朽ちて裂けている．	76	15.6	上方は朽ちており亀裂が入る．
77	7	RI1	杭	丸太材	クリ属に類似	全周削り．断面はほぼ五角形で削り痕多数．角もシャープに残る．	89	14.3	やや樹皮が残る．上部は朽ちており，空洞になっている．
78	61	RI1	杭	丸太材	クリ属に類似	全周削り．加工痕も明瞭で角はひじょうにシャープに残る．湾曲が見られる．	64	12.7	上方は朽ちて裂けている．
79	5	RI1	杭	丸太材		全周削り．断面ほぼ三角形．	41	10.5	上方はかなり朽ちている．
80	48	RI1	杭	丸太材	クリ属に類似	2面を数回削る．部分的に欠けており，削ったかどうか不明瞭．	55	12.5	上方はかなり朽ちている．
	43	RI1	杭	丸太材	クリ属に類似	全周削り．やや摩滅している．	71.5	12	縦に大きな亀裂が入る．
	6	RI1	杭	丸太材		全周削り．角張る．	37	13	79と類似．
	37	RI1	杭	丸太材		断面はほぼ方形．角は磨滅して丸みがある．	115	12.4	全体的に朽ちており，剥がれたり裂けたりしている．
	43	RI1	杭	丸太材		不明．	43	12	
81	220	RI1	杭	丸太材	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	4面から5面削り．磨滅しており，先端もつぶれている．	125	11.4	下端近くは面取りしている可能性がある．3本に折れている．
82	154	RI1	杭	丸太材	ブナ科クリ属	平坦な面はあるが，角は丸みを帯びている．	146	9.7	小枝を切り落としている．深く長い亀裂が入っている．
83	47	RI1	杭	丸太材		数回削っているが，摩滅しているため不明瞭．	157	6.9	上半分は朽ちているが，下半分は比較的残りがよい．2本に折れている．
84	260	RI1	杭	丸太材	ブナ科クリ属	2面は削っている．	123	6.6	上部は朽ちている．
85	41	RI1	杭	丸太材		断面はほぼ五角形．全周削り，角はひじょうにシャープ．刃先が食い込んだ痕跡が残る．一つの面は小さく抉るように削る．	113.5	8.6	上方は朽ちているが，下半分の残りは良好．

2cmほどの痕跡が見られる。67の両端は欠損しているが，幅2.5cmほどの大きく削った加工痕がある。

断面が扇形を呈する木材を用いたものは他に19本ある。

68～74は丸太材を半裁し，断面が半円形を呈する木材を用いたものである。先端の加工は不明瞭なものが多い。68は，上方に数カ所浅い窪みが見られる。69は先端の加工痕が明瞭で，上方に向かって湾曲している。70は下方のみ半裁している。71・72はそれほど長くないが，完全に残ったものと思われる。71は平坦な面の上端付近をやや抉っており，その下方に工具を打ち込んだ痕跡が見られる。72の先端は片側のみ削り，側面側は湾曲している。73・74は先端部の断面が四角形を呈する。

断面が半円形を呈する木材を用いたものは他に12本ある。

75～107は，丸太材を用いた杭で，このタイプのものがもっとも多く出土している。

75～80は，先端の削りだし部分の径が10cmを超える太い丸太材を用いたものである。残存長はいずれも短い。75は先端を長く削りだしており，加工による稜線が明瞭である。76は先端の削り始め付近の最大径が15.5cmと出土した杭の中で最も太い。裏側は加工が無く朽ちているが，表側の稜線は明瞭である。77の先端の横断面は五角形を呈し，角は鋭く残る。また加工による稜線もよく残っている。78は先端部の横断面に湾曲が見られ，角はひじょうにシャープに残っている。所々深く打ち込まれ

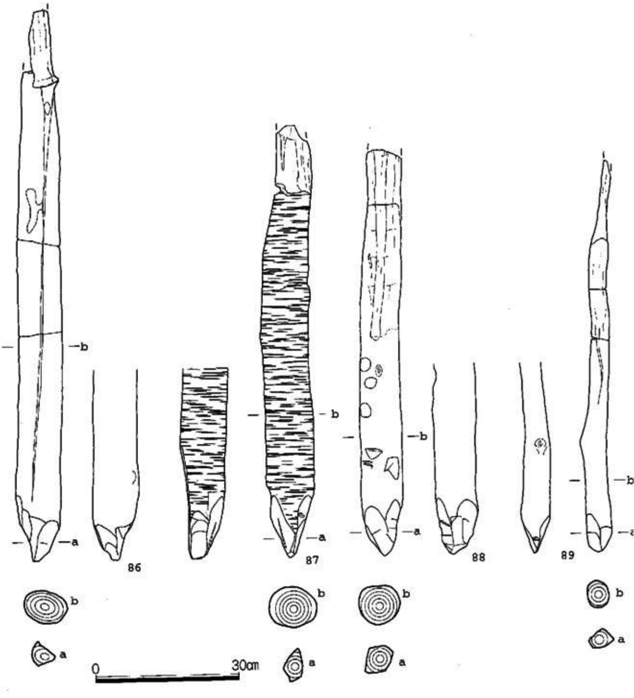


Fig.28　木杭 (14)　S =1/8

Tab.14　木杭観察表 (12)

図 No.	整理 No.	層	種別	使用材	樹種	先端の加工	残存長 (cm)	最大径 (cm)	備　考
86	174	RI1	杭	丸太材	カキノキ科カキノキ属	全周削り．角はやや摩滅している．短めに削って尖らせている．	115.5	9.2	やや朽ちており，長い亀裂が入っている．4本に折れている．
87	55	RI1	杭	丸太材	カバノキ科クマシデ属	全周削り．一面は長く削っている．角は比較的明瞭に残る．側面は湾曲している．亀裂が入る．	90.5	10.2	樹皮の残りがよい．3本に折れている．
88	78	RI1	杭	丸太材		全周削り．やや欠けているが角はシャープに残る．	85	9.1	上半分上面はかなり朽ちており，大きな亀裂が入っている．小さめの押さえつけたような窪みが数カ所ある．
89	65	RI1	杭	丸太材		断面はほぼ四角形．角は比較的シャープに残る．	82	5.8	上半分は朽ちており．亀裂が多く入る．4本に折れている．

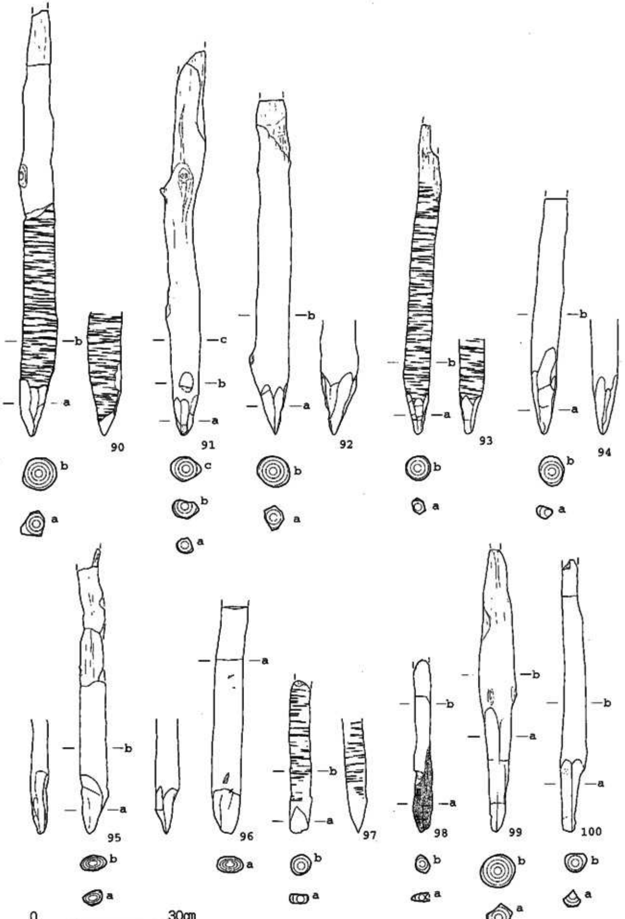


Fig.29　木杭(15)　S=1/8

Tab.15 木杭観察表 (13)

図No.	整理No.	層	種別	使用材	樹種	先端の加工	残存長(cm)	最大径(cm)	備考
90	60	RI1	杭	丸太材		全周削り．角はややシャープに残る．	89	7.3	樹皮の残りがよい．4本に折れている．上方は朽ちている．
91	2	RI1	杭	丸太材	ブナ科クリ属	全周削り．一部欠けている．	80.5	7.1	ひじょうに朽ちている．下端から9～13cmに幅3cmほどの，一つの面に刃先の痕跡を伴う削り痕が見られる．
92	62	RI1	杭	丸太材		全周削り．角はシャープに残る．	70	7.2	全体的にやや亀裂が入るなど朽ちているが，比較的残りは良好．
93	49	RI1	杭	丸太材		断面はほぼ六角形．全周削りで角はひじょうに明瞭に残る．	64.7	6.4	樹皮が残る．やや朽ちている部分があるが，残りは良好．
94	79	RI1	杭	丸太材	カキノキ科カキノキ属	全周削り．細長く削りだしている．削り痕，角は明瞭に残る．	49	6.4	樹皮が残る．
95	200	RI1	杭	丸太材	クリ属に類似	全周削り．角がシャープに残る部分もあるが朽ちているため不明瞭．	59.8	5.7	上方は朽ちている．扁平である．3本に折れている．
96	184	RI1	杭	丸太材		表裏2面を数回削る．断面扁平である．	47.5	6.2	押しつけたような窪みや，切り傷がある．2本に折れている．
97	367	RI1	杭	丸太材		表裏2面を平らに削る．やや摩滅している．	32	3.4	樹皮が残る．
98	210	RI1	杭	丸太材		朽ちているため不明瞭．扁平である．	36	3.8	下端部上面は炭化している．2本に折れている．自然に抉れたと思われる部分がある．
99	115	RI1	杭	丸太材	カキノキ科カキノキ属	3から4面削り．長めに削りだしている．欠けたり摩滅しているため不明瞭．	59	7.8	上部は朽ちている．
100	92	RI1	杭	丸太材		先端部は欠けているが，ほぼ方形で長めに削りだしている．角は明瞭．	57	5.4	2本に折れている．
	211	RI1	杭	丸太材		全周削り．朽ちているため不明瞭で，角もつぶれている．	96	5.5	全体的にかなり朽ちている．
	290	RI1	杭	丸太材		一部欠けている．	96	6	両端とも尖らせている可能性がある．
	67	RI1	杭	丸太材		角は摩滅．	93	7	
	180	RI1	杭	丸太材		角は摩滅．	91	6	
	150	RI1	杭	丸太材		全周削り．角張る．	88	10	太い．
	288	RI1	杭	丸太材		角は摩滅している．	87.5	6.8	上部は朽ちている．
	123	RI1	杭	丸太材		角は不明瞭．	86	4	
	104	RI1	杭	丸太材		不明瞭．	8，45	5	接合しないものが2本含まれる．
	340	RI1	杭	丸太材		断面はほぼ方形．角はシャープだが，亀裂が多く入っている．	76	6.6	かなり朽ちている．2本に折れている．
	446	RI1	杭？	丸太材		不明瞭．	76	5	5本に折れている．
	32	RI1	杭	丸太材		角張る．	65	8	やや角張る．
	119	RI1	杭	丸太材		数回削っているが，下面は剥がれているようで不明瞭．	62.5	4.4	やや平坦な部分がある．3本に折れている．

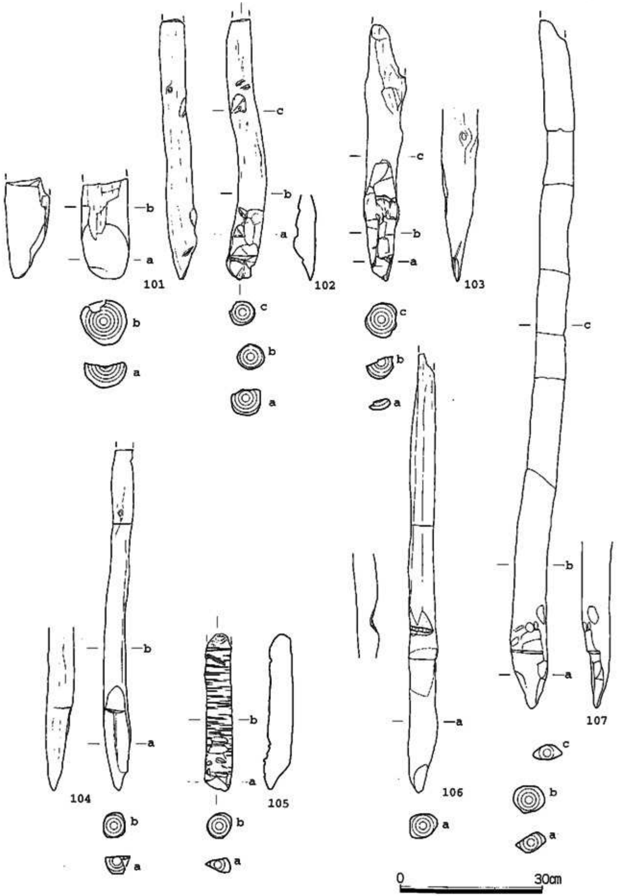


Fig.30 木杭 (16) S=1/8

Tab.16 木杭観察表（14）

図 No.	整理 No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	残存長 (cm)	最大径 (cm)	備 考
101	366	RI1	杭	丸太材		1面削り，かなり朽ちている．	21	9.9	上部が大きく裂けている．
102	370	RI1	杭	丸太材		一つの面を平坦に削り，中央付近に横方向の切り込み．	54.5	6.2	深い工具の打ち込み痕が数カ所ある．細く短い亀裂が入る．
103	312	RI1	杭	丸太材	イヌガヤ科イヌガヤ属	一つの面を数回削っている．加工具痕がはっきりしており，角も明瞭に残る．	55.5	7.0	上部は朽ちているが下端はしっかりしている．針葉樹である．
104	402	RI1	杭	丸太材		一つの面をほぼ平坦に削り．縦方向に亀裂が入っている．	71.5	5.6	やや亀裂が多く，右側面は芯からさけている．2本に折れている．樹皮が残る．
105	227	RI1	杭	丸太材		2面削り，ほぼ平坦．	33	5.7	小さい工具の打ち込み痕などが数カ所あるが，やや磨滅している．
106	130	RI1	杭	丸太材		一つの面は削っているが，磨滅しているため不明瞭．	92	6.0	朽ちており上部の内側は空洞になっている．下端から約30～38cmの範囲を大きく一面削っている．3本に折れている．
107	257	RI1	杭？	丸太材		下端から12cmのところで段になり下方は厚さ4 cm弱の板状になる．8と類似している．	143.5	7.0	下端付近に数カ所欠けたような窪みがある．7本に折れている．
	28	RI1	杭	丸太材		一面は平坦．	31	5	樹皮が残る．
	117	RI1	杭	丸太材			70	4	
	428	RI1	杭	丸太材			50	4	
	256	RI1	杭	丸太材			127	8	

た幅3cm弱の刃先痕が見られる。79の先端部は，裏側を浅く抉るように削っており，1回の動作によって生じる加工痕は独立していて小さいが，裏側は長めに削られており，加工方向の稜線は明瞭である。80の先端には未加工の面が見られる。加工面には刃先がくい込んだ痕跡が見られる。同程度の太さのものは他に4本ある。

81～94は細めの枝材を用いて先端を鉛筆状に削っている。85の先端部の横断面は角が明瞭に残る五角形を呈し，加工による稜線もはっきりしている。87は裏面を長く削りだしており，側面はやや湾曲している。樹皮の残りがよい。88の先端部は加工方向の稜線が明瞭である。裏側の加工面には刃先がくい込んだ痕跡が残っている。また数カ所，浅く窪んでいる。90～94は削りの単位の幅が細く長めである。90は下半分の樹皮の残りが良好である。91は先端部の加工面のやや上方に小さな抉りが見られ，側面は湾曲している。92の先端部は加工方向の稜線が明瞭である。93は先端部の横断面が六角形を呈し，角がはっきりしている。樹皮の残りもよい。94は先端部を長く削りだしており，角はシャープに残り，加工による稜線もはっきりしている。

95～98は先端が扁平なものである。98の下端部は片面のみ炭化している。

99・100は先端をほぼ真っ直ぐに長く削りだしている。

101～106は，先端を一面のみ斜め方向に削って尖らせている。102は先端の平面部には，横方向に縦断面がV字状の切れ込みが見られる。これはもともと抉りなどの加工が施されていた痕跡かもしれない。他に3ヶ所深めに抉るように削っており，工具を打ち込んだ痕跡も数ヶ所残っている。103はかなり長く削りだされており，加工面には刃先がくい込んだ痕跡と，工具の片側の端の痕跡が加工方向に沿って明瞭に段差となり残っている。削りの単位も明瞭である。105は数カ所小さく抉るように削っている。106の先端はやや不明瞭であり，大きな亀裂が入っているが，幅5cmほどの刃先が打ち込まれた大きな削り痕が1ヶ所見られる。107は，下端から12cm付近に段があり，そこから先端にかけては平坦である，両横と裏側を削って尖らせている。先端の形状は8に類似する。

丸太材を用いた先端を尖らせた杭は，稜線が磨滅しているものや，やや不明瞭ではあるが先端に加工したと思われるものを加えると，他に25本ある。

108～110は丸太材で，先端の加工は不明であるが，残りがよく，加工痕が見られるものである。108はひじょう

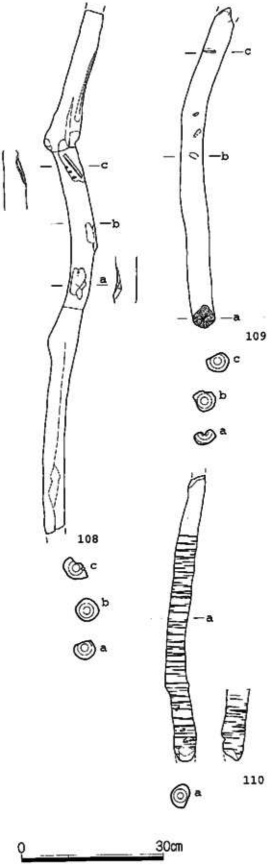


Fig.31　木杭(17)　S=1/8

にゆがみが大きく，小枝を切り落としたと思われる痕跡がある。109の下端は炭化している。110は樹皮が残り，所々に工具による1～2cmほどの切り傷が見られるが，下端は欠けている。

同じく端部が欠けているものや先端の加工が不明なものが34本ある。

111～115は，不整形なものである。

111～114は面取りの痕跡は見られるが，他のものよりも不定形である。同様のものは他に19本ほどある。115は中央付近が加工されている。

他に出土木杭は残存長が30cm未満で先端部のみのものが8本，全形も先端部の加工の有無も不明な木材が15本ある。

5　まとめ

5.1　木製品

鍬の形態に関して

出土した鍬(Fig.14-1・2)は同様の形態を呈すると考えられる。これらに類似する鍬は長崎県里田原遺跡，島根県タテチョウ遺跡，島根県西川津遺跡，大阪府鬼虎川遺跡，滋賀県大中の湖南遺跡，滋賀県入江内湖遺跡などから出土している。これらの出土資料を概観すると，形態にかなりの差異があり，本遺跡出土品のように，下端部付近で最大値をとるものは少ない。現在のところ，このような形態の差が時期差を表すのか，地域差を表すのかは不明である。

次に，年代について検討したい。本遺跡から出土した鍬は丸肩1と呼ばれるタイプである。近畿地方で出土した組合せ式鍬の丸肩1は弥生時代中期の前半期に比較的集中している。また，長崎県里田原遺跡出土資料は弥生時代前期にまで遡る可能性がある。平面形態の差異が大きいため，平面形態による変遷を追うことはできないが，着柄孔の形態によって時期の変遷を追うことができると思われる。古い鍬の穿孔は上下方向に長い楕円形のものが多く，新しくなると，より円形に近い楕円形からさらに円形のものへと移っていくようである。これに当てはめると本遺跡から出土した鍬の年代は同様の鍬の中でも古い形態であると考えられる。また，Fig.14-2をサンプルとした，放射性炭素年代測定では，2290±70B.P.という年代が得られている。したがって，本遺跡出土資料は弥生時代前期，下っても中期前半の古いところに収まるものと考えたい。

ところで，このタイプの鍬については，鍬以外の用途で使用された可能性も指摘されている。丸肩1タイプのものの最大幅の平均値は約11cmである。明らかに鍬と考

Tab.17　木杭観察表（15）

図No.	整理No.	層	種別	使用材	樹種	先端の加工	残存長(cm)	最大径(cm)	備　考
108	469	RI1	杭	丸太材		両端とも欠けている.	109.4	5.1	明瞭な切り込みや，枝を落としたような削り痕がある．ところどころ表皮が残る．長めの亀裂が入る.
109	245	RI1	杭	丸太材	カキノキ科カキノキ属	加工されているかどうか不明.	67	5.5	端部が炭化．押さえつけたような窪みや，工具痕がある．ところどころ樹皮が残る.
110	556	RI1	杭	丸太材		欠けている.	60	5.0	深めの切り込みがある．樹皮の残りがよい.
	178	RI1	杭？	丸太材			98	5	
	274	RI1	杭？	丸太材			97	6	
	493	RI1	杭？	丸太材		先端欠損.	85	8	浅い窪みがある.
	287	RI1	杭？	丸太材		欠けている.	82	4	
	471	RI1	杭？	丸太材			77	3	細長い.
	273	RI1	杭？	丸太材			74	7	上部朽ちている.
	324	RI1	杭？	丸太材			67	5	
	169	RI1	杭？	丸太材			58	7	
	346	RI1	杭？	丸太材			57	4	
	510	RI1	杭？	丸太材			52	6	
	352	RI1	杭？	丸太材			52	6	
	190	RI1	杭？	丸太材			51	5	
	320	RI1	杭？	丸太材			50	3	
	511	RI1	杭？	丸太材			45	7	
	561	SD6内SE-152	杭？	丸太材			34	4	朽ちて裂けている.
	439	RI1	杭？	丸太材			30	8	やや太い
	524	RI1	杭？	丸太材			30	3	朽ちている.
	351	RI1	杭？	丸太材			28	5	
	355	RI1	杭？	丸太材			25, 29	4	2本に入れており，直接は接合しない.
	354	RI1	杭？	丸太材			25	3	
	237	RI1	杭？	丸太材			23.7	6	
	88	RI1	杭？	丸太材		先端欠損.	156	7	
	21	RI1	杭？	丸太材		先端欠損.	123	9	ところどころ角張っている.
	329	RI1	杭？	丸太材		先端欠損.	117	7	押さえつけたような浅い窪みがある.
	259	RI1	杭？	丸太材			107	9	やや太め.
	328	RI1	杭？	丸太材		先端欠損.	102	7	3本に折れている．折れたところが窪んでいる.
	333	RI1	杭？	丸太材		先端欠損.	102	8	3本に折れている.
	353	RI1	杭？	丸太材		先端欠損.		4	浅い窪みがある.

Tab.18　木杭観察表 (16)

図 No.	整理 No.	層	種別	使用材	樹種	先端の加工	残存長 (cm)	最大径 (cm)	備考
	244	RII	杭	丸太材		断面扁平.	61	4	小刀状を呈する.
	98	RII	杭	丸太材		断面扁平.	61	5	
	250	RII	杭	丸太材		全周削り.	60	9	
	562	RII	杭	丸太材		角は摩滅. 細くなっている.	56	5	一つの面に炭らしいものが付着.
	204	RII	杭	丸太材		削りの面かどうか不明瞭	50	5.3	上方は朽ちている. 押さえつけたような窪みが2カ所ある. 3本に折れている.
	83	RII	杭	丸太材		角は摩滅	50	6	
	99	RII	杭	丸太材		断面扁平.	49	5	
	448	RII	杭	丸太材		断面扁平.	44	6	やや半円. 下面朽ちている.
	71	RII	杭	丸太材		角はシャープ	41	4	
	251	RII	杭	丸太材		断面扁平.	38	5	
	196	RII	杭	丸太材		断面扁平.	36	6	
	519	RII	杭	丸太材		扁平.	34	6	
	252	RII	杭	丸太材		断面扁平.	157	5	
	56	RII	杭	丸太材		全周削り. 短い.	148	8	4本に折れている.
	87	RII	杭	丸太材		角は摩滅.	145	6	
	233	RII	杭	丸太材		角は不明瞭.	132	5	
	38	RII	杭	丸太材		角は摩滅.	125	8	
	296	RII	杭	丸太材		角は不明瞭.	114	8	
	214	RII	杭	丸太材		先端部はシャープだが角は不明瞭.	113	6	
	209	RII	杭	丸太材		断面はほぼ4角形.	106	5	側面は朽ちている.
	495	RII	杭	丸太材		角は摩滅.		4	
	192	RII	杭	丸太材		先端部やや欠けている.	89	7	
		RII	杭	丸太材		先端部はやや欠けている.	30	5	
		RII	杭	丸太材		やや欠けている.	107	5	先端部が折れている.
	283	RII	杭?	丸太材		3面ほど削り. あまりシャープではない.		5	

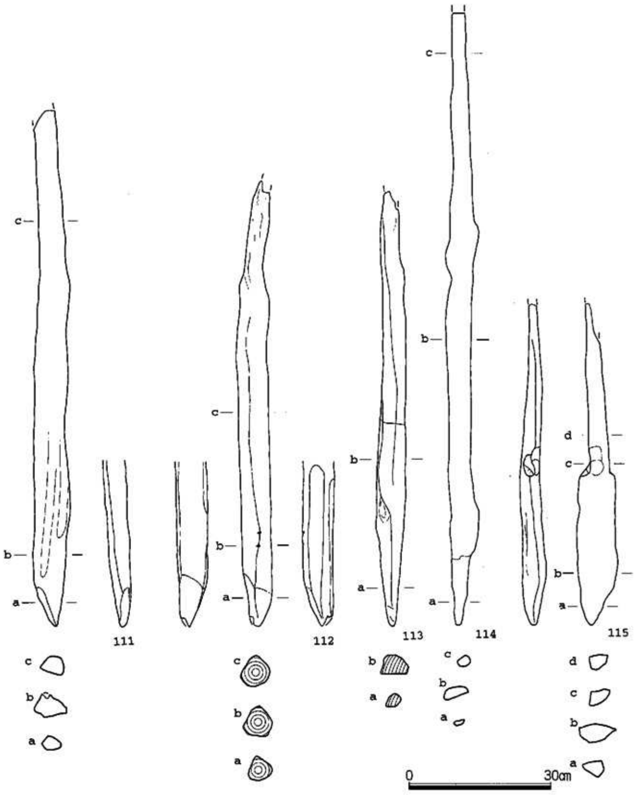


Fig.32　木杭（18）　S＝1/8

Tab.19　木杭観察表 (17)

図 No.	整理 No.	層	種別	使用材の形状	樹種	先端の加工	残存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	備　考
111	50	RI1	杭	不整形		数面削り．やや摩滅している．	108	7.5	4.7	大きな亀裂が多く入っている．所々大きく朽ちているため原形は不明．
112	267	RI1	杭	不整形	ブナ科クリ属	数面削り．端部が少し欠けている．	93.5	6.2		ところどころ平坦にしている．上部は朽ちている．
113	221	RI1	杭	不整形		摩滅しており不明瞭．	91	6.0		下面は平らだが他の面はいびつ．3本に折れている．
114	286	RI1	杭	不整形		全周削っているが，角は不明瞭．	128.6	5.5		下面は平坦．全体的に摩滅している．
115	151	RI1	杭	不整形	ブナ科クリ属	断面は三角形に近いが，所々欠けているため不明瞭．	67.5	8.4	5.1	真ん中付近に押さえつけたような浅い窪みや，削った部分がある．上半分は細く，端部は朽ちて細くなっている．亀裂が入っている．
	181	RI1	杭	不整形		扁平．	35			
	314	RI1	杭？	不整形			37			工具の打ち込み痕のような部分がある．
	185	RI1	杭？	不整形			100			工具の打ち込み痕のような部分がある．
	470	RI1	杭？	不整形			47			横方向に切り込みが多くついている．
	440	RI1	杭？	不整形		扁平	31			薄いが，剥がれた可能性がある．
	454	RI1	杭	不整形		ほぼ方形．	66			やや角張っている．
	449	RI1	杭	扁平		一面を削っている？	64			扁平．
	313	RI1	杭	不整形		扁平．	48			下側は剥がれている．
	26	RI1	杭	不整形		両端尖っている．	78			ゆがんでいる．
	31	RI1	杭	不整形			101			上方はシャープな形をしている．
	423	RI1	杭	不整形		削りだしている．	38			
	434	RI1	杭	不整形		断面扁平．	71			
	335	RI1	杭？	不整形		先端部は欠けている．	141			
	3	RI1	杭	不整形		角張っている．	99			
	4	RI1	杭	不整形			140			抉ったような部分がある．
	530	RI1	杭	全形は不明		数面削り．やや欠けている．	38			朽ちたり剥がれたりしている．
	450	RI1	杭	全形は不明		数面削り．	55			朽ちているためよく分からない．
	308	RI1	杭	全形は不明		断面半円形．	78			角張っているが朽ちている．
	416	RI1	杭	全形は不明			36			

えられるものの最大幅が，組合せ式で16～21cm，一木鋤で15～17cmであることと比べるとかなり狭いことがわかる。このことから，丸肩１については組合せ式の櫂として用いられた可能性が想定されている。組合せ式の櫂はまだ出土していないため，断定はできないが，ほかに，丸肩１タイプの鋤の出土した地点が，大阪湾沿岸や琵琶湖岸に集中していること，刃の縁が尖っているものが見られることなども櫂の根拠として挙げられている。

本遺跡出土品も河川跡からの出土であり，櫂の可能性を否定はできない。しかし，本遺跡から出土した鋤の幅は15.2cmで，丸肩１タイプの中ではひじょうに幅が広く，明らかに鋤であると考えられる鋤の最大幅のピークとも一致している。幅が狭いこと，刃の縁がとがっていることなどが，櫂であるという想定の根拠になっているが，本遺跡出土品は丸肩１の中ではきわめて幅が広く，しかも，刃の縁はそれほど尖ってはいない。この資料に関しては，鋤として用いられたのか，櫂として用いられたのか，その位置づけは判然としない。

5.2　木杭列

丸太材と二次的利用の可能性のある割材

木杭は上部が欠損するものが多く，完全に残るものはほとんどなかった。Fig.19-32は完全に残ると思われるもので，長さ202cmを測る。一方，Fig.25-71･72も全体が残るものと考えられるが，全長は70～80cmほどである。杭の長さにある程度のばらつきはあったと思われるが，残存長が１ｍを超すものも多くみられ，また，杭列という性格上，Fig.19-32の杭と同程度の長さの杭が多く用いられたものと推定したい。

用いられた材木には丸太をそのまま用いたものと，割材が見られた。割材は別の用途に用いられたものが，二次的に杭として用いられた可能性もある。しかし，元の用途を特定できるような資料は確認できていない。

割材には丸太材を半裁した断面半円形のもの，丸太材を芯部付近から放射状に２面面取りした扇形を呈するもの，３面面取りが行われ，断面が３角形を呈するもの，４面面取りが行われ，断面が四角形を呈するものが見られる。先端の加工は全周に及ぶものと，片面だけ行ったものがある。

杭の中には抉りの見られるものがある。その多くは，下端付近に施されており，杭としての使用の際には土中に埋没するような位置である。抉りは杭を抜けにくくする「かえし」としての機能や，この部分で他の杭と組み合わせて用いられたことが想定できる。また，建築材からの転用の可能性も考えられる。なお，抉りが施されるのは多くが丸太材で，抉りが見られる杭全体の中で，丸太材が占める割合は67パーセントにのぼる。

木杭の表面は遺存状況があまり良くないため，加工に用いられた工具の痕跡は明瞭でないものが多かった。鉄製工具の証拠とされる刃こぼれ痕が明瞭に残るものも確認できなかった。しかし，杭先の加工面に加工具の刃先がくいこんだ痕跡の見られるものがある。刃先の形状が，離れずに残った切り屑に覆われており，宮原晋一氏によるＡ種刃先痕にあたる。これは，鉄製工具を使用した際に残るとされている。21･51･66･80･103･106などは深くくいこんでおり，刃先痕を覆う木材の繊維が残る。11･78･88･104などは刃先痕を覆う部分がわずかに盛り上がり，人為的あるいは摩滅のため，切り屑は残っていない。これらの他にも幅２～５cmの浅く打ち込まれた刃先の跡や，21･22のように，刃部の跡が加工方向に対し直交して，線状に残るものもある。また，103は加工方向に沿って，刃先の端部の痕跡が明瞭に残っている。

木杭列の時期は後述するように，弥生時代中期の年代が考えられる。宮原氏によると，この時期には北部九州では石製工具はもはや用いられておらず，鉄製工具が用いられたとしている。南部九州においても，杭の加工には鉄製の工具が用いられたいたと考えられる。

なお，RI１の埋土から杭の加工に用いたと考えられる，鉄製の工具や石製の工具は出土していない。

樹種同定

出土した木杭列のうち45点について樹種同定を依頼した（付編２参照）。39点については属レベルでの樹種同定が行われ，38点が広葉樹，１点が針葉樹であった。属レベルの内訳はカバノキ科クマシデ属２点，ブナ科アカガシ亜属２点，ブナ科クリ属29点，カキノキ科カキノキ属５点，イヌガヤ科イヌガヤ属１点で，もっとも多く見られたのはブナ科クリ属であった。クリは耐水性，耐久性に優れており，現在でも杭木として用いられているということで，樹種特性に応じた使用が当時すでに行われていたことが指摘されている。また，クリは丸木材，割材ともに使用されている。クリ以外の樹種は丸木材として用いられる例が多い。

出土した木杭すべてについて，同定を行っていないため，その他の樹種が含まれる可能性は否定できないが，上記の樹種が出土資料の中では代表的なものと思われる。

木杭列の時期

木杭列から出土した土器のうちもっとも新しいものは，弥生時代中期後半に位置づけられる，いわゆる山ノ口式と呼ばれる型式のものである。このことから，木杭列はこの時期に倒壊･埋没したと考えられる。また，木杭の放射性炭素年代測定値は1960±60B.P.を示しており，

これは土器の年代観とよく一致する。しかし，木杭列が作られたのが弥生時代中期後半なのか，それよりも古い時期なのかは，年代測定を行った資料が１点のみであるため断定はできない。

木杭列の性格

先に述べたように転用材が多いが，先端を尖らせており，杭として用いられたことは確実である。その場合木杭列の性格として，井堰，木器貯蔵土坑の防護施設，護岸施設の３つの可能性が考えられる。

川底のレベルは調査区の北西側が高く，南東側が低いことから，河川の流れは北西→南東であったと考えられる。しかし，通常は川幅いっぱいに水が流れていたのではなく，検出した川幅の中で時期によって，幅や流路を変えながら流れていたものと考えられる。木杭列の部分で，これと直交する流れであったとすると，木杭列は井堰として機能していたことになる。

SK３からは組合せ式の鋤が出土しており，木器の貯蔵施設であった可能性が考えられる。また，木杭列も元々SK３の付近に立っていたものと考えられる。これらのことから，SK３と何らかの関連がある施設だった可能性があり，その場合，木杭列は木器貯蔵土坑であるSK３に土砂などが入り込まないようにするための施設と考えられる。しかし，中から出土した鋤の年代は弥生時代前期頃と推定され，杭列の倒壊·埋没時代とは，かなりの時間差がある。弥生時代中期後半までにはSK３はすでに埋没していた可能性が高い。

木製品の年代は，弥生時代前期に比定できること，弥生時代中期後半にはSK３が埋没していた可能性が高いことを考えると，木器貯蔵土坑に土砂などが入り込まないようにするための施設であった可能性は低いと思われる。

川底の傾斜から，RI１の流れの方向は基本的には北西→南東と推定できる。木杭列の部分でも北西→南東方向の流れであったとすると，木杭列と流れの方向とが平行することになる。この場合，木杭列の性格は護岸施設であったと考えられる。

RI１から出土した土器のうち年代がわかるものの分布状況を検討したところ，弥生時代中期前半までは，RI１内のほぼ全体に分布しているが，弥生時代中期後半以降になると，木杭列の北東側には土器の出土がほとんど見られなかった。これは，弥生時代中期後半に，木杭列の北東側がすでに埋没していた可能性を示すものである。このことから，木杭列は埋没した部分と河道との境に位置していたことになる。この場合，木杭列は護岸施設の可能性が高くなる。しかし，木杭列の作られた時期は弥生時代中期後半よりも古くなる可能性もあり，断定はできない。

これらのことから，木杭列の性格について確定できないが，RI１の流れの方向，埋没状況などの検討からは護岸施設であった可能性が高いと考えられる。

参考文献

黒崎直（1985）「６農具　1.くわとすき」金関恕·佐原眞編『弥生文化の研究』５．雄山閣．

町田章（1985）「９容器　2.木製容器」金関恕·佐原眞編『弥生文化の研究』５．雄山閣．

宮原晋一（1988）「６補稿　2.石斧，鉄斧のどちらで加工したか－弥生時代の木製品に残る加工痕について－」金関恕·佐原眞編『弥生文化の研究』10．雄山閣．

望月由香子·岩崎しのぶ（1996）『瀬名遺跡Ⅴ（遺物編Ⅱ）本文編』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第79集．財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所．

大西智和（1998）「付編　郡元団地H－11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』12．鹿児島大学埋蔵文化財調査室．

力武卓治·大庭康時（1987）『那珂久平Ⅱ』福岡市埋蔵文化財調査報告書第163集．福岡市教育委員会．

鈴木勉·小西一郎（1995）「長崎遺跡出土木製品にみる弥生時代の木工技術と工具について」『長崎遺跡Ⅳ（遺物·考察編）』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第59集．財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所．

上原真人編（1993）『木器集成図録　近畿原始篇』奈良国立文化財研究所史料第36冊．奈良国立文化財研究所．

渡辺誠（1982）「杭·矢板の加工痕について」『菜畑遺跡（分析·考察編）』唐津市教育委員会．

付編 2　出土木材の樹種鑑定に関する報告

鹿児島大学農学部　生物環境学科
地域資源環境学コース　木質資源利用学講座

藤田晋輔・寺床勝也

1　はじめに

鹿児島大学工学部構内より出土した杭木45点について樹種同定を行った結果を以下に報告する。ここでは光学顕微鏡による微視的な解剖学的特徴を明らかにし，観察で得た結果と木材組織の細胞構成や配列についての既往の文献及び樹種別記載[1〜5]との比較検討を行うことにより属レベルで同定を行った。

2　観察方法

出土木材は土中に埋没した杭木であるため，ほとんどの試料が泥炭化していたために，軟化が著しくミクロトーム切片法による薄切片を調整することはできなかった。そのため，片刃カミソリによる薄切片法[6]により手作業で切り出した。切片は，試料の木口面，板目面，柾目面の直交3断面からそれぞれ切り出され，それらを一時プレパラートに封入し光学顕微鏡観察により検鏡され，写真撮影[7]を行い樹種同定を行った。樹種同定は検索表[5]を用いて絞り込んだ。検索表の使用にあたっては，否定的な選択を用いず，識別の拠点となる項目のみに絞り，様々な可能性を選択することを念頭におき，異なるアプローチで絞り込まれるまで繰り返し行った。最終的に頻度の高いものを候補として取り上げ，樹種同定にいたった。なお，組織の変形が著しい試料もあるために，識別拠点の採用は慎重に行われた。

3　観察と考察

出土木材45点のうち39点は属レベルでの樹種同定ができたが，残りの6点は同定にはいたらなかった。そのうちの1点（試料番号193）は泥炭化の進行が著しく組織の破損が激しかったために切片採取できなかった。同定結果の一覧を表1に示す。不明6点を除く39点の内訳は，38点が双子葉植物（広葉樹）で，1点が単子葉植物（針葉樹）であった。43点の広葉樹の内訳をみると，最も出現数が多かったのはブナ科クリ属の29点で，その他はカキノキ科カキノキ属の5点，ブナ科（コナラ属）アカガシ亜属の2点，カバノキ科クマシデ属の2点であった。針葉樹はイヌガヤ科イヌガヤ属の1点であった．なお，不明6点のうち試料作製不可であった1点を除いた5点については，2属に分別される可能性があり，そのうちの4点は同属と考えられた。不明5点はいずれも散孔材であるが，組織の損傷が激しく識別拠点が十分に得られなかったことに加え，散孔材の種類は非常に多く，十分に絞り込むことができなかったことにより樹種同定にはいたちなかった。結果的に4科5属の種類が認められた。

以下，樹種ごとに，同定の拠点となった解剖学的特徴を含め結果を概説する。記載順序については，出土木材の大多数を占める双子葉植物から先に述べた。双子葉植物の分類，学名，記載順序は北村[8]によった。

カバノキ科クマシデ属　(*Carpinus*)（写真1～4）

散孔材である。道管は散在状に分布し，単独もしくは放射方向に2~3個の複合管孔を示すものもみられた。道管は肉眼でかろうじて認められる大きさで約100μmの直径であった。道管の柾目断面では階段穿孔が認められた。年輪界は明瞭で，この属の特徴である年輪界の波状性が認められた。軸方向柔細胞はターミナル柔細胞を示し帯状もしくは線状に配列し，年輪界に沿って波状に分布していた。また軸方向柔組織は周囲柔組織として道管を取り巻く形で存在しているものも認められた。放射組織は複列放射組織と集合放射組織が認められた。複列放射組織は上下に1細胞高の方形細胞を配し，内部は10～15細胞高の平伏細胞が2列に並んでいた。集合放射組織は，年輪界の波状のくぼみに相当する部分に形成されこの種の同定拠点となった。クマシデ属には，イヌシデ，アカシデ，クマシデ，サワシバの4種が該当する。

ブナ科アカガシ亜属　(*Cyclobalanopsis*)（写真5～7）

放射孔材である。道管は孤立管孔で，放射方向に並ぶ。道管の大きさは肉眼でも認められ，200μm程度であった。道管は単穿孔で，道管内にはチロースが充填していた。放射組織は肉眼でも認められ，幅300μmの集合放射組織が認められた。その他の放射組織は細胞高10～20程度の単列であり，上下に方形細胞が1列を有す平伏細胞が数多く散在していた。該当種として，シラカシ，アカガシ，イチイガシ，アラカシ，ツクバネガシがあげられる。

表１　出土木材の樹種同定結果

試料番号	同定植物名（学名）	備　考
2	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
11	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
15	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
19	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
22	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
23	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
24	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
25	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
33	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
44	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
55	クマシデ属（*Carpinus*)	カバノキ科（BETULACEAE)
79	カキノキ属（*Diopyros*)	カキノキ科（EBENACEAE)
89	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
90	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
94	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
115	カキノキ属（*Diopyros*)	カキノキ科（EBENACEAE)
126	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
131	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
134	クマシデ属（*Carpinus*)	カバノキ科（BETULACEAE)
137	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
154	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
165	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
167	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
173	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
174	カキノキ属（*Diopyros*)	カキノキ科（EBENACEAE)
184	不　明　？	234、255、549と同属
193	不　明　？	切片作製不可
202	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
203	カキノキ属（*Diopyros*)	カキノキ科（EBENACEAE)
220	アカガシ亜属（*Cyclobalanopsis*)	ブナ科（FAGACEAE) コナラ属（*Quercus*)
234	不　明　？	193、255、549と同属
245	カキノキ属（*Diopyros*)	カキノキ科（EBENACEAE)
255	不　明　？	193、234、549と同属
260	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
267	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
284	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
296	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
309	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
312	イヌガヤ属（*Cephalotaxus*)	イヌガヤ科（CEPHALOTAXACEAE)
318	コナラ属（*Quercus*)	ブナ科（FAGACEAE)
334	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
344	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
469	不　明　？	単体のみ
522	クリ属（*Castanea*)	ブナ科（FAGACEAE)
549	不　明　？	193、234、255と同属

（試料番号は付編１の木杭観密表の整理No.に一致する）

ブナ科クリ属 (*Castanea*)(写真8～10)

環孔材である。孔圏内の道管は孤立管孔で,3～5列放射状もしくは斜状に多列配列しており,孔圏外に行くに従い漸進的に道管直径は減少していた。道管は単穿孔で,道管内にはチロースが多く認められた。道管の直径は肉眼でも認められるほど甚だ大きく,大きいものは直径500μm程度であった。孔圏外の小道管の配列は放射状･紋様状であつた。年輪界は明瞭に認められた。放射組織は顕微鏡でようやく認められる大きさであった。形状は単列同性を示し,平伏細胞から構成されており,高さは4～10細胞高であった。たまに2列の複列放射組織になるものも認められた。クリ属と近似であるコナラ属との大きな違いは,コナラ属には認められる広放射組織が見つからなかったためにクリ属と同定できた。また,最も酷似するブナ科シイノキ属のスダジイとの違いは,孔圏の道管配列が識別の拠点であり,スダジイでは単列と多列が認められるが,本試料の場合,多列のみであるところからクリと識別した。サンプル中,クリ属は最も多く出現し,資料45点のうち29点が該当した。クリは耐水性,耐久性が高く,現在でも杭木に使用されており,樹種特性に応じた使用が過去にも適用されていたと言える。出土木材の中にもミクロトーム切片法で使用できるくらい十分な硬さを保持していた試料も散見された.

カキノキ科カキノキ属 (*Diopyros*)(写真11～13)

散孔材である。道管は散在状に分布し,単独もしくは放射方向に2～3個の複合管孔を形成している。道管は肉眼でもかろうじて認められる大きさで,約100～200μmの直径であった。道管は単穿孔であり,柾目断面には道管壁孔の交互状配列が認められた。放射組織は顕微鏡でようやく認められる大きさで,上下辺縁部に直立細胞1個を配し内部に平伏細胞が2列存在する異性型の放射組織が多く認められ,また直立細胞を主とした単列同性(細胞高4～5)の放射組織も認められたことから異性Ⅱ型と言える。カキノキ属にはヤマガキ,シナノガキ,トキワガキの種が該当する。

イヌガヤ科イヌガヤ属 (*Cephalotaxus*)(写真14～16)

試料中,唯一の針葉樹であった。木口面では仮道管が90%以上を占め,残りは単列の放射組織が認められた。年輪界は明瞭である。早晩材の移行は不明瞭で,晩材仮道管の判別が難しく存在は極めて少なく3～数列程度であった。早材仮道管の細胞内孔には濃色の樹脂が充填したものも見られた。柾目断面でみると識別の拠点であるトウヒ型分野壁孔が分野内に1～2個認められた。また早材仮道管断面にはらせん肥厚が著しく,対状に配列していた。これはイヌガヤ科とイチイ科のカヤ属に一般的に出現する特徴である。板目断面での放射組織は単列で2～4個の細胞高であり,いずれも円形及び広楕円形の細胞型を示していた。イヌガヤ属にはイヌガヤ,ハイイヌガヤが該当するが,ハイイヌガヤの分布は主として北海道,本州,四国以北であり可能性は薄い。

参考文献

1) IAWA委員会, E. A. Wheeler, P. Bass&P. E. Gassn (1998) 広葉樹材の識別, 海青社.
2) 古野毅, 澤辺功編 (1994) 木材科学講座2, 組織と材質, 青海社.
3) 島地謙 (1977) 木材解剖図説, 地球社.
4) 島地謙, 伊東隆夫 (1998) 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣.
5) 小林弥一, 須藤彰司 (1960) 木材識別カード, 日本林業技術協会.
6) 田中克己, 浜清 (1963) 顕微鏡標本の作り方 (第5版).
7) 竹村嘉夫 (1964) 接写と顕微鏡写真, 共立出版.
8) 北村四郎, 岡本省吾 (1959) 原色日本樹木図鑑, 保育社.

和　名：クマシデ属
学　名：*Carpinus*
科　名：カバノキ科（BETULACEAE）

写真１

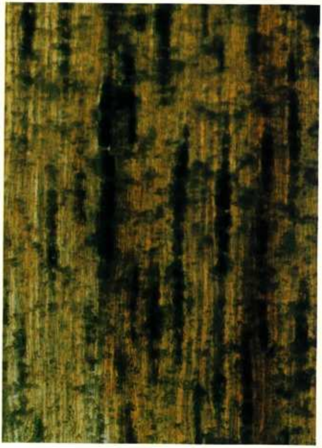


写真２

写真３

写真４

写真１：木口面（ 40倍）
写真２：板目面（100倍）
写真３：柾目面（100倍）
写真４：道管の階段穿孔（400倍）

和　名：アカガシ亜属
学　名：*Cyclobalanopsis*
科　名：ブナ科(FAGACEAE)

写真5

写真6

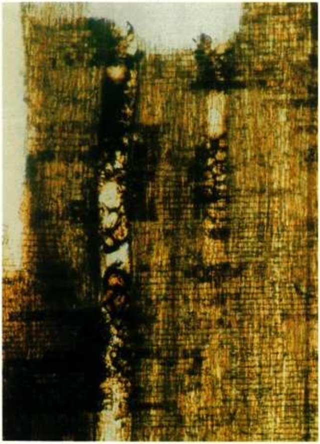


写真7

写真5：木口面（40倍）
写真6：板目面（40倍）
写真7：柾目面（40倍）

和　名：クリ属
学　名：*Castanea*
科　名：ブナ科（FAGACEAE）

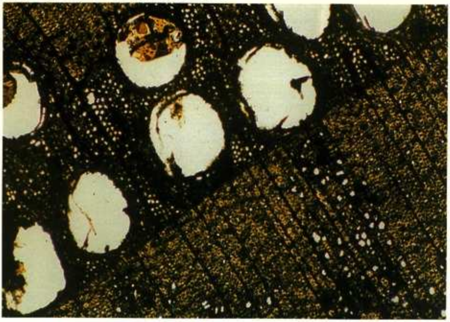


写真8

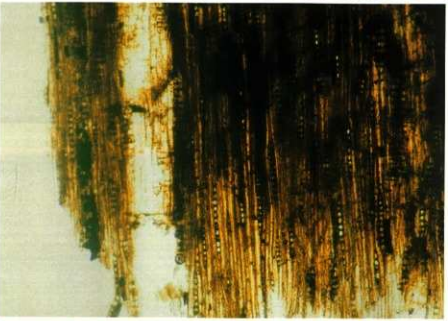


写真9

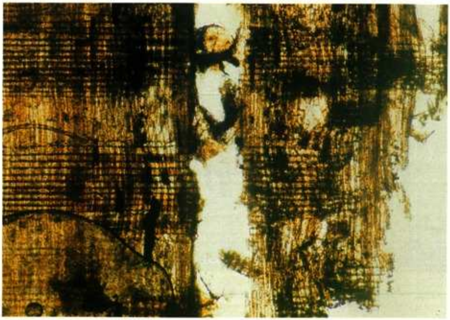


写真10

写真8：木口面（40倍）
写真9：板目面（100倍）
写真10：柾目面（100倍）

和　名：カキノキ属
学　名：*Diopyros*
科　名：カキノキ科（EBENACEAE）

写真11

写真12

写真13

写真11：木口面（ 40倍）
写真12：板目面（100倍）
写真13：柾目面（100倍）

和　名：イヌガヤ属
学　名：*Cephalotaxus*
科　名：イヌガヤ科（CEPHALOTAXACEAE）

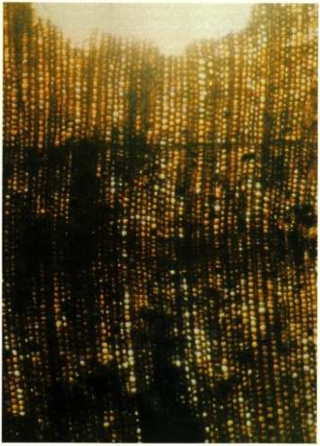


写真14

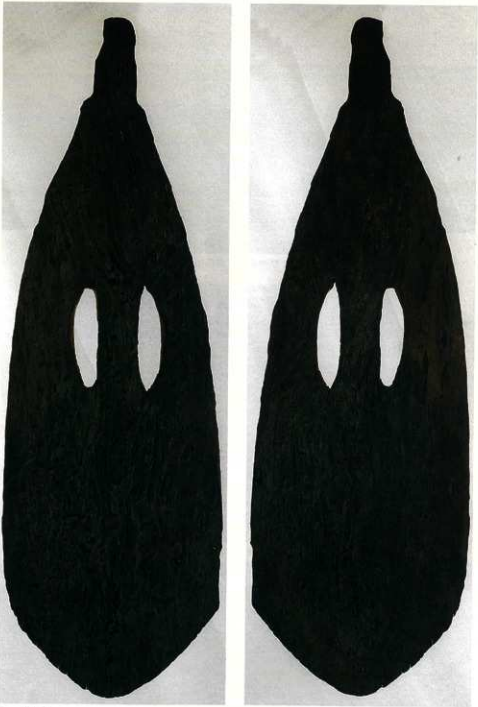
写真15

写真16

写真14：木口面（ 40倍）
写真15：板目面（400倍）
写真16：柾目面（100倍）

図　　版

PL. 1　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介 1

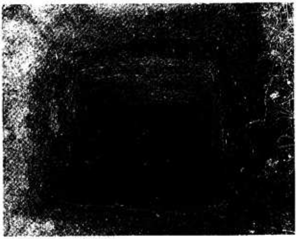


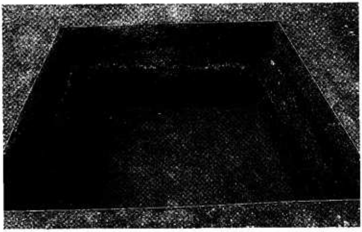
1　鋤 1

2　容器 3

PL.2　桜ヶ丘団地G-7区における試掘調査

1　調査地点全景


2　2トレンチ完掘状況


3　1トレンチ完掘状況

4　1トレンチ北壁

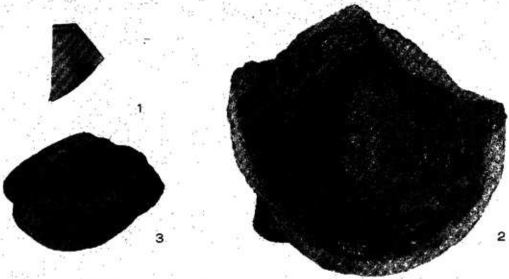
5　調査終了後全景

1 97-A （同窓会館，記念館西側）調査地点

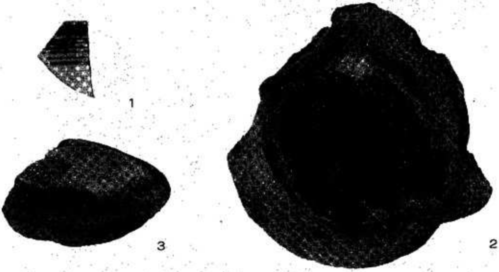
2 97-B（農学部連合農学大学院建物西側）調査地点

3 97-E（C地点）調査地点

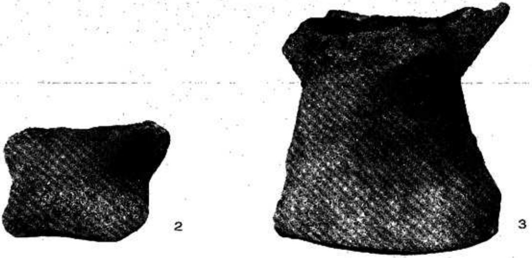
PL.4　立会調査2



1　出土遺物（表）



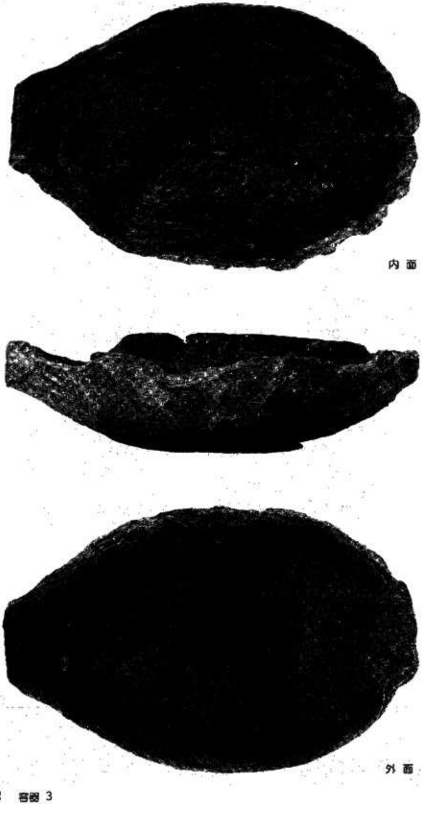
2　出土遺物（裏）



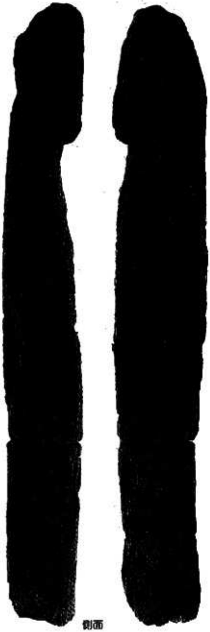
3　出土遺物（側面）

PL.５　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介２

1　鋤 2

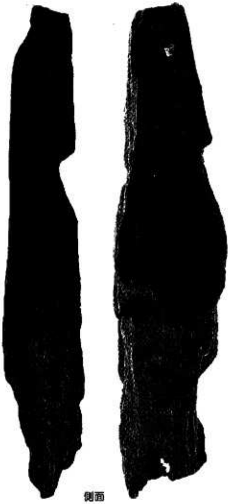


2　容器 3



側面

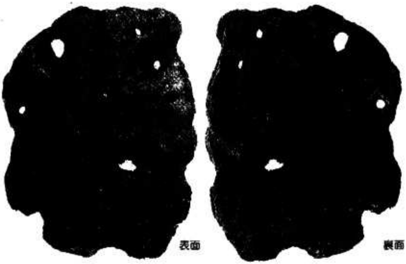
1　用途不明品 4



側面

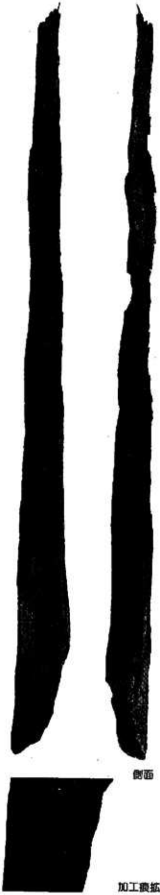
2　用途不明品 5

3　サルノコシカケ a



表面　裏面

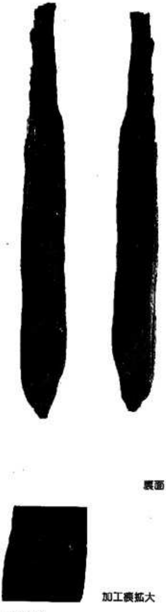
4　用途不明品 b



側面

加工痕拡大

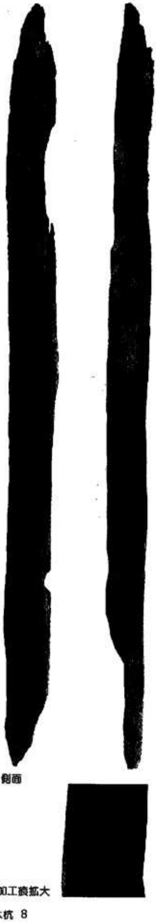
1　木杭 6



裏面

加工痕拡大

2　木杭 7



側面

加工痕拡大

3　木杭 8

PL.8　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介5

1　木杭 9

2　木杭 10

3　木杭 11

4　木杭 12

PL.9　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介6

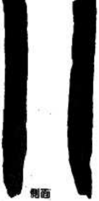
1　木杭 13

2　木杭 14

3　木杭 15

4　木杭 16

5　木杭 17



6　木杭 18

7　木杭 19

8　木杭 20

1　木杭　21

2　木杭　22

3　木杭　23

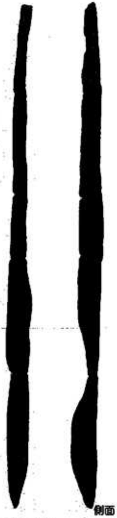
4　木杭　24

5　木杭　25

6　木杭　26

7　木杭　27

8　木杭　28



9　木杭　29

PL.11　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介8

側面拡大

側面拡大

1　木杭 30　　2　木杭 31　　3　木杭 32　　4　木杭 33

1　木杭　34

2　木杭　35

3　木杭　36

4　木杭　37

5　木杭　38

6　木杭　39

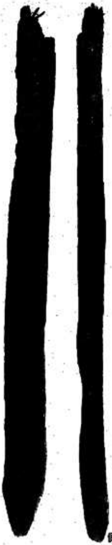
7　木杭　40

穿孔部拡大

側面

8　木杭　41

PL.13　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介10



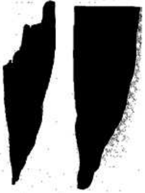
1　木杭　42

3　木杭　44

4　木杭　45

7　木杭　48

2　木杭　43



5　木杭　46

6　木杭　47

8　木杭49

PL.14 郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介11

1 木杭 50

2 木杭 51

側面

3 木杭 52

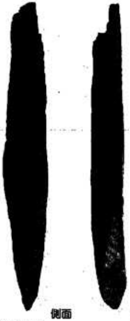
4 木杭 53

5 木杭 54

8 木杭 57

側面

6 木杭 55



側面

7 木杭 56

PL.15　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介12

1　木杭 58

2　木杭 59

3　木杭 60

4　木杭 61

5　木杭 62

6　木杭 63

7　木杭 64

8　木杭 65

9　木杭 66

10　木杭 67

1　木杭　68

2　木杭　69

3　木杭　70

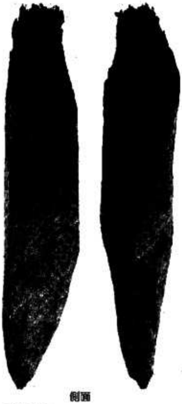
4　木杭　71

5　木杭　72

6　木杭　73

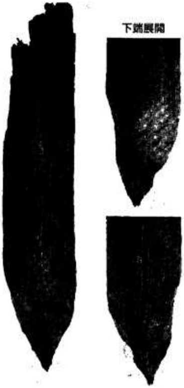
7　木杭　74

PL.17　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介14

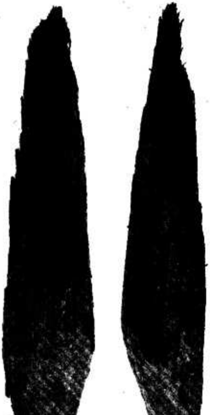


1　木杭 75

3　木杭 77



4　木杭 78

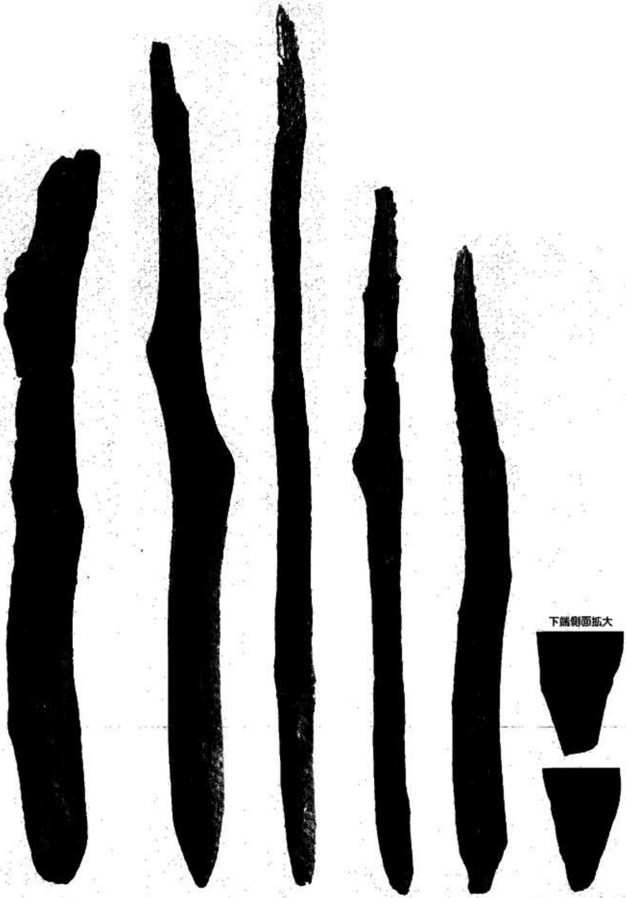


2　木杭 76

5　木杭 79

6　木杭 80

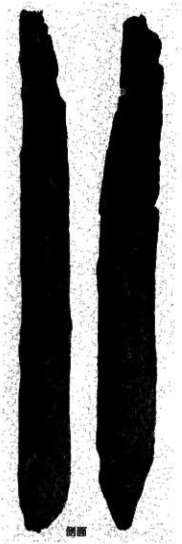
PL.18　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介15



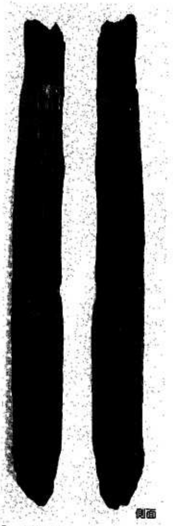
1 木杭 81　2 木杭 82　3 木杭 83　4 木杭 84　5 木杭 85

PL.19　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介16

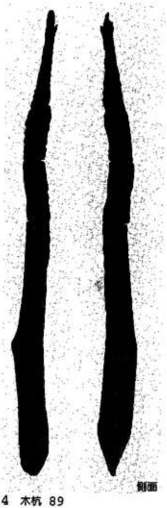
1　木杭 86



2　木杭 87

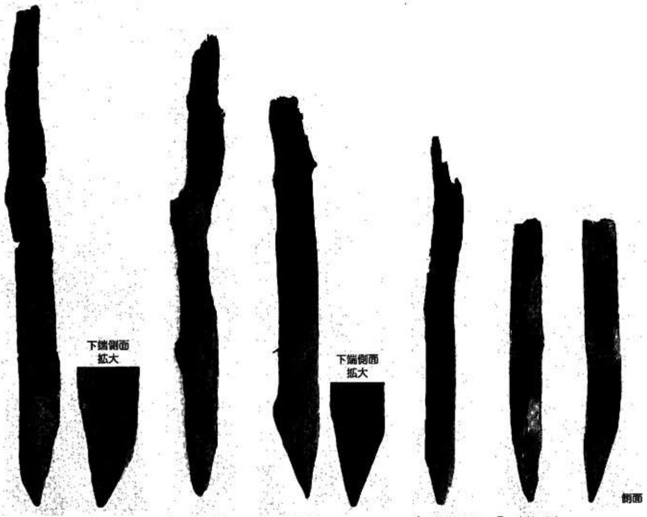


3　木杭 88



4　木杭 89

PL.20　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介17



1　木杭　90　　2　木杭　91　　3　木杭　92　　4　木杭　93　　5　木杭　94

6　木杭　95　　7　木杭　96　　8　木杭　97　　9　木杭　98　　10　木杭　99　　11　木杭　100

PL.21　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介18

1　木杭 101

2　木杭 102

5　木杭 105

3　木杭 103

4　木杭 104

6　木杭 106

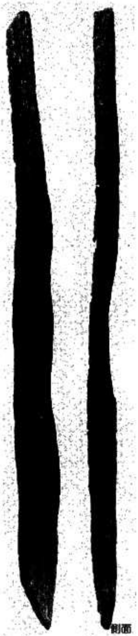
7　木杭 107

8　木杭 108

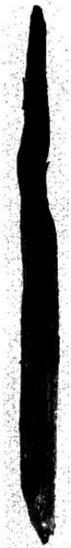
PL.22　郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介19

1　木杭109

2　木杭110



3　木杭111



4　木杭112

5　木杭113

6　木杭114

7　木杭115

SUMMARY

This is the report of the rescue excavations and surveys of the sites in the campuses of Kagoshima University. Kagoshima University Archaeological Research Center made them for the duration from April 1997 to March 1998. This report also includes the report and analysis of wood tools excavated at Area H-11 in Korimoto Campus in two appendixes.

EXCAVATION IN KORIMOTO AND SAKURAGAOKA CAMPUSES

The center carried one excavation and five surveys in Korimoto campus. In Sakuragaoka campus, we carried one test survey. They are all rescue archaeological surveys. This report includes detail results of the test excavation and field surveys. In Korimoto campuses, Area J · K-10 · 11 we found the layer of wet-rice field of Yayoi Period, and another layer included many potteries of Jomon period. In Sakuragaoka campus, Area G-7 we could not find any artifacts there.

APPENDIX1 REPORT AND ANALYSIS OF WOOD TOOLS EXCAVATED AT AREA H-11 IN KORIMOTO CAMPUS

Archaeological Research Center made a rescue excavation from December 20, 1993 to April 16, 1994, before the construction of a building at Research and Development Center. Three ancient rivers were found, and the wood tools of Yayoi period were found in the river RI1. The tools were two wooden spade-shoes, a wooden bowl and about five hundred sixty wooden piles. It is possible that the wooden piles were built for the water gate of irrigation. Forty-five wooden piles were analyzed by identification of speceis.

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうじゅうさん
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 13
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	中村直子・大西智和・鮎川章子
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒890-8580　鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号 TEL　099-285-7270
発行年月日	西暦1999年3月

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m²)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 こおりもとだんち 郡元団地　H-11区	かごしましこおりもと 鹿児島市郡元 いっちょうめ にじゅうばん ろくごう 一丁目20番6号	4620		31 34 11	130 32 48	19931220 ~ 19930325	737	建物建設
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 さくらがおかだんち 桜ヶ丘団地　G-7区	かごしましさくらがおか 鹿児島市桜ヶ丘 はっちょうめさんじゅうごばんいちごう 八丁目35番1号	4620				19980309 ~ 19980317	10	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鹿児島大学構内遺跡 郡元団地　H-11区	河川跡	弥生 古墳 中世 近世	河川跡	弥生土器 古墳時代の土器 土師器 陶磁器 木製品・木杭	
鹿児島大学構内遺跡 桜ヶ丘団地　G-7区					

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 13

1999 年 3 月発行

編集・発行　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号
TEL　099-285-7270
印刷　斯文堂株式会社
鹿児島市南栄 3 番 1 号
TEL　099-268-8211

Kagoshima University Archaeological Research Center Report Vol.13

CONTENTS

Chapter

1 Report of archaeological research In fiscal year 1997 1

2 The test excavation at Area G-7 in Sakuragaoka Campus 6

3 Reports of rescue surveys 8

Appendix

1 Report of wood tools excavated at H-11 in Korimoto Campus 23

2 Identification of species of wood tools excavated at Area H-11 in Korimoto Campus 64

Published by

Kagoshima University Archaeological Research Center

1999

〒890 市郡元一丁目21番24号

児島大学

埋蔵文化財調査室

TEL099-　-7270

FAX099-285-7271